

平成25年度

KENKO シラバス

(授業計画書)

(第1学年用)



広島県立広島工業高等学校

目 次

はじめに		
7 D		

平成	戈25 年	三度	入音	学	者:	教	育	課	程		•	•	•	•	•	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
· 宝	普通教 語	科	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•			•	•		•	•	•	•	•	•		•		•	•	6
地理	里歴史	1 • .	公]	民		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	10
数	学	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	12
理	科	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	16
保候	建体育	Í	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	18
芸	術	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	22
外	国語	<u>.</u>	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	26
(厚門耈	私)																														
機	械	科		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	29
電	気	科		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	43
電建	気築	科科		•		•			•	•	•								•												•	•	4359
				•													• •														•		
建土	築	科科			•											•	• •																59
建土化学	築 木 ^{全工学}	科科科		•												•	• •														•		59 77
建 土 化 (*	築木	科科科動																															59 77
建土化学	築 木 之工学 	科科科動														•																	59 77 93

はじめに

広島県立広島工業高等学校 校 長 田 口 裕

これまで日本のものづくり産業を担う優秀な人材を数多く輩出してきたのは、いうまでもなく工業高校です。これからも、この役割に大きな変化はないでしょう。それを裏付けるように、就職状況が厳しい中にあっても工業高校への求人状況は大きく減少していません。また、これまで景気が悪くなると、大学進学を希望する割合が高くなる傾向がありましたが、本校では3年前から年を追う毎に1割ずつ就職希望者が増えおり、平成25年春に卒業する生徒については約八割が就職を選択しています。これは工業高校が普通科に比べ多様な進路選択ができ、とりわけ就職する場合には大変有利であることが生徒・保護者の皆さまに理解していただいた結果だと思っています。

このシラバスは、生徒の皆さんが本校で学ぶ時に必要な羅針盤です。授業の内容・目標、単位数、年間授業時間数、使用テキスト、学習方法、評価方法などがコンパクトにまとめられています。これを見れば、何を目的として何時間で学習するのか。評価基準はどうなっているのか。更には学校として生徒の皆さんに何を期待しているのかが分かるように工夫しています。従って、科目を選択するときや学習者が計画的に学ぶときに役立つと思いますのでしっかりと活用してください。大切なのは「志は高く」持ち、「具体的な目標」を持つことです。目標が決まれば、後は生徒の皆さん一人一人が、自分が将来なりたい職業を実現するために、各教科・科目の「年間授業計画」をもとにして、それぞれの学習計画を作り、学校での学習、家庭での学習を自主的・自発的に実践することです。そうすれば、希望する進路に進むことができるでしょう。

本校は明治30年に創立され、115年の間に約三万五千人余りの優秀な人材を社会に送り出した歴史と伝統のある工業高校です。このような学校で学ぶことに誇りと自信を持ち、「県工に来て良かった。」といえるように、日々の生活を大切にし、勉学にクラブ活動に努力を惜しまないでください。きっと明るい未来を拓くことができるでしょう。

平成25年度入学者教育課程

機械科

	機械科																					
	1 2	3	4	5	6 7	8 9	10 #	# 13	14	15	16	17	18	19	20	21	22 #	# 25	26	27	28 29	30
1 年	国語総合	世界	史A	1	数学 I	科学と 人間生活	体育	保健	芸	術	コミュニケ	ーション英	語 I		工業基	技術 礎	盘	情	報技術 基礎	材	幾械工作	特活
2 年	国語総介	合	地理	!A	数章	, ≱ II	物理基礎	体育	保健		ケーション 語 II		実習			製図	横ユ	機工作	機械設	計	生産 システム 技術	特活
3 年	国語表現	現	現代社	注会	数学A	体育	コミュ ニケー ショヨ 英語 II	家庭基礎		学B 図	コミ ケー: 英 生 シ 技	ション 吾Ⅱ 産 テム	100	果題研究	Z		実習		機材	戒設計	原動機	特活
					子コース・			# 10	- 14	15	10	17	10	10	00	0.1	00 1		- 00	07	00 00	- 00
1 年	1 2	世界	生 4	5	6 7 数学 I	8 9 科学と 人間生活	体育	# 13	14	15		17		製図	20 工業基	技術		# 25 情報技 術 基礎				30 特活
電力電子	国語総合	合	地理	!A	数章	 ŽI	物理基礎	体育	保健		ケーション 語 II		実	習		製図	電気基礎	電子技術	-	ā機器 言技術	電力技術電子情報技術	5 特活
情報									7胜										ハード	ウェア技術	ソフトウェア技術	F
電力									数電気	学B i機器	電力	技術							電力技	術		
3電	9 -7-1	-	TE / 15.4		数学A	体育	コミュニケー	家庭	^{ア群} 数	学B	38157-			田田工用力			実習				電マサ化	4+ >=
年子	国語表現	兄	現代社	IZ.	致子A	144月	ション 英語 II	基礎		技術	電子情	報技術	ā	果題研究	6		夫百	電	力技術	基礎	電子技術	特活
情報									数	学B アエア技術	ソフトウ							(4	一伙政ル	(14日)		
	建築科								7. 1.5	/ ± / 1X HI	721.7	1 / 1Xm										
	1 2	3	4	5	6 7	8 9	10 #	# 13	14	15	16	17	18	19	20	21	22 #	# 25	26	27	28 29	30
1 年	国語総合	世界	史A	***	数学Ⅰ	科学と 人間生活	体育	保健	芸	術	コミュニケ	r−ション英	語 I	工業技		実	習事		報技術 基礎	建築	建築 構造 構造 設計	特活
2 年	国語総合	合	地理	!A	数章	ŽⅡ	物理基礎	体育	ア群保健		ケーション 語 Ⅱ		実	2習		41	製図	建築構	造 建築 計画	建築	構造 建築計 施工	
3 年	国語表現	現	現代社	社会	数学A	体育	コミュ ニケー ショヨ 英語 II	家庭基礎	ア群 数 建築 計画		コミ ケー? 英 禁 エ	ション		課題	研究		製図	建	築計画	建築施工	建築法規	特活
	土木科											故前										
	1 2	3	4	5	6 7	8 9	10 #	# 13	14	15	16	17	18	19	20	21	22 #	# 25	26	27	28 29	30
1 年	国語総合	世界	史A		数学 I	科学と 人間生活	体育	保健	芸	術	38127	アーション英	語I	工業技		実	習力	情報 技術 基礎	測量	麦	土木 基礎力学	特活
2 年	国語総合	合	地理	!A	数章	ŽⅡ	物理基礎	体育	保健		ケーション 語 Ⅱ	実	習	製	3		測量		土木施	įΙ	土木基礎力学	特活
3 年	国語表現	現	現代社	1会	数学A	体育	コミュ ニケー ショエ 英語 II	家庭基礎	土木	学B :構造 :計	コミ ケー: 英語 社会 エ	吾Ⅱ 基盤	ā	果題研究	ĩ	実	習	ŲZ	土木施	įΣ	土木基礎力学	特活
	化学工学	科 3	4	5	6 7	8 9	10 #	# 13	14	15	16	17	18	19	20	21	22 #	# 25	26	27	28 29	30
1 年	国語総合	世界	史A	***	数学Ⅰ	科学と 人間生活	体育	保健	芸	術	コミュニケ	r−ション英	語I		工業基	技術 礎	打	情報 技術 基礎	工業化	;学	化学工学	特活
2 年	国語総介	合	地理	!A	数章	ŽⅡ	物理基礎	体育	ア群 保健		ケーション 語 II			実習	3			工業化学	化等	学工学	セラミック 化学	特活
3 年	国語表現	現	現代社	社会	数学A	体育	コミュ ニケー シ芸語II	家庭基礎		学B 	コミ ケー: 英語	ノョン 吾I		課題码	研究		3	[習	#	製図	工業化学	特活

普 通 教 科

数别	———— 科名		 科目名	履修学年	履修区分	単位数
	語		語総合	1 学年	必履修	2 単位
目	····· 標	国語 ともに,	を適切に表現 思考力を伸り	し的確に理解する	能力を育成し伝 し,言語感覚を磨	え合う力を高めると き、言語文化に対す
——— 使用	教科書			と 	Lで囚る忠反で 月	() ·
副教材。	• 教具等	副教材	「④~②級	と 漢字の学習」((三省堂)	
			授	業計	画	
進行	授業			<u> </u>	標・	
4 月	文学的文	•		方を習得する。		
	-	の読解			目を向け、これ	からの高校生活への
5 月	・世界は		抱負を新た	, - 9		
	ちてい	る	・文明国で生	活する中で「体の	声を聞く」ことし	にどういう意味があ
	・体の声	を聞く	るのか、自	己に引きつけて考	える。	
	文学的文	章	・古文に親し	みを持ち、話のお	もしろさを理解す	する。
	(古文)	の読解	・話の構成や	P展開を把握し,登	場人物の行動や	心情を読み味わう。
	・児のそ	ら寝	• 歴史的仮名	造い・文語文と口	語文の違い・品語	詞の種類について理
	三文に	て歯二	解する。			
	っ					
			・4級1回~6	口		
	漢字の学	習				
	 中間考査	Ė				
	文学的文	····· 章	・近代の代表	的な小説を読んで	、基本的な読解	方法を習得する。
6 月	-	の読解)性格・心理・行動		
,	・羅生門			こついての理解を深		- 0
7 月		•				描かれていることを
			理解する。			
				`に対する理解を深	める	
			JI J I BE & JI			
	 文学的文	*音	• 随筆を読ん	で 人間 社会な	・ビに対する作者の	の思想や感情を読み の思想や感情を読み
		の読解		/ C、八向、江云な		
	・つれつ			Fを構成や展開に即	11 て的強に切ら	Z
	ままに			F色を理解し、優れ		-
			* 衣切上の代	7色を理解し、愛和	だ衣切に祝しむ。	
	・仁和寺	・にめる	4 1/17 (5)	100		
	法師 		・4級7回〜 	7 1 2 凹		
	 漢字の学	習				
	期末考查	İ				

[論理的文章の読	 ・二項対立的な評論の読解方法を習得する。
8月	解解	・西洋文化と対比された、日本文化の特徴について理解を深める。
9月	・水の東西	・幅広く柔軟な思考力を養う。
		・日本文化の特徴について、興味・関心を持つ。
		・漢文に親しみをもち,漢文の構造を理解し,漢字・漢語の正しい
	文学的文章	意味・用法を理解する。
1 0月	(漢文) の読解	・訓読のきまり、書き下し文のきまりを理解する。
	・訓読に親しむ	・古代中国人のものの見方・考え方を知り、それとの比較を通して
	(一) (二) (三)	,日本文化をより深く理解する。
		・漢文訓読の基本事項を確認しながら、平易で短い文章を読み、漢
	・五十歩百歩	文の内容を理解する。
	・矛盾	・訓点に従って、漢文を正しく読み、書き下し文に改める。
		・故事成語のもとになった話の内容を捉え、故事成語の現在使われ
	 漢字の学習	ている意味について理解する。
		 ・4級13回~14回*3級1回~4回
	中間考査	
	文学的文章	・昔話としてなじみのある作品を読み、古文に親しむ。
11月	(古文)の読解	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	・なよ竹のかぐ	・現代に通じるテーマをもった文章を読み、古文に親しむ。
	や姫	・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。
	・絵仏師良秀	・芸術至上主義や職業意識について話し合い,理解を深める。
		・短編小説の基本的な読解方法を習得する。
		・登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。
12月	文学的文章	・現代小説に触れ、小説を自分に引きつけながら読む姿勢を養う。
	(散文)の読解	
	・とんかつ	- 3級5回~10回
	漢字の学習	
	期末考査	
1 月	文学的文章	・説話を読み、話のおもしろさを理解する。
	(古文)の読解	
	・観音のご加護	・話のおもしろさについて話し合い,理解を深める。
	J	

2 月	俳句創作	・標語・俳句を創作し、互いに鑑賞し、コンクールに応募する。 ・論理的要素を持つ随想を的確に読解する。
	論理的文章の読解 ・日本語万華鏡	・日本語と外国語との違いを認識し、いま外国語を学ぶことの意義を自分の問題として考える。
3 月	文学的文章 (漢文)の読解 ・漁 夫之利	 ・漢文訓読の基本事項を確認する。 ・平易な短い文章を読み,漢文の内容を理解する。 ・訓点に従って,漢文を正しく読み,書き下し文に改める。 ・故事成語のもとになった話の内容を捉えたうえで,現在使われている意味について理解する。 ・古代中国人のものの見方・考え方を知り,それとの比較を通して,日本文化をより深く理解する。
	漢字の学習 学年末考査	• 3級11回~12回*準2級1回~4回
	一十八つ旦	
	①普段からできる	るだけ本に触れ、読書習慣を身につけて欲しい。
履修者	②何事も受け身で	ですませるのではなく,自ら考え,自ら学ぶ態度を養って欲しい。
へ一言	③年3回,本校	を会場とする漢字能力検定試験に合格できる力を養って欲しい。
	④ことばを使う。	ときの場意識・相手意識を高めて欲しい。

「科目全体の観点別評価基準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	評価の観点および趣旨	国語で伝え合う力 を進んで高めると ともに、言語文化 に対する関心を深 め、国語を尊重し てその向上を図 うとする。	目的や場に応じ 効果的に話し, 的確に聞き合った りして,自分の 考えをめている。	相手や目的、意 図に応じた適切 な表現による文 章を書き,自分 の考えをまとめ 深めている。	文章を的確に読 み取ったりの幅に読 的に応んだりして く読分の考えを 深め、発展させ ている。	伝統的な言語文 化及び言葉の特 徴やきまり,漢字 などについて理 解し,知識を身に 付けている。
評	価における比率(%)	20%	20%	20%	20%	2 0 %
評価	定期考査				50%	70%
資料	小テスト					30%
およ	授業の取り組み・姿勢	40%	50%		50%	
び 評	提出物	40%		50%		
価の	作文・小論文			50%		
割合	発表	20%	50%			

評価の観点および評価規準

F1 PH 1/ PM	点および評価規算 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	・評論文を読み, 筆者	・事実と意見との区別	・文章の論理の展開や	・論の展開や文章構成	・文章や文章成, 語句
	の独自な視点に注目	に注意し, 筋道を立て	要旨を的確にとらえ、	に注意して,筆者独自	の働き,表記の仕方な
	し、書かれている内容	て話すことができる。	それに対する自分の考	の視点や考え方を読	どを理解している。
論理的 文章	について思考を深めよ	・発表を聞いて適切に	 えを筋道を立てて書く	み取ることができる。	・常用漢字の読みに慣
人早	うとしている。	 評価をすることができ	ことができる。		 れ,主な常用漢字が書
		る。			けるようになる。
					, 11, 7, 1, 1, 1
	・小説や随想に親し	・主題や論旨が明確に		・文章に描かれた人	
	み,表現の意図や特	なるように、構成を工夫		物,情景,心情等を表	
	色を捉え,豊かな思考	して話すことができる。	にとらえ,必要に応じて	現に即して読み味わ	などを理解できている。
文学的	力を育て, 社会や人間	・発表を聞いて適切に	要約したり, 感想をまと	い,ものの見方,感じ	・常用漢字の読みに慣
文章	に対しての自分なりの	評価をすることができ	めたり,自分の考えを	方, 考え方を広くし, 人	れ,主な常用漢字が書
【散文】	考えを持とうとしてい	る。	筋道を立てて書くこと	間,社会,自然などに	けるようになる。
	る。		ができる。	ついて考えを深めるこ	
				とができる。	
	・詩, 短歌, 俳句などの	・優れた表現に接して	・自分の感じたこと考え	・形態に応じた表現上	・形式、語句の働き、
	韻文を身近なものとし			の特色, 文体の特徴な	
文学的	て親しみ, 詩情を味			どに注意して読むこと	
文章	わおうとしている。	ができる。	として表現することがで		・常用漢字の読みに慣
【韻文】	1,2,40,000	, CC 20°	きる。	, CC 20°	れ、主な常用漢字が書
			C 20		けるようになる。
					17 26712.420
				•音読,朗読,暗唱等	
		果的に話したり、朗読		を通して、古文に親し	を理解している。
		したりすることができ	,		
文学的 文章	いる。	る。	要約したり感想をまと		
【古文】			,	を読み取ることができ	
			筋道を立てて書くこと	る。	
			ができる。		
	漢文を楽しんで読もう	・目的や場に応じて効	・文章の構成や展開に	・音読, 朗読, 暗唱な	・文章のきまり、訓読の
	としている。	果的に話したり, 朗読	即して,主題や要旨を	どを通して, 漢文に親	きまりなどを理解してい
		したりすることができ	的確にとらえ,要約し	しみ,作品を読解し	る。
文学的		る。	たり, 感想をまとめた	て,中国古代の人々の	
文章			り, 自分の考えを筋道	知恵や生き方を読み	
【漢文】			を立てて書くことができ	取ることができる。	
			る。		

教和	<u></u> 斗名	科	 目名	履修学年	履修区分	単位数
地理	歴史科	世界	Ų史А	1 学年	必履修	2 単位
		近現代史	を中心とする	・ ・世界の歴史を諸資料に	こ基づき地理的条件	や日本の歴史と関連づけ
目	標	ながら理解	させ,現代 <i>の</i>	諸課題を歴史的観点	から考察させること	によって、歴史的思考力
		を培い、国	際社会に主体	的に生きる日本国民	としての自覚と資質	を養う。
使用	教科書	新版 世	上界史A (実	三教出版)		
副耈	材・	プリン	<u> </u>			
主な	教具等					
実験実	習の場所	HR教室				
			授	業計	画	
進行	授業	約容		目	標	
	序章 世	比界史への	人類の歴史の	の大まかな枠組みを把	握し,歴史に関する	興味を持つ。
4 月	いざない	`				
	第1章	ユーラシ	東アジア・南	南アジア・東南アジア	・西アジアの各世界	が、いかなる風土の中か
5 月	ア諸文明	月と交流	ら形成され,	どのような特色をも	つに至ったかを成立	・発展をとおして把握す
	中間考査	Ē	る。			
	第1章	ユーラシ	西アジア・ス	ナリエント世界・地中	海世界が,いかなる	風土の中から形成され,
0 1	ア諸文明	月と交流		寺色をもつに至ったか		
6 月					教の一体化によって	形成されたヨーロッパ世
7 日		_	界の特質を理	里解する。		
7 	期末考查					
						がアメリカ・アジア・ア
9 月	向かり世 	比界と日本			築こうとしたかを考	察しつつ, そのかかわり
				里解を深める。	さい つい 一田 毎日ナ 河	11. 7
1 0月	中間考査	.	杷灯土莪凷ミ	家成立と世界の結びつ	さについて埋解を保	.める。
			次十十美社/	会の確立について学ぶ	近代古民社会の成立	
	第3章 パ・アメ			文策について学ぶ。南‡		
		上界の変動		者国のアジア進出によ		
1 1月	' ' '	現代世界				な社会の変化に着目し、
	のあゆみ			原型が成立したことを		
1 2月	期末考查	Ē				
	第4章	現代世界	第一次世界力	大戦から1920年代の国	 際政治の大きな流れ	 lを理解し, 国際社会の枠
	のあゆみ	L.	組みの変化に	こついて理解を深める	。世界恐慌の対応の	差異から第二次世界大戦
1 月			に至ったこと	とを理解し, 国家間の	あり方について考え	る。
	第5章	第二次世	米ソの対立と	と戦後の国際関係につ	いて理解する。民族	の独立と第三世界の台頭
2 月	界大戦後	後の世界	について理角	解を深める。東西対立	の終焉と東側陣営の	崩壊について理解する。
0 1	-		現代社会が持	寺つ問題点について理	解を深める。	
3 月	学年末考	查				
	- A- E-	s.Homo 2	N-12-1-1-1-1	la law a law and books	Arren a	~774~ N R 2
尼华士					新聞やニュースなど	で現在の世界のできごと
履修者			努めていこう。 Modernesses		661ヶ津でいまる	
へ一言				されているので,積極		羽していころ
	• 授業(に吊に集出し	, 知りない。	ことを知ってやろうと	いり息似をもつて字	育しくいこり。

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	評価の観点	世界の歴史に対す	多面的・多角的に	追究し考察した過	基本的な事柄を理
	および趣旨	る関心と課題意識	考察し、公正に判	程や結果を適切に	解し、その知識を
		を高め追究する。	断する。	表現する。	身に付けている。
評	価における比率(%)	30%	20%	10%	4 0 %
評	定期考査				
価			30%	30%	60%
資	授業の取り組み姿勢				
料		5 0 %	3 0 %	30%	
お	提出物				
ょ		4 0 %	20%	3 0 %	30%
び	授業の中の発表				
評		10%	20%	10%	10%
価					
0					
割					
合					

	からし 可 画が 作士	pro de la contra de la contra	VI- In the Indian	/ =H !
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
序章	世界史を自然環境と歴	自然環境と日本史・世	地図・写真・年表等を活	自然環境と人類の活動
世界史への	史, 日本史と世界史の	界史のつながりにかか	用し,世界史を地理的諸	が相互に作用し合って
いざない	つながりという視野で	わるさまざまな主題に	条件や日本史と関連付	いることを理解できる。
	考えることができる。	ついて考察できる。	けることができる。	
第1章	各文化圏がどのような	古代社会の特質につい	各文化圏の広がりと交	各文化圏の成立過程と
ユーラシア	自然条件の中から成立	て理解を深め、現代社	流を地理的視野に立っ	特色が理解できる。東ア
諸文明と交	したかを考えることが	会との違いについて考	て把握することができ	ジア世界では,日本との
流	できる。	察できる。	る。	関連を理解できる。
第3章	異文化との出会いが人	ヨーロッパ諸国の世界	ヨーロッパ諸国の世界	中世社会からの脱皮に
一体化に向	々の生活にいかなる影	進出が及ぼした影響を	進出にともなう大西洋	ついて理解できる。「一
かう世界と	響をあたえてきたかを	今日的視点から考える	を中心とする三角貿易	体化」の影響について世
日本	考察できる。	ことができる。	やアジア貿易を, 把握で	界的視野で理解できる。
			きる。	
第4章	時代の大きな転換点で	現在の日本に大きな影	自由・平等・基本的人権	近代市民社会の成立と
欧米の諸革	人々はどう生きたかを	響を及ぼしている欧米	の尊重という民主主義	発展について理解でき
命と世界の	考えることができる。	の合理的思想や諸制度	の成立過程を史料から	る。非ヨーロッパ地域の
変動		について考察できる。	把握することができる。	苦悩について理解でき
				る。
第5章	二つの大戦のなかで日	世界平和実現のために	大国の世界戦略を中心	二つの世界大戦の原因
現代世界の	本がどう考え,行動し	どう考え, 行動すべき	とする世界の関係を, 歴	とその影響, アジアの民
あゆみ	たかを客観的に考える	かについて考えること	史の転換点ごとに地理	族運動, 冷戦と終結につ
第6章	ことができる。	ができる。	的に把握することがで	いて理解できる。
第二次大戦			きる。	
後の世界				

教	(科名	科目	名	履修学年	履修区分	単位数
数	文学	数	学 I	1 学年	必履修	3 単位
		数と式,	2次関数,	図形と計量及びデ	ータの分析につい	ママ で で で で で で で で で で で で で で で で で で
目	標	な知識の	習得と技能	の習熟を図り、それ	れらを的確に活用	する能力を伸ばすと
		ともに,	数学的な見る	方や考え方のよさを	を認識できるよう	にする。
使用	教科書	最新 数学	I(数研出版	(i)		
	女材 •		ノート 数学	·		
主な	教具等		. ,,,,,			
	<u> 習の場所</u>					
				業 計	画	
進行	授業	 \$内容		目	 標	
4 月	中学校の内		基本的な計算			式の加減乗除ができる。
	第1章数	と式	ある文字に着	昏目して,整式を整理	することができる。	
	第1節 勢	数と式		どめて、整式を整理す		
	1. 整式	den Maria (NAM)		理解し、計算に用いる		
	2. 整式の ・乗法	加法・減法	整式の加法・	- 减法は、同類項をま	とめることによって、	できることを理解してい
	3. 展開の	公式		と用いて, 式を展開す	ることができる。	
5 月	 4. 式の展	関の工夫				きかえを利用し、多項式
0 /1			の展開の公式	犬に帰着させることが	できる。	
	中間考査		共通因数を見	見つけ 共通因数のくく	くり出しができる. 厌]数分解の公式を用いて,
	 5. 因数分 	「 月年	式を因数分角		()HU% (C 5°E	19077/17** A 2 (E / 1) (C ;
6 月	6. いろいん	ろな因数分解			きかえなどを利用し	たりして,因数分解の公
	 7.実数			せることができる。 小数で表すことができ	ろ	
7 月		今ねずの計質		式の計算ができる。	<i>`</i> J∘	
			十分低と目も	かんかり サル・くこ の。		
	期末考査	c l次不等式				
	第4周		不等式の性質	賃, 1次不等式の解法を	と理解し,1次不等式	を解くことができる。
	10. 不等	式の性質		こ対して,不等式の解		
9 月		等式の解き方	不等式の意味	未を理解し,数量の大	小を不等式を用いて	表すことができる。
	12. 連立 13. 不等					
	第2章2		日常生活に見	見られる具体例から関	数を見つけようとす	る。
	1. 関数	7 1174 227		と、関数の式で表すこ		
	2. 関数と	グラフ	xの関数yが与	テえられたとき, xの値	直に対するyの値を求	めることができる。
	$3. y=ax^2$	2のグラフ	y=f(x)∜f(x)の表記を理解してお	より,関数の値f(a)を	と求めることができる。
	4. $y=ax^2-$	+q のグラフ		² のグラフの頂点,軸k と考察することができ		る。2次関数y=ax²+qのグ
	5. y=a(x グラフ	$(-p)^2 \mathcal{O}$		x-p) ² のグラフの頂点 j向に平行移動させる		ている。放物線をかき,
	6. y=a(x のグラフ	$(x-p)^2 + q$		x-p)²+qのグラフの特 向, y軸方向に平行移!		ぶできる。放物線をかき, る。
	グラフ, 石	研究		ry=a(x-p)²+qの形に変		
10月	8. 2次関語 最小	数の最大・	きる。			 小値を求めることがで
	9. 2次関		与えられた乳	条件を関数の式に表現	し,2次関数を決定す	「ることができる。
	中間考査	Ē				

	10. 2次関数のグラフ	2次関数のグラフとx軸との共有点のx座標を求めることができる。2次関数のグ
11月	とx軸の共有点	ラフと、 2 次方程式の関係を理解している。 2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の値から考察できる。
	11. 2次不等式	回数や位直関係を、D-0 - 4acの値がら考察できる。 2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く方法を理解し、2次不等式を解 くことができる。
	12. 2次不等式の応用	, = = 1 = 3 ;
	課題学習2	第2章で学んだ内容に関する課題について主体的に学習し、数学のよさを認識する。
	第3章図形と計量 第1節 三角比	┃ ┃三角比は,直角三角形の辺の比であることを理解している。
	1	直角三角形においてtan A, sin A, cos Aの値を求めることができる。
	2. 三角比の応用	三角比を使って、距離や高さを求めることができる。
12月	3. 三角比の相互関係	三角比の相互関係を用いて、三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる
	期末考査	
	4. 三角比の拡張5. 三角比が与えら	鈍角の三角比の値を求めることができる。鈍角も含めて三角比の相互関係を用いて、三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。
	れたときの角	座標または図形,表を用いて,θの三角比の値からθを求めることができる。
1月	第2節 正弦定理 • 余弦定理	
	6. 正弦定理	 正弦定理を用いて三角形の外接円の半径や辺の長さを求めることができる。
	┃ 7.余弦定理	┃ ┃余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。
	8. 三角形の面積	┃ ┃ 2 辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることがで
		きる。
	9. 図形の計量	四角形を対角線で2つの三角形に分割して、面積を求めることができる。
	課題学習 3	第3章で学んだ内容に関する課題について主体的に学習し、数学のよさを認識する。
2月	第3節 集合と命題	
	14. 集合と部分集合	集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。
	15. 共通部分, 和集 合, 補集合	共通部分,和集合,補集合を求めることができる。
	16. 命題と集合	┃ ┃命題の真偽を,集合や反例などを用いて判定することができる。
	17. 命題と証明	直接証明するのが難しい命題については、対偶や背理法を用いるなどの間接証 明の利用を考え、証明することができる。
	 課題学習1 	第1章で学んだ内容に関する課題について主体的に学習し、数学のよさを認識する。
3月	第4章データの分析	▼均値や最頻値, 中央値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。
0/1	 1. データの代表値	┃ ┃範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較するこ
	2. データの散らばり	とができる。分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式
	3. 四分位範囲	を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。四分位範囲の定義やその意
	4. データの相関 5. 相関係数	味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。 相関係数の定義とその意味を理解し、定義に従ってそれを求めることができる。 る。
	6. 表計算ソフトによ るデータの分析	る。 相関係数の定義に従った式を表計算ソフトに入力し、相関係数と散布図を表示 することができる。
	課題学習4	第4章で学んだ内容に関する課題について主体的に学習し、数学のよさを認識 する。
	学年末考査	
	①数学で使う用語の意	・ 意味をしっかり理解する。(教科書の例を参考にしながら)
	②問題を解くときは例	引や例題を参考に(真似)しながら解いてみる。
履修者	1	

|履修者| ③問題を自力で解けるようにするために、何度も反復して解いてみる。 ④文章問題は「日本語で書かれていることを数学の式で表すとどうなるか」を教科書や参考書を参考 にする。

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	数学的な見方や	表現 • 処理	知識•理解
					入H 即以 产土力干
			考え方		
		数と式,2次関数,	数と式,2次関数,	数と式,2次関数,	数と式,2次関数,
		図形と計量及びデ	図形と計量及びデ	図形と計量及びデ	図形と計量及びデ
		ータの分析の論理	ータの分析におい	ータの分析におい	ータの分析におけ
	並圧の知よ	や体系に関心をも	て、事象を数学的	て,事象を数学的	る基本的な概念,
	評価の観点	つとともに,数学の	に考察し表現した	に表現・処理する	原理・法則などを
	ナントンが描し	よさを認識し,それ	り,思考の過程を	仕方や推論の方法	体系的に理解し,
	および趣旨	らを事象の考察に	振り返り多面的・	などの技能を身に	基礎的な知識を身
		積極的に活用して	発展的に考えたり	付けている。	に付けている。
		数学的論拠に基づ	することなどを通		
		いて判断しようと	して、数学的な見		
		する。	方や考え方を身に		
			付けている。		
評	価における比率(%)	20%	20%	20%	40%
評価资	定期考査	10%	50%	6 0 %	6 0 %
資料および	小テスト	10%	10%	15%	15%
び評価の	授業の姿勢	4 0 %	20%	15%	15%
割合	提出物	40%	20%	10%	10%

	および評価規準	粉学的な日士の老さ士	≠租.加 珊	左口=拉4.2 ITH 布刀
3kL 1 _15	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解
	①数と式, 1次不等式	①数の体系を実数まで	①整式の展開・因数分解,	①数と式, 1次不等式及
		拡張する意義に気付か	無理数(有理化を含む)	び2次方程式において,
	·	せ,数の概念についての	や絶対値の計算ができ	基本的な整式の演算,有
	題解決のために主体	理解を深める。②1次不	る。②演算をおこなう際、	用な整式の展開・因数分
	的かつ意欲的に活用	等式や2次方程式を具	有効な方法で式を変形で	解の方法,数の拡張,絶
			きる。③数量の関係を1	対値の意味,方程式・不
	にとらえることのよ	課題の解決に活用し,数	次不等式や2次方程式で	等式解法とその応用を理
	さを認識し、学習する	学的に考察できるよう	表現し、的確に処理する	解し, 方程式と不等式等
	理論を積極的に活用	にする。	ことができる。	における基礎的な知識を
	しようとする。			身に付けている。
2次関数	①2次関数とそのグ	①関数概念の理解を深	①関数を用いて数量の変	①2次関数の性質とその
	ラフや値の変化、2次	めることにより, 具体的	化を的確に表現すること	グラフの書き方を理解し
	関数と2次方程式・2	な事象について関数を	の有用性を理解する。	ている。
	次不等式に関心をも	用いて考察することが	②いろいろな関数をグラ	②2次関数の値の変化を
	ち, 問題解決に意欲的	できる。	フに表現できる。	調べ、その最大・最小と
	に取り組もうとする。	②2次関数と2次方程	③関数の値の変化を調	その応用を理解してい
	②関数をグラフで表	式, 2次不等式の関係	べ、関数の最大・最小や	る。
	すことの有用性を認	を, 表, グラフなどを利	2次方程式・2次不等式	③2次関数と2次方程
	識し,主体的に事象を	用し論理的・多面的に考	をグラフを用いて理解	式・2次不等式について
	調べようとする。	察することができる。	し、的確に処理すること	理解している。①②③に
	③2次方程式·不等式	③文字の入った関数の	ができる。	おいて、解法のための基
	を具体的な事象に活	考え方を理解できる。		礎的な知識を身に付けて
	用しようとする。			いる。
図形と	①鋭角・鈍角の三角比	①角の大きさなどを用	①具体的な事象の数量関	①直角三角形における三
計量	や図形との関係に関	いた計量を行うために、	係を三角比の記号を用い	角比の意味、それを鈍角
	心を持ち、角の大きさ	三角比の相互関係や,正	て正確に表現できる。	まで拡張する意義及び図
	などを用いた計量の	弦定理・余弦定理などの	②三角比の相互関係を的	形の計量の基本的な性質
	考えの有用性を認識	三角形の辺と角の基本	確に表現できる。	について理解する。
	するとともに, 具体的	的な関係を理解でし,そ	③いろいろな事象に正	②正弦定理・余弦定理は
	な事象の考察に主体	れを利用して, 具体的な	弦・余弦定理を活用でき	もちろん,相似などの図
	的かつ意欲的に活用	事象の考察に活用でき	る。	形的な性質を平面図形や
	する。平面図形や空間	る。	④空間図形の性質を理解	空間図形に利用すること
	図形の性質に関心を	②平面図形や空間図形	し,的確に三角比を用い,	ができる。
	もち、正弦定理・余弦	の性質を理解し, 論理	処理することができる。	
	定理などを積極的に	的・多面的な考察ができ		
	活用しようとする。	る。		
	①身近な統計におけ	データの分布の仕方に	①統計の考え方を用いて	①データを整理・分析の
の分析	る代表値の意味につ		整理分析し、平均値や最	
	いて考察しようとす	平均値を用いることが	頻値, 中央値·散布図,	偏差、データの散らばり
	る。	必ずしも適切でないこ	相関表など統計の表現し	を比較することができ
	•		処理することができる。	る。
			②表計算ソフトなどを用	②相関係数を用い散布
			いて表示, 処理すること	図、数値化して扱うこと
		分布を考察できる。	ができる。	ができる。
		刀仰を与祭じさる。	かいるの。	いてる。

教科名	Ź	科目	名	履修学年	履修区分	単位数	
理科		科学と人	•	1学年		2 単位	
+111			., •		-		
	I				_ ,	いて考察し、環境問題な	
	1211	どへの理解を		1 - 10100000000000000000000000000000000			
使用教徒	科書	科学と人		(実教)			
副教材	• •	教科担当加	が成するプ	リント, VTR等			
主な教具	·等	演示実験		,			
実験実習の	の場所	理科教室・	物理教室•	化学教室・視聴覚教室			
		1	授	業計	画		
進行	授美			目	標		
4 月 科	学と技	で術の発展	・物質の成り立	ちについて歴史的なながれを追	N Vaがら考察する。		
光	こや熱の)科学	・化学の基本を	理解する。			
5 月	の性質と	その利用	・光こついて反	射・屈折・回折・干渉の性質を	理解する。		
13 A			・光は電磁波の	一種であることを理解する。			
中	間考査		・凸レンズの	性質を理解する。			
熱	の性質と	その利用	・温度と熱の違	いを理解する。			
6 月			・物質の熱容	量・比熱・熱量の保存に	ついて実験を通して理解	し、身の回りで利用されてい	
			ることに気	づかせる。			
7月 449			・力学的エネルギーと仕事の定義を理解する。				
' 月 期:	末考査		・力学的エネルギー保存の法則について実験を通して理解する。				
			・熱と仕事の関係を理解する。				
			・人類の歴史はエネルギー確保の歴史であることを知り、そのための技術の発展とその問題点を考えさせる。				
	質の科	学	・物質の最小単位である原子はおよそ百種類しかないが、組み合わせによって非常に多く				
9 月 物	質の成り立	ち	の物質が生まれ、性質が決定されることに気が付かせる。				
			,	ついても復習する。			
1 0月 🚣			・金属、プラスチック、生物のつくる物質などについて、その性質や利用法を学習する。				
"	間考査		・鉄・アルミニウム・銅などがどのようにしてつくられているか精東担こもられて理解する。				
 	品と衣料		・食品を構成する主な成分である炭水化物・たんぱく質・脂質について理解する。				
\vdash	命の科	'子	,	ある葉緑本の存在こついて学習	, =0		
1 1月				:性、開花のしくみ、花芽 **** たいて理解する	が灰について子首する。		
			・人の目の構造について理解する。 ・微生物発見の歴史について学習し、パスツールがどのようにして生物が自然発生しない				
1 2月 🏨	末考査					こして工物が自然先工しない	
	VIV.U		ことを証明したかについて理解を深める。 ・下水処理の仕組みを学習する。				
 字	まやま	 !球の科学			 周運動を地球の自転運車	 動と公転運動から理解する	
1月	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	11 4	7 1.24 1			こより、長い時間の中で変化	
\vdash	学技術の						
	── 活 ・科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活とのかかわりに				 人間生活とのかかわりについ		
	年末考査		て探求させる。				
2	20世紀に	は「知は力な	り」という信	言念のもとに、様々なタ	発見や発明が生まれ、	今日の私たちの生活が成	
履修者 り	立ってレ	います。また,	我々が生活し	しているこの地球や地	球上でおこる自然現象	きについても,多くのこと	
へ一言 が	わかって	てきています。	自然の見方	や科学技術がどのよう	に進歩してきたのか,	工業を志すものとして,	
重	要な知識	数が多くありま	ミす。 しっか	り身につけてください	0		

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

	評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価	における比率 (%)	20%	30%	10%	40%
評価資	定期考査	10%	6 0 %	2 0 %	80%
評価資料及び評価の	小テスト		2 0 %		2 0 %
	提出物・レポート	40%	20%	4 0 %	
割合	授業の取組姿勢	50%		4 0 %	

ロー川山マン海北ボベ	よび評価規準	to	tona (f) (i.e	
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
科学と技術の発展	・科学の発展の歴史に興味をもち、意欲的に学習しようとする。	・現代の科学技術について歴史 的な経緯を踏まえ、問題点を考え て、将来に向けての展望を持つこ とができる。	・科学と技術の発展に際し観察・実 験の果たした役割についてまとめ、 表現することができる。	・科学技術は人間生活を豊かに するが使い方を誤ると人類の将 来だけでなく地球全体にも大きな 影響を及ぼすことにもなることを 理解できる。
1節 光の性質と その利用	・自然界に見られる光の現象,電磁波に関わる科学技術が生活とどのような関係を持つかに関心を持ち,意欲的に調べようとする。	・身の回りに光の現象を見出し, 波の性質を使いそれらを科学的 に分析し,総合的に判断できる。	・光の波としての性質を表す観察・ 実験の技能を習得し、結果や考察 を適切に表現できる。	・光が波であることを、性質とから 理解し、身の回りの現象として見 出せる。 ・電磁波が日常生活で利用され ていることを理解できる。
2節 熱の性質と その利用	・自然界に見られる熱,エネルギーに関する現象に関心を持ち,意欲的に調べようとする。	・身の回りに熱に関わる現象を見出し、熱の性質から科学的に思考し、熱を有効利用できるような判断ができる。	・熱量の保存や熱を仕事及び電流 によって発生させる観察・実験の技 能を習得し、その過程や結果を適 切に表現できる。	・熱と温度とを区別でき、熱の性質をこれに関わる現象及び歴史から理解し、日常生活に適切に利用できる。
1節 材料とその 再利用	・私たちの生活に役立っているセラミックス・金属などについて学び、生活のために改良すべき点はないか意欲的に学習しようとする。	・天然にある素材と人工的に作り 出した素材が日常生活の中でど のように使われているかを考える ことができる。	・種類、性質に関して簡単にできる 観察・実験の技能を習得し、その結 果を的確にまとめ考察を的確に表 現することができる。	・身の回りのセラミックス・金属・プラスチックについてその製造法や 資源の再利用について理解する ことができる。
2節 食品と衣料	・身近な食品中の成分や、衣料材料の性質に関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	・食品中の成分が生命体にどのような役割を果たしているか観察・ 実験を通して総合的に判断することができる。	・成分検出実験や、繊維の燃焼などの観察・実験の技能を習得し、その構造や成分の違いに関する考察を的確に表現することができる。	・食品中の成分や衣料材料についてそれぞれの性質を把握し理解できる。
1節 生物と光	・植物, 動物の行動は, 光と関わっていることに関心を持ち, 意欲的に学習しようとする。	・光合成と光の強さや波長との関係などについて、実験を通して考察することができる。	・光合成や動物の行動性などに関する観察・実験技能を身につけ、結果や考察を的確に表現することができる。	・光合成,動物の行動など,植動物と光の関係について得た知識を,人間生活と関連づけて理解できる。
2 節 微生物とその利用	・微生物の存在や役割について関心を持ち, 意欲的に学習 しようとする。	・微生物の存在や働きについて, 実験を通して考察することができ る。	・身近な微生物に関する実験などを 通し、観察・実験技能を身につける とともに、結果や考察を的確に表現 することができる。	・様々な微生物の存在や働き,生態系での役割について得た知識を,人間生活と関連づけて理解できる。
1節 身近な天体と太陽系における地球	・身近な天体と地球について 関心を持ち,意欲的に調べよ うとする。	・星や太陽の見かけの運動が太 陽系における地球の運動に起因 することを観察を通して考察する ことができる。	・身近な天体に関わる運動の様子 を観察し、その結果を解析する技能 を習得し、結果や考察を適切に表 現できる。	・太陽や月などの運行の周期性 が、時や暦など人間生活と深く関 わっていることを理解できる。
2節 身近な自然 景観と自然災害	・身近な自然景観や自然災害 に関心を持ち,意欲的に調べ ようとする。	・身近な自然景観の成因、日本列島の成り立ちを科学的に分析し、総合的に判断できる。	・身近な自然景観を適切に観察する技能を習得し、結果や考察を的確に表現できる。	・自然景観の成因や日本列島の 成り立ちについて理解し、自然景 観の恩恵と自然災害のリスクを理 解できる。
これからの科学と 人間生活	・科学と人間生活の間に現在 生まれている新しい課題に関 心を持ち,研究しようとする。	・科学と人間生活に関する課題に ついて具体例をあげ、研究を通し て生活のあり方について考えるこ とができる。	・実験・調査・観察の技能や記録の 正確さ、レポートの表現、課題とそ の結果にふさわしい発表の工夫が できる。	・課題研究から明らかにされた結果や関連する事項が理解できる。

孝		科目名	Ż	履修学	年	履修	区分	単位数
-	健体育	体育		1学		必履		3 単位
目			心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な 実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある 生活を営む態度を育てる。					
	 教科書	現代保健体育		0				
	 教材・	JUNINE PI						
主	な教具等							
実験	実習の場所	屋外運動場,	体育館,屋	外プール	,格技場	型		
			授	業	計	画		
進行	授業内				目		票	
4 月	体育理論 体つくり運動	の ・ 相)科学的理解 なほぐしをし	を深め, たり,体	それらる 力を高&	を実践に生た かたりする。	かすことがで とともに, こ	に,運動について *きるようにする。 れらの運動を生活
5 月	・体ほぐしの・体力を高め集団行動	る運動・お)中で実践す らもな行動様 な・的確に行	式を身に	つけ, 🖺	学校生活や技		5互いに協力して機
6 月	球技 ・バレーボー							リに取り組む姿勢や ・確保する態度を身
7 月	期末考査		こつける。	~1 ~ J(9)	(-)	_ C ,	全水 女主で	
8 月	水泳						早く泳いだ	り、続けて長く泳
9 月	・クロール ・平泳ぎ	V	だりするこ	とができ	るように	こする。		
10月	 体つくり運動 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動		なほぐしをし)中で実践す					れらの運動を生活
11月	武道・柔道							(の運動の技能を高 かができるようにす
12月	期末考査							
1 月	陸上競技 ・長距離走	・自	己の能力に	応じて記	録を高ぬ	かることが゛	できるように	する。
2 月	体つくり運動				, これら	うの運動を <i>5</i>	生活の中で実	:践することができ
3 月	・体力を高め 学年末考査	0 連則	ようにする	0				
履修者へ一言	・体育は、(1学年3単位, 2学年2単位, 3学年2単位) 必修科目です。 ・体育と保健の評価・評定は、別々になります。 ・1学年で基礎基本をしっかり学びます。その後も学習したことを体育の授業に取り入れ2, 3学年では、試合形式を多く取り入れます。 ・体育の授業が体育的行事とリンクしている部分があります。							

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
		運動の楽しさや喜	自己の能力と運動	自己の能力と各種	生活における運動
		びを深く味わうこ	の特性に応じた課	の運動の特性に応	の意義や必要性及
		とができるよう自	題の解決を目指し	じた技能を高め,運	び運動の特性と合
	評価の観点	ら進んで計画的に	て,運動の合理的な	動の楽しさや喜び	理的な行い方を理
	および趣旨	運動をしようとす	行い方や計画的な	を深く味わうとと	解し、知識を身に付
		る。	活動の仕方を考え	もに、体力を高める	けている。
			工夫している。	ための運動の合理	
				的な行い方を身に	
				付けている。	
評	価における比率(%)	3 0 %	20%	30%	20%
	出欠席・見学				
===	(忘れ物・服装)	5 0 %			
計価	授業の行動観察				
評価資料および評価	(準備体操など)	3 0 %		20%	
料	種目の行動観察				
トル	(各種目スキル)		50%	3 0 %	4 0 %
び	協力姿勢の行動観察				
計画	(リーダーシップ,	20%	30%		
\mathcal{O}	準備・片付けなど)				
割	実技テスト				
合	(各種記録を含む)			5 0 %	4 0 %
	各種記録表				
	(個人・班ノート)		20%		2 0 %

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
(球技)	・練習やゲームの場所の安全 を確かめ、安全な練習方法 で行おうとし、危険なプレ イをしないなど、健康・安 全に留意しようとする。	チームや自分の能力に応じた適切な課題を設定している。	・三段攻撃を使って練習やゲームをすることができる。	・バレーボールの特性に応じ た集団的技術や個人的技 術の構造について,言った り,書き出したりしてい る。
水泳	・水泳の事故防止の心得を守り、練習をする上でのルールを守るなど、互いの健康・安全に留意しようとする。	・自分の能力に応じた目標記 録や課題を定めている。	・選択した泳法の基本的な技能を身に付けることがでる。	71771 3 1 19CD 3 1 1 1 1 7 1 K
《武道》	・基本的な技を習得する喜びや、楽しさを味わおうとする。・練習や試合で礼儀作法を重視しようとする。		・練習するときに、身に付けた基本動作と対人的技能で攻撃をしたり、相手の技をかわしたりすることができる。	性,技の系統性,基本動作 や対人的技能の構造につ
《陸上競技》	・全力をつくして競争したり、記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。	・自分の能力に応じた目標記録や課題を定めている。	・自分の能力に応じ、速く走ったり、長く走ることができる。	・長距離走の特性や技術の構造について、言ったり、書き出したりしている。

教科名		科	·目名	履修学年	履修区分	単位数		
保	保健体育		呆健	1 学年	必履修	1 単位		
E					こついて理解を深め ていくための資質や	るようにし,生涯を通 能力を育てる。		
使	用教科書	現代保健化	体育(大修館)					
畐	削教材・	保健ノー	ト(大修館)					
主	な教具等							
実験	実習の場所	保健教室,						
	1		授	業計	画			
進行	授業内		4) VD o.E.	自	標	2 10 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14		
4 月	現代社会と健	禄	は、ヘルス	プロモーションの ^ま すること及び環境を	考え方を生かし,人	を保持増進するために 々が適切な生活行動を が重要であることを理		
5 月	ア)健康の考	え方	造の変化に定めて動選	伴って変わってきて 択が重要となって <i>い</i>	ており、健康に関す	康水準の向上や疾病構 る個人の適切な意志決 が国や世界では、様々 する。		
6 月	(イ)健康の保持増進と 疾病の予防		の健康を保持増進するとともに、生活習慣病を予防するためには、食事、 運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践及び喫煙、飲酒に関する 適切な意志決定や行動選択が必要であること、薬物乱用は心身の健康な					
7 月	期末考査		は正しく使ん			いこと,また,医薬品には,適切な対策が必		
8 月 9 月	・ が)精神の健康		接な関連が、やストレス	あること, また, 米	情神の健康を保持増 とともに,自己実現	及び精神と身体には密 進するためには, 欲求 を図るよう努力してい		
10月	- -							
11月								
12月	期末考査		·					
1 月	工)交通安全		ど適切な行	動、自他の生命を尊	享重する態度及び交	,安全な運転や歩行な 通環境の整備 などが 償問題が生じることを		
2 月						当を行うことが重要で		
3 月	学年末考査			·		があることを理解する。		
履修者へ一言								

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
		個人生活や社会生活にお	個人生活や社会生活にお	個人生活及び社会生活に
	評価の観点	ける健康・安全に関心をも	ける健康・安全について,	おける健康・安全につい
	および趣旨	ち, 意欲的に学習に取り組	課題の解決を目指して考	て,課題の解決に役立つ基
		もうとする。	え、判断している。	礎的な事項を理解し,知識
				を身に付けている。
評	価における比率(%)	3 0 %	20%	5 0 %
評価	定期考査		20%	8 0 %
評価資料および評価の割	学習ノート	5 0 %	3 0 %	20%
よび割合	Tho M 知 7、次執	5 0 %	5 0 %	
П	(忘れ物・態度・発表)	0 0 70	0 0 70	

評価の	平価の観点および評価規準							
	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解					
健康の考え方	・健康の考え方や保持増進の方法の変化,適切な意志決定や行動選択の重要性及び我が国や世界の保健活動や対策の実践などについて,仲間と協力し,資料を集めたり,調べたことを記録したりしようとしている。	・健康の考え方や保持増進の方法の変化,適切な意志決定や行動選択の重要性及び我が国や世界の保健活動や対策の実践などについて,資料などをもとに、整理し分析して課題を見付けている。	・健康の考え方や保持増進の方法の変化,適切な意志決定や行動選択の重要性及び我が国や世界の保健活動や対策の実践などについて,具体例を挙げている。					
健康の保持増進と疾病の予防	・調和のとれた生活の実践、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する適切な意志決定や行動選択と心身への影響、感染症の予防などについて、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。	・調和のとれた生活の実践、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する適切な意志決定や行動選択と心身への影響、感染症の予防などについて、資料などをもとに、整理し分析して課題を見付けている。	・調和のとれた生活の実践, 喫煙, 飲酒, 薬物乱用に関する適切な意志決定や行動選択と心身への影響, 感染症の予防などについて, 具体例を挙げている。					
精神の健康	・人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。	・人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、資料などをもとに、整理し分析して課題を見付けている。	・人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、具体例を挙げている。					
交通安全	・交通事故の防止には、車両の特性の 理解、安全運転や歩行などの適切な 行動、自他の生命尊重の態度、交通 環境の整備が必要であること、交通 事故には責任や補償問題が生じるこ とについて、仲間と協力し、資料を 集めたり、調べたことを記録したり しようとしている。	・交通事故の防止には、車両の特性の理解、安全運転や歩行などの適切な行動、自他の生命尊重の態度、交通環境の整備が必要であること、交通事故には責任や補償問題が生じることについて、資料などをもとに、整理し分析して課題を見付けている。	・交通事故の防止には、車両の特性の 理解、安全運転や歩行などの適切な 行動、自他の生命尊重の態度、交通 環境の整備が必要であること、交通 事故には責任や補償問題が生じるこ とについて、具体例を挙げている。					
応急手当	・心肺蘇生法等の応急手当の意義や正しい手順・方法について、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。	・心肺蘇生法等の応急手当の意義や正 しい手順・方法について,資料など をもとに、整理し、分析して課題を 見付けている。	・心肺蘇生法等の応急手当の意義や正 しい手順・方法について,具体例を 挙げている。					

教	 :科名	科目	 名	履修学年	履修区分	単位数
芸		音	楽 I	1 学年	選択必履修	2 単位
目	標		感性を高め	•		する心情を育てるとし、音楽文化につい
使用	数科書		(教育芸術社			
副耄	対材・	リコーダ	一,五線ノ	ート, はさみ, の	り(各自で準備)	
主な	教具等	ギター,	チューナー,	プリント,楽譜	(学校で準備)	
実験実	習の場所	音楽教室				
			授	業計	画	
進行	授業	(内容		目	標	
4 月	校歌を歌	なおう		、唱を通して,階名 「る能力を身につけ		正しい音高・リズム
	楽典		・ト音記号	, へ音記号での音	の読み方や様々な	ソズムパターンを理
5 月			解し, 読	語の能力を高める	0 0	
	器楽独奏	その楽しみ	・リコータ	ーの基本的な奏法	きを身につける。	
	(リコー	-ダー)	・フレース	でを知覚し、音楽の	まとまりを感じな	さがら演奏する。
6 月			・参考音源	で他の人の演奏の	鑑賞を通して、同]じ曲でも様々な表現
7 🗆	1		方法があ	っることを感じ取る) 0	
7 月	ゼカニ	・チェリン/	・ギカーの			 k,楽譜の見方を身に
	ジ	-7700	・イターの	79 ユーニング 0711	.刀, 基本的は 条体	;,栄晴の兄刀を分に
9 月			0	ベームの仕組みを理	細士ス	
				•		・ ジターの様々な可能性
1 0月			を把握す	- ,) / NO 00 1132122
					とに自分がどのよ	
	<u> </u> 					どを感じ取り、それら
1 1月	_		を生かし	て表現する力を身	べにつける。	
1 2月						
	アレンシ	ジしてアン	・コードネ	ームを使って構成	を変化させ、イメ	ージをもって編曲を
	サンブル	レよう	する。			
1 月			・主体的に	音楽を創作する態	度を養う。	
	1			トとのかかわりに	留意しながらアン	ナンブルする態度を
2 月			養う。			
					配慮し、調和のと	れた表現をする技能
3 月			を身につ		田の工士みじょハ	北島(大阪フーナ
				一人の演奏から衣	:現の工大なとを分	析的に聴き取る力を
	和楽器の	·)蚌力	つける。 ・ 継 営を通	 負して, 和楽器の音		
	和米布り	グがひり		aして、和楽器の音 景と和楽器のコラボ		_
	• 宝蛄 <i>(</i>))みでけか		楽活動の幅を広げ		71717 - 0
履修者					•	価をするので、毎時
へ一言			に過ごすこ		**・** とこり、ひま 日	m c / の ベノ C , 14m
	157 17	->N C > C > C > S		<u> </u>		

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		音楽への関心・	音楽表現の	音楽表現の技能	鑑賞の能力
		意欲・態度	創意工夫	日本权处》及能	■ 貝 ∨ fil/J
		音楽活動の喜び	音楽を形づくって	創意工夫を生か	音楽を形作っている要
	評価の観点	を味わい,音楽や	いる要素を知覚し	した音楽表現を	素を知覚し、それらの働
		音楽文化に関心	それらの働きを感	するための技能	きを感受しながら,解釈
	および趣旨	をもち,主体的に	受しながら,音楽	を身に付け、創	したり,価値を考えたり
		音楽表現や鑑賞	表現を工夫し、表	造的に表してい	して,音楽に対する理解
		の学習に取り組	現意図を持ってい	る。	を深め,よさや美しさを
		もうとする。	る。		創造的に味わっている。
評	価における比率(%)	30%	30%	25%	15%
評価次	授業に取り組む姿勢	100%	20%		20%
評価資料およ	提出物		50%		80%
よび評価の	実技試験		3 0 %	5 0 %	
割合	筆記試験			5 0 %	

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
校	・意欲的に校歌の歌唱に取		・校歌を正しく階名唱すること	
歌	り組もうとしている。		ができる。	
楽			・楽譜の読み方や様々なリズム	
典			パターンを理解している。	
	・練習計画を立て、計画に	曲のフレーズを感じフレ	・リコーダーの基礎的な奏法を	
	沿って主体的に練習を進	ーズを生かした表現を工	身につけている	
器 楽	めている。	夫している。		
器楽独奏		・参考音源を聴き、感じ取		
关		ったことを自分の表現に		
		生かしている。		
	・意欲的にギターの演奏の	・奏法の違いによる音色の	・ギターの基礎的な奏法を身に	・ギターによる様々な演奏の
ギャ	習得に取り組んでいる。	変化を感じ取っている。	つけている。	鑑賞から、曲の雰囲気と奏
グレ	・自分のイメージを意欲的	・曲の雰囲気に合わせて奏	・コードネームの仕組みを理解	法の関係について分析でき
にジ	に表現しようとしている。	法を工夫しながら表現し	している。	ている。
·		ている。		
マア	・主体的に音楽を創作しよ	・イメージを持って編曲し	コードネームを使ったアレン	・他のグループの演奏から表
/	うとしている。	ている。	ジの技能を身につけている。	現の工夫等を分析的に聴き
ンサンブ		他のパートとの関わりや	・調和のとれた表現をする技能	取っている。
1. /		バランスを感じ取りなが	を身につけている。	
ル		ら表現している。		
₽n				西洋楽器と比較し,和楽器の
和楽器				音色の特徴を捉えている
器				

教	教科名 科		目名	履修学年	履修区分	単位数
	·····································			1 学年	選択必履修	2単位
					1 - 1 - 1 - 1 - 1	<u> </u>
l	標					能力を伸ばし、美術
"	1017		いての理解			EDITION ON AM
油田	教科書	美術I「		C W 10 2 0		
	<u> 教育 </u>	-			・必給の目。アカロ	ル終の目笠)
I	双桁・ 数具等		『軍・足戍寺 刻刀・紙ヤ』		・杉伝の具・ナクリ	ル松の具寺)
-		美術教室	刻刀 , 和八个。	ヘリ守り		
夫	習の場所				rebi	
 進行	授業				 画 標	
4 月		テーション	主術の必要			当明する
4		るデッサン	* 天	では、 1文条、の取り和	の安労はこについて	元号 タる。
	単により	3/ 2/2	・対象をした	っかり見ることの大切	1さぬ其淋的わ細察力	た差ら
5 月				る描画技法を理解する		と食り。
J 月				5個画技伝を理解する 作品を例に色のしくみ		じた理解する
			・教作者の	下田を 別に 色のしくの	で仮削。ての付負な	ことを呼りる。
	名画模写		・世界の名画	画を鑑賞する。 (日本	の絵画についても理	解を深める))
			・西洋絵画 <i>0</i>	D技法を学ぶ。		
6 月			・原作者の心	心情,制作意図を探る	0	
			アクリル系	会の具の使用方法をマ	·スターする。	
7 月						
	イラスト	レーション	・デザインカ	 バ現代社会でどのよう	な役割を担っている	 か理解する。
		こよる線描		ノーションの存在意義		
9 月	 ・点描)	0.00/1/11		る描画技法を学ぶ。	. = 0, = 00	
	(淡彩)			会の具の技法を学ぶ。		
	(1)(/1)			動かせ、独創的な表現	を試みる。	
1 0月				_, _, _,		
0/,						
}	 木彫レリ [、]	 ーフ	世界の彫塑	 関作品を鑑賞する。 ((日本の彫塑について	 も理解を深める)
	彫刻		- 彫刻の幅D	ない表現技法について	学ぶ。	
1 1月			· テーマに基	基づいた独創的な表現	力を深める。	
, •				上がりを心がけ、手仕		験する。
1 2月						
	 木彫レリ [、]	 ーフ	・彫刻作品	 C彩色を施し,作品の	 完成度を高める。	
	彩色			画の融合した表現を体		
1 月						
- / •	色彩・平向	面構成	 ・デザイン{	作品を鑑賞する。(日	本のデザインについ	ても理解を深める)
			 ・色彩理論 <i>0</i>	り基本を理解する。		
2 月			• 平面構成力	力,色彩構成力を身に	つける。	
				動かせ、独創的な表現		
3 月						
- <u></u>						
	宝坛数	科かので	 受業態度重	俎です		
履修者				元です。 ので,自主的・積材	面的な制作活動が、	以要です
ペー言				って、百里的・傾位 に計画をしっかり		· · · · · -
				価することができる		ここが必女しり。
	- 水元別	、一个1定山	ノイトロロ(よ評)	アンションの 5月	よ ピ ル。	

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

	美術への関心・意		創造的な技能	鑑賞の能力
	.,			
	美術を愛好し,表現	感性を働かせて美	創造的な表現をめ	作者の心情や意図
証年の組 占	の主題や形式などに	術のよさや美しさを	ざし、材料・用具を	と表現の工夫,生
	幅広く関心をもち,	感じ取り,豊かに発	生かして表現する	活や自然と美術と
なより、陸目	意欲的,主体的に表	想し創造的に工夫	技能を身に付ける。	の関わり、日本の
	現や鑑賞の活動を行	して表現する。		美術の歴史などを
	い,その喜びを味わ			理解し、そのよさや
	おうとする。			美しさを味わう。
西における比率 (%)	3 0 %	25%	25%	20%
作品		50%	50%	
		·		
小テスト・小課題	20%	30%	3 0 %	20%
	·	·	,	
授業への取り組み	8 0 %	20%	20%	80%
1/2/1 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/	3 3 70	2 0 ,0	1 0 ,0	3 3 70
	作品	 歌・態度 美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。 新における比率(%) 30% 	 一次・態度 一次・態度 一次を受好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。 一位における比率(%) 30% 50% 10% 	一部

	R.わよい評価規準			
	美術への関心・意欲	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	態度			
	・美に対する自己の考	・対象をよく観察し, 感じ	・意図に応じて表現方法を	
絵画	えや思いを主体的に	取ったよさや美しさや情	選択し, 必要な表現技法	
彫刻	表現しようとする。	感を基に発想できる。	を身につけている。	
	・表現意図に応じて, 用	・色彩と形体, 面や質感,	・材料の特性や用具の使	
	具の発見,活用に積	量感, 空間などの造形要	い方などを理解し, 効果	
	極的につとめている。	素を理解し、表現の構想	的に活用できる。	
		を練ることができる。		
	・願望や夢を基に発想・	生活上でデザインが果た	・材料や用具の創造的な	
デザイン	構想し, 自己表現につ	している役割について理	生かし方を工夫する。	
	とめる。	解し, 用途や美しさを考	・色彩や形体の機能を考	
	・色彩や形体が生活環	慮して表現を構想す	え, それを効果的に表現	
	境で果たす役割を理	る。	する技能を身につけてい	
	解しようとする。	デザインの持つ美的秩	る。	
		序や構成を表現に生か		
		す工夫ができる。		
	・制作の背景にある作			・造形作品が, 生活を心豊
鑑賞	者の作品に込められた			かに演出していることを理
	心情を感じ取ろうとす			解できる。
	る。			・自然の中の美的秩序や
	・作者の考えや作品を			美しい空間を発見し, そ
	尊重することができる。			れらのよさや美しさを味わ
				うことができる。

教	教科名 科		 名	履修学年	履修区分	単位数
-	語 I	コミュニケー	ーション英語 I	1 学年	必履修	3 単位
目	標		に、情報やき	近じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成す 、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的 きう。		
使用	教科書	All Aboar	rd! Communi	cation English I		
副参	対・	参考書 ワークブ:		総合英語 Harvest: ューチノート」[柞	B rd Edition」 [桐原]原書店]	[[] [[] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] []
	教具等	単語帳ワークブ		Base 1700」[桐原 Base 1700 Wardsha		
		ソークノ : 辞書		Base 1700 Workboo ロン英和辞典」[三		
実験実	習の場所		ホーム	ルーム教室他		
			授	業計	画	
進行	授業	(内容		目	標	
4 🖪	Warm-uP	1, 2, 3			_	アベットが正しく書
4 月				生活で使われる英語	-	
	Lesson 1				する際、自己紹介の	
5 月	Lesson 2		留学生の生 	古について字ひ、言	手紙の書き方を習得	きする。
	中間考查 Lesson :		日本のマン	ガサルについて祭		 !解し、それに対する
	Lesson)		スダ化にういて発 や感想を表現する		EAR C. CAUCAJ 9 Q
6 月	Lesson 4	4			_	を理解し、自分の好
		-	-	について表現す		
7 月	期末考查	Ē		, , , ,		
	Lesson (5	外国語学習	におけるパックン	マックンの態度を	理解し、自分の好き
9 月]		なことにつ	いて適切に表現す	ることができる。	
	Lesson 6	3	歌川国芳に	関する紹介文を読	み、絵や写真につ	いて自分の考えを表
1.0 🗆	 		現すること	ができる。		
1 0月	中間考査					
	Lesson 7	7				について理解し、旅
	J (0		相手に提案する	_	ーを読み、自分が将
1 1月	Lesson 8	5			さんのインクヒュ 明することができ	
1 2月	│ │期末考査	F	N JOILV	祖成来(こうく・この)	919 DCCM-CC	<i>'</i> ∂∘
1 2月			1 205 445 - 21			7.54
1 月	Lesson 9	d				試みに学び、相手に
2 月	Lesson 1	10		「切な表現方法を 「ドトト杰のつな)	-	、 も分の家族につい
<u></u> 4 Д	Lesson .	10	フィンソン て話すこと		∅→ ワ (C⁻ϽV・C子()	、ロカツ涿県にプバ
	Lesson 1	11		-	宙にかける科学者	・ の思いについて理
3 月	2000011				表現することがで	
り 万	学年末考	査			, - 	- 5
						用し、予習習慣を身
へ一言	に付ける)とともに,	<u> </u>	/ 下課題フリント7	よとも傩夫にこな	していきましょう。

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		コミュニケーションへ の関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化につい ての知識・理解
評価の観点 および趣旨		コミュニケーションに 関心を持ち,積極的に 言語活動を行いコミュ ニケーションを図ろう とする。	いて,情報や考え等 伝えたいことを英 語で話したり,書い	いて, 英語で聞いた り読んだりして, 情 報や考え等相手が	いての学習を通し, 言語やその運用に
評価にお	おける比率 (%)	10%	20%	4 0 %	3 0 %
評価資料および	定期考査 (課題考査を含む)		80%	80%	80%
価資料な	授業の取り組み姿勢	4 0 %	10%		
料および	提出物	6 0 %		20%	
0.	小テスト		10%		20%

計価の観.	点および評価規準			
	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
Warm-up 1, 2, 3	カタカナ語と英語のもともとの発 音の違いに注意して積極的に発音 しようとする。		発音された単語を正しく聞 き取ることができる。	カタカナ語と英語のもともとの発 音等の違いが理解できる。
Lesson 1	高校生の自己紹介の文に関心を持 ち、積極的に自己紹介しようとして いる。		書かれた自己紹介の内容に ついて正しく読むことがで きる。	自己紹介によく使われる表現を知っている。動詞の過去形について 理解している。
Lesson 2	学校生活の報告について関心を持 ち、積極的に学校生活について報告 使用としている。	伝えたい内容を手紙の形式に 従って書くことができる。	留学生の学校生活について かかれた情報の概要を読み 取ることができる。	英語で手紙を書く際に適切な表現 を理解している。現在進行形、過 去進行形について理解している。
Lesson 3	日本のマンガやアニメの海外での 人気の背景に関心を持ち、それに対 して自分の感想を述べようとして いる。	手に適切に伝えることができ	日本のマンガやアニメ文化 について話し手の考えを読 み取ることができる。	マンガやアニメ文化の海外での評価を知っている。助動詞の表す話 し手の考えを理解している。
Lesson 4	日本のラーメン文化に関心を持ち、 自分の好きな食べ物について積極 的に話している。	自分の好きな食べ物につい て、正確に伝えることができ る。	ラーメンについての書き手 の考えを正確に読み取るこ とができる。	ラーメン文化の背景を理解している。相手を誘う場面の表現を理解 している。
Lesson 5	パックンマックンの外国語学習方 法について関心を持ち、ペアワーク に積極的に取り組んでいる。	自分の好きなことについて、 正確に伝えることができる。	外国語学習におけるパック ンマックンの考えを正確に 読み取ることができる。	コミュニケーションにおける相づ ちの役割を知っている。動名詞の 基本を理解している。
Lesson 6	歌川国芳について関心を持ち、絵や 写真について積極的に自分の考え を述べようとしている。	英や写真について自分の考え を述べたり、書いたりできる。	歌川国芳に関する紹介文を 読み、概要や要点をとらえ ることができる。	歌川国芳の浮世絵を現代マンガの 関連性を理解している。受動態の 基本を理解している。
Lesson 7	コウテイペイギンについて関心を 持ち、積極的に旅行の計画を提案し ようとしている。	旅行の計画を相手に正確に提 案することができる。	コウテイペイギンに関する 説明を読み、概要や要点を とらえることができる。	コウテイペイギンの現状と地球温 暖化の影響について理解してい る。現在完了の基本を理解してい る。
Lesson 8	上野さんの人生や自然に対する考えについて関心を持ち、自分のつきたい職業について積極的に話そうとしている。	自分が将来つきたい職業につ いて、表現することができる。	英国で庭園について学んだ 上野さんのインタビューの 概要と要点をとらえること ができる。	上野さんの自然観について理解している。Itの用法について基本的な知識を身につけている。
Lesson 9	第2次世界大戦後の沖縄の惨状と日系アメリカ人の試みについて関心を持ち、意欲的に読んだり聞いたりしている。	場所や人について説明することができる。相手に感謝する 場面で適切な表現ができる。	第2次世界大戦後の沖縄の 惨状と日系アメリカ人の試 みについて概要と要点をと らえることができる。	ハワイと沖縄の関係について理解 している。関係代名詞について基 本的な知識を身につけている。
Lesson10	フィンランド人と自然の関係について関心を持ち、意欲的に読んだり 聞いたりしている。	比較表現を適切に使って家族 について話すことができる。	フィンランドに関する説明 を読み、概要や要点をとら えることができる。	フィンランド文化における森での 習慣を理解している。比較表現の 基本を理解している。
Lesson11	すばる望遠鏡や科学者の宇宙に対 する思いについて関心をもち、積極 的にペアワークに取り組んでいる。	*** - t		すばる望遠鏡の現状と宇宙にかける科学者の思いを理解している。 仮定法過去形の基本を理解している。

機械科



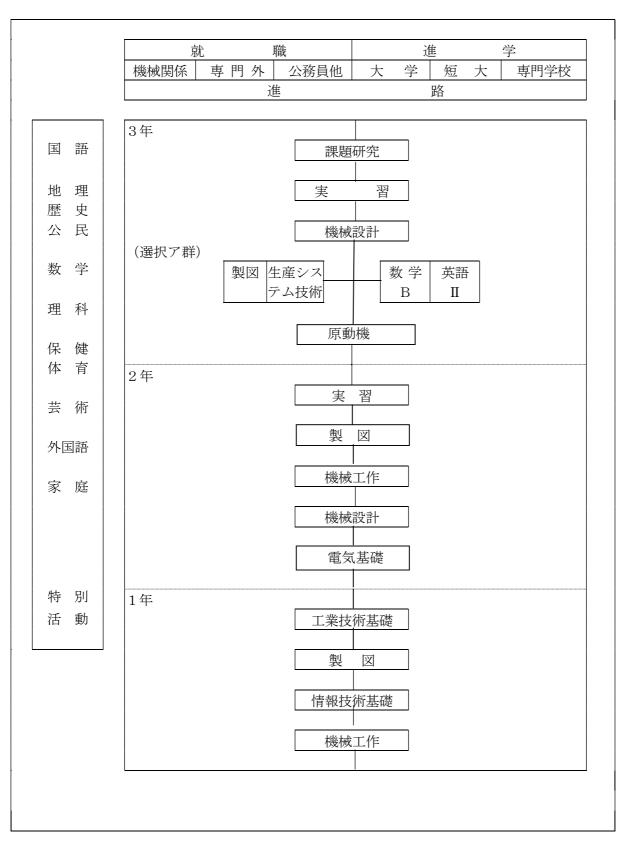
-	31	-

学科名	機・械・科

学科の目標	機械工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、機械技術の意義や役割を理解させるとともに、機械技術の諸問題を主体的に解決する能力と実践的な態度を育てる。
学科の到達目標	 (1)機械技術の基本的理論を理解し、技術の工夫・改善の能力を備えること。 (2)機械工作に関する基礎的な知識・技能を体得し、創意を加え、実践的に活動する能力をもつこと。 (3)基礎的機械工具の設計・製図・素材製作・加工・仕上・組立に必要な知識、実務能力を体得すること。 (4)工場で一般に行われる試験検査、及び機械の操作・調整・修理に必要な基本的知識・技能を体得すること。 (5)工場施設および機械設備における動力関係の基礎知識と、簡単な調整・修理の技能を有すること。 (6)関連する諸種のエネルギー変換装置の原理、基礎知識を有すること。 (7)工場の経営管理の基本的機構・方法、特に現場における品質管理・作業研究などの科学的生産手段を理解し、その一翼を担うことができること。
学科生への メッセージ	 ・自ら考え、自ら判断し、自ら解決すること。 ・労をいとわず、実際に体を使って仕事のできる柔軟性を備えた実践的技術者を目指して何事にも、積極的に取り組んでください。 ・機械科は「ものづくり」が大切です。実際に身体を動かして、ものを作ることを常に心掛けてください。 ・授業をしっかりと聞き、ノートを必ずとるようにしてください。また、授業に必要なものは、忘れないようにいつも準備しておいてください。 ・健康に気を付けて、休まないように心がけてください。

【学科の学習構造】

学 科 名 **機 械 科**



工業 工業技術基礎 1学年 必履修 工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させるとと 視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 使用教科書 工業技術基礎 (実教出版) 二酸核・主な数具等 機械実習1・2 (実教出版) 実験実習の場所 機械科実習棟	教科	 名	科	 目名	履修学年	履修区分	単位数
目標 の興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとと 視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 使用教科書 工業技術基礎 (実教出版) 一日教養 一				•			4 単位
副数付・主な数具等 機械実習 1・2 (実教出版) 実験実習の場所 機械科実習棟 5 月 中間考査 6 月 ○塑性加工 塑性加工を通して、機械や工具の取り扱いを白さ、大切さを学び、真剣にまた意欲的に取り白さ、大切さを学び、真剣にまた意欲的に取り白さ、大切さを学び、真剣にまた意欲的に取りたまた。 7 月 基本的な機械構造を持つ、切削加工の代表でし、機械の操作、切削工具の種類と使い方、測定整作業の基本を習得しながら、ものづくりに付ける。 7 月 中間考査 金属の可融性を利用する加工 一時報を回見して、格容解・鋳込み・後処理・仕上げの流れを理解した。 1 1月 期末考査 「知識と技術を学び、ものづくりの楽しさを味がり組む態度を持つ。 1 2月 期末考査 1 月 マシニングセンタの概要と操作方法を習得する。	目 木	標	の興味・関	心を高め,二	L業の意義や役割を	理解させるとともに	
実験実習の場所 機械科実習様 授業内容 目 標	三用教科	科書	工業技術基	礎(実教出版	反)		
接	材・主な	な教具等	機械実習1	・2 (実教出	出版)		
##	食実習の	の場所	機械科実習	棟			
4 月 ○塑性加工 塑性加工を通して、機械や工具の取り扱いを 自さ、大切さを学び、真剣にまた意欲的に取り 5 月 中間考査 基本的な機械構造を持つ、切削加工の代表で を利用 を利用 を利用 を利用する加工 海線と使い方、測 が発達を無の可融性を を利用する加工 知識と技術を学び、ものづくりの楽しさを味がり組む態度を持つ。 カージャングセ シタ シーングセ シタ シグセンタの概要と操作方法を習得する。				授	業計	画	
白さ、大切さを学び、真剣にまた意欲的に取り							
中間考査		○塑性加	1工		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	-	
○機械加工 金属の被削性 を利用 を利用		中間考査	Ē				
期末考査		金属の	被削性	し、機械の排	操作, 切削工具の種	類と使い方, 測定器	具の使い方を習得し,
中間考査		期末考查	Ē	に付ける。			
金属の可融性を利用する加工 溶解・鋳込み・後処理・仕上げの流れを理解し知識と技術を学び、ものづくりの楽しさを味むり組む態度を持つ。 1 2月 期末考査 〇マシニングセンタの概要と操作方法を習得する。	F		Ē	☆去⊬加集川/☆	の甘木ナ、「明七ルケ)」 ナンネト・ケー	制作・刑デみ・A1の
	毎週				ずの流れを理解し習行	导する。鋳造に関する	
1月 ンタ ングセンタの概要と操作方法を習得する。	<u> </u>	期末考査	Ē				
		_	ングセ			•	の基礎基本及びマシニ
2 月 学年末考査		学年末考	査				
ものづくりの楽しさ・大切さを体感し、知識や技術を身に付け、個優修者 いとわず、実験・実習に意欲的に取り組むことを目的にしています。 へ一言	者い						動かし汗をかくことを

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		基礎的技術について関	基礎的な知識と技術を	安全や環境に配慮し,	工業の各分野に関す
		心を持ち、その改善・	活用して適切に判断	実際の仕事を合理的に	る基礎的な知識を身に
		向上を目指して意欲的	し,創意工夫する能力	計画し、適切に処理す	付け,現代社会におけ
	および趣旨	に取り組む	を身に付けている	るとともに,その成果	る工業の意義や役割を
				を的確に表現する	理解している
	評価における比率 (%)	20%	30%	30%	20%
評価	製作課題作品			60%	
資 料	レポート			40%	
およ	授業の取り組み姿勢	100%			
び 評	安全作業,整理整頓		100%		
価の割合	作業の手順・機械・ 機器の操作を理解				100%

11 Im -> 1907///	わより計画児中			
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・基礎的な技術について関	・実習内容を理解し,使用す	· 安全作業,機械操作,工具	・製作図通りの作品ができてい
塑性加工	心を持って取り組んでい	る機械や工具を正しく使っ	の取扱いが正しくでき,図面	る。
全江加工	る。	て安全に作業ができる。	通りの課題と実習の内容の	・製作工程を理解し,手順通り
			結果をまとめ報告書の作成	に作品を作ることができる。
			ができる。	
	・ものづくりを通して技能	・正しい機械操作を行い,危	・製作過程の体験から優れた	・製作工程を理解し手順どおり
	の習得に意欲的で,向上心	険を伴う行動を理解し, 注	品質の製品を製作すること	に製品を作ることができてい
機械加工	がある。	意しながら作業ができる。	ができ,実習内容の報告書	る。
7歲/7八/川上			をまとめられる。	・使用する機械の取り扱いを正し
				く理解し,使用できる。
	・作業を通し、安全作業を	・トラブルを未然に防止する	・様式の整理されたレポート	・金属の特性と加工法を理解し
	念頭においた行動ができ,	作業ができる。	を書いている。	ている。
鋳造	協調性,責任感などがあ	・手順を理解し,臨機応変に	・誤字・脱字のないレポートを書いている。	・事故防止の知識と技術とを身
	る。	作業をしている。	を書いている。	に付けている。
	・失敗をしても、冷静にそ	・操作手順を考えながら安全	機械を正しい操作手順で、	・プログラムの構成を理解して
マシニング	の原因を考え,前向きな態	に対する意識を持ってい	操作して作品を作ることが でき、機械のエラーに対して	
センタ	度で作業を行うことがで	る。	冷静にその原因を考え対応	
	きる		できる。	とめられる。

教	<u></u> 科名	教科名	履修学年	履修区分	 単位数
工	'' 	機械製図	1 学年	必履修	2単位
目	標	製図に関する日本語知識と技術を習得されて成する能力と態度を	せ,製作図,設		図について基礎的な 読み,図面を構想し
使用教	 数科書	機械製図(実教出版))		
副教 主な教		機械製図演習ノート広島県工業クラブ連盟	盟主催技術コン		」の課題など
実験実習	の場所	機械科東実習棟3階第	第1製図室また	はHR教室	
		授業	計 画		
進行	授	業 内 容		目標	
4月	3. 線の種	··· =	製図用具の製図用具の線や文字の]」の目標を理解する)正しい使い方を習得)使い方に馴れる。)反復練習をする。 :用法の学習をする。	•
5月	5. 展開図		 ・図形のあらわし方を習得する。 ・第三角画法による正投影法を習得する。 ・TI画法について学習する。 ・投影図から等角図のえがき方を習得する。 ・展開図の仕方を習得する。 		
6月7月			・相貫線につ	いて理解する。	
9月	製作図 1. 図面の 2. 図形の 3. 寸法記	あらわし方	・角図から正・つりあいの(正しい寸	について理解する。 E投影図のえがき方を D取れた図がかけるよ子法の記入,丁寧に書	うに練習をする。 かれた数字・文字,
10月 11月 12月	-			こ,丁寧に書く習慣を	
12月	製作図			の基本を身に付ける	
3月	4. 面の肌 -5. ねじ	し・はめあい	ねじの種類ねじの図示	tめあいのかき方を学 f, ねじ製図について k法を理解する。 -ットの略画法を習得	学習する。
履修者 へ一言	り組むこ	取り組むときには、集 と。また、設計者の考 に読みやすく、迅速に	きえを図面によっ	って、第三者に伝え	えるものであるから,

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点および趣旨		製図に関する事象につい て正確に把握し,適切に 分析・判断ができる	術がどのような場面で 活用できるか表現がで	や技術を習得し、もの
評	価における比率(%)	25%	2 5 %	2 5 %	2 5 %
評価	成果物(製図作品)	20 %	4 0 %	4 0 %	4 0 %
Jol Sunt	提出物(演習ノート)	20%	4 0 %	4 0 %	4 0 %
び合	授業の取組み姿勢	6 0 %	20%	20%	20%

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
機械製図の 基礎	説明を静かに集中して聞く ことができる。		製図をかく心得が理解できている。	製図の目標等が正しく理解 できている。
製図用具とその使い方	用具を正しく使うことがで きる。		テンプレートなど補助用具 の活用ができる。	用具の名前が正しく言える ことができる。
投影法			練習問題に根気強く取り組 むことができる。	第三角法で正投影法をえか くことができる。
線の種類と用法		の太さ・濃さを表す	あまり使用されない線の用 法についても確実に理解で きている。	
立体的な 図示法	る。	各種の図示法が正し くできている。きれ いに・正確に図示で きている。		等角図・頭角投影図・キャヒネット図の区別ができ,それぞれの図法でかくことができる。
展開図	集中して作業に取り組むこ		相貫線のある立体図の展開 図をえがくことができる。	
図面の様式			図面の配置などをきちんと できる。	用紙の種類や製作図の様式 が理解できている。
図形の表し方		第三角法で正投影法 をえがける。	等角図から正投影法に直す ことができる。	正投影法やその他の図示法 で図形をかける。
寸法記入法		規格に基づいた寸法 記入ができる。	規格に基づいた寸法記入が できる。	規格に基づいた寸法記入が 正確にできている。
面の肌・はめあい	テンプレートなどの活用が できている。	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	材料や工作法により,図面に 面の肌記号やはめあい記号 の記入ができる。	
ねじ		ねじ製図の基本図示 ができている。	ボルト・ナットが略画法で描 くことができる。	ねじの図示・寸法記入などが 正しくできている。

教	———— 科名	科	目名	履修学年	履修区分	単位数	
工		情報技術基礎		1 学年	必履修	2 単位	
目	標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。					
使用	教科書		基礎(実教	出版)			
副教材・	主な教具等	情報技術	寅定問題集 3	級BASIC(実教出版)		
実験実習	習の場所	HR教室					
			授	業計	画		
進行	授美			目	標		
4 月	・産業社 報技術	士会と情 所	・コンピュ	ュータの歴史と特徴 ュータの利用形態, いて理解する。		産業社会に及ぼす影	
5 月	中間考望	F	情報のも	ラルと管理につい	て理解する。		
	・プロク	ブラミン	流れ図,	基本的なプログラ	ミングについて理	解する。	
6 月	グの碁	基礎		、てBASICなど ラム及びデータの取			
7 月	期末考望	`					
	1	ブラミン	・サブルー	ーチン,配列処理に	ついて理解する。		
9 月	グの肩		- (- 1-1-1	er t. t. Chert A L. Lees Mille Her			
1 0月		Cのプロ ミングの ►		は技術検定標準問題 いて理解を深める。	集を活用し、これ	まで学習してきた内	
1 1月	• ハー Ĭ	 ドウェア	・処理装置 ・周辺装置		得する。	ご)の構造や動作を理	
1.0 🗆	期末考望	k	解し習得	手する。			
1 2月		■ ・ ・メディ	· コルエト		レング・田台が上て		
1 月	ア・ 信	「メディ 削御・通 _{ピュ} ータ	データ正	通信とネットワーク	の基礎的な知識と	技術を習得する。	
2 月		- ユータ ヒと活用	て理解す	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	(外にわり ロコンこ	ュータの利用にジバ	
3 月	学年末表	考査					
履修者へ一言	ンピュー ます。 fi	-タなどの 青報化社会	情報機器を消	舌用し,情報を選択 上での正しい知識と	!・処理・発信でき	を行うとともに, コ る能力が必要になり :会を構成する一員と	

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		コンピュータがどのよ	コンピュータの特徴を	コンピュータがどのよ	情報・データ・情報処
		うに利用され、どのよう	生かして、どのように	うに利用されている	理・情報化社会などの
	評価の観点	な基本構成なのかなど	利用されているか考察	か,教科書の記述内容	用語を理解している。
	および趣旨	について、関心を持ち、	できる。	や興味を持ったこと	
		意欲的に学習に取り組		を、ノートにまとめた	
		んでいる。		り,発表したりできる。	
評価に	<u>における比率(%)</u>	20%	10%	20%	50%
評	中間考査・期末考査				80%
価資	小テスト				20%
料評お価	ノート・課題		80%	100%	
よの び割	授業に取り組む姿勢	7 0 %	20%		
合	出欠席状況	30%			

評価の観点	および評価規準			_
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
産業社会	・授業中静かに,集中	情報や情報技術に関	・著作権制度や保護に	・コンピュータの歴史と特徴
と	して講義を聞くこと	する諸問題について改	ついても理解できてい	を理解している。
情報技術	ができている。	善・向上をめざして, 創	る。	・コンピュータの利用形
		意工夫をする能力を身		態,情報技術の進展が産業
	情報及び情報技術	に付けている。		社会に及ぼす影響について
	に関する諸問題につ			理解できている。
	いて関心を持って, 意	・例題等,説明をもと		
プログラ	欲的に取り組む態度	に、演習的な問題を、自	・プログラムについて	・流れ図, 基本的なプログラ
ミングの	を身に付けている。	らの思考を深め判断し、	文章化の必要性を知	ミングについて理解できて
基礎		回答していくことがで	り,効果的な開発手法の	いる。プログラム及びデー
プログラ	・演習問題の解答やノ	きる。	基礎を習得している。	タの取り扱いを習得できて
ミングの	ートの提出が確実に			いる。
応用	できている。			
ハード			・複雑な動作について	・論理回路の理解と習得がで
ウェア				きている。処理装置の構成
				と動作を習得している。周
			る。	辺装置の構造や動作を習得
				している。
マルチメ			情報通信ネットワー	・マルチメディアの活用につ
ディア・				
制御通信				・データ通信とネットワーク
1177 144 (111				の基礎的な知識と技術を習
			2.1/1/0 (1 00	得している。
				14 つくん. の。

教和	<u></u> 斗名	科目名	履修学年	履修区分	単位数	
	業	機械工作	1 学年	必履修	3 単位	
目	標	,,,,,		**	- 活用する能力と態度	
使用教	対科書	機械工作1(実教出	出版))			
副教材・主な教具等 機械工作1演習ノ			- ト(実教出版))			
実験実習	の場所	HR教室				
		授	業計	画		
進行	授	業内容		目	標	
4 月	・機械工	業のあゆみ	・将来、機械技術者とでの技術者の役割を果・製鉄の歴史から、その	具たす心構えを養う	メを理解し,機械工業界 成の発達を理解する。	
5 月		料とその加工法 料の性質と種類 	工業材料の性質と種類純金属、合金の機械的理解する。		織その加工法 について	
6 月	・炭素綱・ 合金鋼		・炭素鋼の性質・特徴 ・合金鋼の性質・特徴			
7 月	期末考査			77F=1,E (-1,7)		
9 月	 · 鋳鉄		・鋳鉄の性質・特徴・力	加工性を理解する。		
1 0月	· * 非鉄金	E 属材料	・非鉄金属材料の種類・性質・特徴・加工性について理解する。			
	中間考查					
1 1月	非金属機能性		・非金属材料の種類・情・機能性材料の種類・原			
1 2月	・複合材 期末考査	料	・複合材料の種類・用道			
1 月	・ ・鋳造 ・塑性加	17	・鋳造について、その物質しての			
2 月	・空性ル ・溶接	4.1.	・塑性加工の種類とその ・溶接について、種類			
3 月	・表面処 学年末考		・表面処理について,利	重類とその工作法・特	で 徴を理解する。	
履修者へ一言			の楽しさを実感するた より, 実習の楽しさた		こるので、前向きに取	

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		機械工作に関する基	機械工作に関する	機械工作に関する	機械工作の基礎的
	評価の観点	礎的な知識や技術へ	事象や問題点につ	知識や技術がどの	な知識や技術を理
		関心を持ち、意欲的	いて「何故そうなる	ような場面で活用	解し,ものづくりの
	40 & O Æ	に学ぶ姿勢が見られ	か」を分析,判断が	できるか表現する	場面において関連
		る。	できる。	ことができる。	させることができ
評価	における比率(%)	25%	25%	25%	25%
評価資	定期考査	30%	7 0 %	5 0 %	70%
料評お価よの	提出物 (ノート,演習ノート)	20%	30%	30%	30%
び割合	授業の取組み姿勢	50%		20%	

半価の観点およの評価規準 						
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解		
・機械工業	・授業中は静かに,集中	演習ノートやノート	・製鉄の歴史から、その	・金属加工の周辺技		
の歩み	して講義を聴くこと	の提出が確実にでき	加工法の工作機械につ	術について理解し		
	ができている。	る。	いて理解している。	ている。		
工業材料 とその加 工法	・機械工作に関する 諸問題について関 心を持って意欲的 に取り組む態度を	・提出に関しては期限を守っている。	・金属材料の性質・種類・用途について理解している。	・工業材料の性質・加工法・用途について理解している。		
・鋳造	身に付けている。		・砂型による鋳型製作熔解・鋳造について理解	・砂型鋳造法以外の精密鋳造法につい		
・塑性加工			している。 ・塑性加工の一般的な特徴・種類と各々の加工 法の概要を理解している。	て理解している。・金属の各種接合方法について理解している。		
溶接			・金属の接合方法の特徴と溶接法について理解している。	・金属の各種接合方法について、その特徴接合方法について理解している。		
・表面処理			・金属の表面処理目的とメッキの種類と特徴について理解している。	・金属の表面処理の各種方法について理解している。		



電 気 科

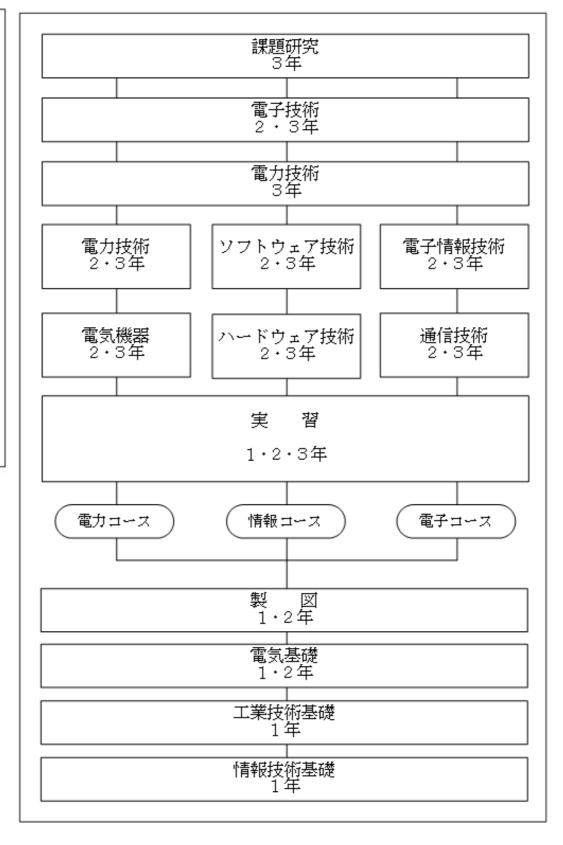
-	44	-
---	----	---

学 科 名	電気科
-------	-----

学科の目標	電気技術に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、電気工業およびこれに関連する諸分野の業務に従事するために必要な能力と実践的な態度を育てる。 健全な社会の構成員としての技能・技術者の育成を図る。 一般教養の涵養、基本的生活習慣の確立などの調和の取れた発達を目指す。
学科の到達目標	電力・電子・情報の3コースを設定し2年次からコースに分かれます。 電力コース(専門科目履修者)については電気主任技術者三種の「学校認定」制度を活用できる教育課程になっています。 電子コース(専門科目履修者)については工事担任者の「科目認定」制度を活用できる教育課程になっています。 各コースの特徴は次の通りです。 電力コース:電力事業,電気工事業,各事業所の関連保守事業を中心とする業務向き。 電子コース:エレクトロニクス・通信関連産業向き。 情報コース:情報・通信関連産業の業務向きに対応。
学科生へのメッセージ	1.1年次においてはコースに分かれず共通的な内容を学習します。2.コース選択は科目の学習内容や自己の適性、将来の進路を考えながら保護者・担任とよく相談してください。3.関連する国家資格が数多くあります。専門技術の資格取得に積極的に挑戦しましょう。4.知識・技能・技術を自分のものにするために、目標を立てて自学・自習することを心がけましょう5.授業以外の行事や特別活動へも積極的に参加し、実際の体験を通して幅広い人間形成に努めましょう。

電気科 学習構造

普 国 地 数 理 保 外 家 特科 語 民 学 科 育 語 科 動



-								
教和	斗名	科目	名	履修学年	履修区分	単位数		
工	業	工業技	術基礎	1 学年	必履修	2 単位		
目	標	技術への	興味・関心		義や役割を理解され	せ,各分野における せるとともに,工業 度を育てる。		
使用教	科書	工業技術基	基礎 (実教)					
副教	対・	テスター	製作キット					
主な教	(具等	関数電卓						
実験実習	の場所	電気関係	実習室(電気	気棟,E棟,他)				
			授	業計	画			
進行	授業	(内容		目	標			
10名程	度のグル	レープで1	年間の次の	パートをローテー	ションします。			
実習パー	·							
1	電気計測	則I						
2	電気工事	F						
3	パソコン	/による制	御(コンピ	ュータの利用)				
4	電気工作	乍(テスタ	ーの製作)					
評価 方法	(作品の完成度や考察のまとめ方や内容及びレホート提出時の質疑応答に的確に答 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・							
履修者			心の教科です。 知識・技術をさまざまな体験を通して身に付けます。					

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		実習について関	実習について自	実習に関する基	実習に関する基
		心を持ち,その改	ら思考を深め,	礎的・基本的な	礎的・基本的な
		善・向上を目指し	基礎的・基本的		知識を身に付
言	平価の観点	て意欲的に取り			け、現代社会に
		組むとともに,創	活用し、適切に	し、実際の仕事	おける工業の意
*	よび趣旨	造的・実践的な態	判断し, 創意工	を合理的に計画	義や役割を理解
		度を身に付けて	夫する能力を身	し、適切に処理	している。
		いる。	に付けている。	するとともに,	
				その成果を的確	
				に表現する。	
評価には	おける比率 (%)	4 0 %	10%	40%	10%
評び価評	実習態度	50%	50%		
資価の割	作品・実験結果	5 0 %	50%	50%	50%
よ合	提出物・レポート			5 0 %	5 0 %

・10名程度のグループで学習します。詳細については、別途指示します。

計画の観点わより計画規模							
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	 技能 	知識・理解			
電気計測I	れ物がなく,電気事	ついて分析的に考 え,事実に基づき科	電気事象の測定について科学的に探求し, 過程や結果を的確に 表現できている。	いて測定方法や法則			
電気工作	れ物がなく,電気部 品の取り扱いにつ	電気部品の取り扱いを分析的に考え, 事実に基づき科学 的に判断できている。	の技術について科学 的に探求しようとし	作技術を身に付けて			
電気工事			電気工事技術について科学的に探求し,過程や結果を的確に表現できている。	具の使用方法や工事			
パソコン	れ物がなく,プログ	ついてより効率的 な方法を習得しよ	プログラム作成について,処理方法や出力様式についても探求し工夫している。	いて操作方法や表現			

教和	科名	科目	名	履修学年	履修区分	単位数
工	業	美	習	1 学年	必履修	2 単位
目	標	1	• • • • • • •		礎的な技術を実際 芯できる能力と態度	の作業を通して総合 度を育てる。
使用教	(科書	電気・電	子実習1(実教出版)		
副教	材等	関数電卓				
実験実習	目の場所	電気関係	実習室(電	気棟,E棟,他)		
			授	業計	画	
進行	授業	(内容		目	標	
10名程	と度のグノ	レープで1	年間の次の	パートをローテー	ションします。	
実習パー	•					
5	電気計測	ij I				
6	電気工	F				
7	パソコン	/による制	御(コンピ	ュータの利用)		
8	電気工作	乍(テスタ	一の製作)			
内容に	ついては	電気主任技	技術者3種の	認定を考慮した内	容となっている。	
評価	各授業毎のレポート,製作作品及び授業取り組み態度の総合評価 (作品の完成度や考察のまとめ方や内容及びレポート提出時の質疑応答に的確に答					
方法	えられること。)					
履修者へ一言	専門の名			な体験を通して身にます。	こ付けます。	

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		実習について関	実習について自	実習に関する基	実習に関する基
		心を持ち,その改	ら思考を深め,	礎的・基本的な	礎的・基本的な
		善・向上を目指し	基礎的・基本的	技術を身に付	知識を身に付
言	平価の観点	て意欲的に取り	な知識と技術を	け,環境に配慮	け,現代社会に
		組むとともに,創	活用し,適切に	し、実際の仕事	おける工業の意
*	3よび趣旨	造的・実践的な態	判断し, 創意工	を合理的に計画	義や役割を理解
		度を身に付けて	夫する能力を身	し、適切に処理	している。
		いる。	に付けている。	するとともに,	
				その成果を的確	
				に表現する。	
評価にお	おける比率(%)	4 0 %	10%	4 0 %	10%
評び価評	実習態度	50%	50%		
資料 お割	作品・実験結果	5 0 %	50%	5 0 %	5 0 %
お合	提出物・レポート			5 0 %	5 0 %

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
電気計測I	れ物がなく,電気事 象の測定について	ついて分析的に考	電気事象の測定について科学的に探求し, 過程や結果を的確に 表現できている。	電気事象の測定について測定方法や法則を理解し、知識や技能を身に付けている。
電気工作	れ物がなく,電気部 品の取り扱いにつ	いを分析的に考え,	的に探求しようとし	作技術を身に付けて
電気工事	れ物がなく,電気工	に考え, 事実に基づ	電気工事技術について科学的に探求し,過程や結果を的確に表現できている。	電気工事について工 具の使用方法や工事 の知識や技能を身に 付けている。
パソコン	れ物がなく,プログ	ついてより効率的 な方法を習得しよ	プログラム作成について,処理方法や出力様式についても探求し工夫している。	いて操作方法や表現

±4-1	N 57	扒口力		屋板兴仁	屋板は八	片件料
	斗名 · **	科目名		履修学年	履修区分	単位数
	.業	製図	→ 1.	1学年	│ 必履修	1 単位
	4-111					図について基礎的な
目	標				凶なとを止しく訴	み、図面を構想し作
/ / m -	71.11.±	成する能力と態				
	教科書	電気製図(実教		021)		
		生徒用製図用具				
実験実	習の場所	D棟3階・電気				
	Г		授	業計	画	
進行		授業内容			目	
]の基礎			•	S規格で電気製図に必要
4 月		具とその使い方	-	な知識を習得する	00	
		する規格				
5 月	線と文字	<u> </u>				号の書き方、また製図用
	図記号				扱い方を習得する。	
	投影図法			・各種の投影法とそ	の特徴を理解する。	
	・第三角 ・等角図					
6 月	・等角区・断面区					
0)1	・展開図					
7 月	及闭区	ı				
-:						
9 月	☆基礎製	図検定全員受検		基礎製図検定取得	i F	
	2 製作	図				
	線の用法	②図示の方法		・製図に用いる線の	種類と用法を理解す	る。
10月	尺度と寸	法記入		・製図を書く際の主	投影図の選び方、寸流	結れる。記号の用い方、
	寸法公差	•		適した図示方法を	理解する。	
	表題欄・	部品欄及び材料	記号			
11月						
		送要素				. Martine I No. A Indiana
12月	ねじ				-	る製図方法や規格寸法・
		ナット・小ねじ	•	種類などを理解す	=	シナ アロタル トッ
1 月	歯車			1	関の方法・規格など	
				・一版の電気設備・	电スパスないでは、	図の基礎を習得する。
2 月						
3 月						
	• 製図/3	- 製品を作スらレ	すス	L レき	部品の販売・修理	あるいは使用する場
						建物の電気配線など,
履修者				かすことができま ^っ		
へ一言				らを学習します。		
				れることになりま ^っ	す。休まないよう	にしましょう。
	> * // * /		~	. # = = 1 - 5 / 5	, 0 11 01 01 01 0	

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		図面を作成するた	投影図や製作図を	製図機器を正しく	製図についての基
		めの製図機器に関	正しく読みとるこ	使って図面を正確	礎的な知識を理解
±-	で 一 の 知 ト	心を持ち, 製図機器	とができ、実際に	に作成したり、実	し, 製図機器を使
計	平価の観点	の使い方を意欲的	製品を作る側の要	際の製作図を表現	って図面を構想
*	よび趣旨	に学び, 実際に製作	求を判断して正確	できる能力を身に	し、作成する能力
		図を作成する能力	な図面を構想し,	付けているか。	を身に付けている
		を身に付けようと	迅速かつ容易に作		カ₂°
		しているか。	成できる能力を身		
			に付けているか。		
評価には	おける比率 (%)	10%	30%	30%	30%
評	授業への取り組み姿勢	7 0 %	10%	10%	10%
価 資評 料価	提出物	10%	30%	30%	30%
および	課題	10%	30%	30%	30%
0, 1	製 図	10%	30%	30%	30%

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
製図の基礎	礎的な知識や技術に 関心を持ち,その改善	的な知識と技術を活用 して適切に判断し, 創意 工夫する能力を身に付	・製図の各分野に関する 基礎的・基本的な技術を 習得し、実際に活用する 能力を持ち、その成果を 的確に表現することがで	的な知識を身に付け,工 業における製図の意義や
投影図法	に付ける。	・基礎的な投影図法を理解し物体の捉え方が判断できる。	きる。 ・投影図が正しく的確に 図示できる。	・投影図法の基礎的な知識を身に付けている。
製作図機械要素		・機械要素の基本的な種類を思考し判断できる。	・機械要素を正しく的確に図示できる。	・機械要素の規格を調べ,その違いを理解できる。
製作図「屋内配線図」		・屋内配線図とその描き 方を思考し、図示方法を 的確に判断できる。	・回路図を正しく的確に図示できる。	・回路図から実際の配線を理解できる。
製作図 「回路接続図」		・回路図とその描き方を 思考し,図示方法を的確 に判断できる。		

数	 科名	科目名	,	履修学年	履修区分	単位数	
	業	情報技術		1学年	- 必履修	2 単位	
目	標	社会におもに、情報	おける情報技術に	報化の進展と情	報の意義や役割知識と技術を習	を理解させるとと	
油田	教科書	新しい情報	技術 其礎	(十一人社)			
	数行 <u>音</u> 数材・	AN CV THERE	以 們				
	教具等						
実験実	習の場所	HR教室					
			授	業計	画		
進行	授	業内容		目	標		
4 月		:情報技術 展と産業社会 の基本構成と動作		と情報技術に関する基礎 における情報の意義や8。		業社会に及ぼす影響を	
5 月	周辺装置 情報のモラ ソフトウェ 中間考査	• •	・周辺装置	の構成と動作を理解する について理解する。 ェアに関する基礎的な知			
		グシステムの基礎		ティングシステムに関す		, .	
		ンソフトウェアの活用		ーションソフトウェアの 、ニュー思して ####		· ·	
6 月	プログラミ: 流れ図	ングの基礎	・プログラム言語に関する基礎的な知識と技術を理解する。・流れ図の基礎的な知識と技術を理解する。				
7 月	期末考査		1/1L4 UZI 0/2	金焼印がお加載で1文別でき	E内年 9 つ。		
	C言語の基	· 礎	・C 言語の	基礎的な知識と技術を理	 U解する。		
8・9月							
1 0月	中間考査						
	ハードウェ			10進数,16進数を理			
1 1 日		見と取り扱い		加算・減算を理解する・			
1 1月	論理回路の 期末考査	を受ける。	AND 回路	各,OR 回路,NOT 回路,	NAND 回路,EX-OR	凹路を埋解する。	
1 2月	70个行旦						
	マルチメテ	•	・マルチメ	ディアの概要・基礎・点	京用を理解する。		
		基礎・応用		· F			
1 月	情報技術検 データ通信	定3級対策		信の基礎を理解する。 一クの基礎を理解する。			
	アータ連信		・ホットリ 	ンの基礎を理解する。			
2 月) 1) <u>A.</u> W.					
3 月	学年末考査	E					
履修者へ一言	集中して受		できる教科	です。また,情報技術基		こ臨む姿勢・準備を怠らず、 へとつながる教科です。一	

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		情報について関心	産業社会における	利用目的に応じ効	情報技術, 情報活
部	平価の観点	を持ち,授業に臨む	情報活用の在り方	率よく作業を行う	用に関する基礎的
		姿勢ができており,	を考え,考察し,	ことができ,工業	な知識と技術が理
	よび趣旨	意欲的に学習に取	判断することがで	技術者として望ま	解できている。
		り組む態度を身に	きる。	しい情報活用がで	
		付けている。		きる。	
評価にお	ける比率 (%)	20%	20%	30%	30%
評	定期考査		3 0 %	3 0 %	6 0 %
	小テスト		20%	20%	4 0 %
料評	提出物	30%	20%	20%	
おんの	発表	20%			
び 割合	授業に臨む姿勢・準備	10%	30%	30%	
	レポート・課題	4 0 %			

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
産業社会と	授業に臨む姿勢・準備が できており、意欲的に学 習に取り組もうとしてい る。	の在り方、著作権について	情報技術が産業社会に及ぼ す影響を理解し、工業技術者 として望ましい情報活用が できる。	る基礎的な知識を身に付け,
ソフトウェア		作業するためのアプリケ	簡単な操作方法を習得し,ア プリケーションソフトを実	的な知識と技術が理解でき
プログラミン	授業中の発表に積極的に 参加しようとしている。	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	流れ図に基づき処理内容に 適した言語プログラムを作 成することができる。	
ハードウェア	授業中に行う問題を積極 的に解こうとしている。		処理装置の構成と動作,周辺 装置を理解し,利用目的に応 じ,装置を組み合わせ活用す ることができる。	知識と技術,処理装置の構成
制御・通信	授業中に行う問題を積極 的に解こうとしている。	理解し、これからのマルチ	ネットワークのしくみを理解し,インターネットや電子メールなどを活用することができる。	解し,インターネットや電子

教	 科名	科目	 名	履修学年	履修区分	 単位数		
	 L業	電気基	•	1 学年	必履修	4 単位		
目						っを式の変形や計算による と態度を身に付けることを		
使用	教科書		氢氢基礎 1	新訂版(実教出版)				
副教材・	主な教具等							
実験実	習の場所	HR教室						
	1		授	業計	画			
進行	~	業内容			目 標			
4 月	第1章 直流回路	流回路 らの電圧と電流			、並列接続、電池の接続、 法則を用いて未知電流を対			
5 月	電力と熱エ 中間考査	ネルギー		熱作用、電力と電力量 について理解する。	、温度上昇と許容電流、も	ゼーベック効果、ペルチエ		
	電気抵抗		・抵抗率、 する。	導電率、抵抗温度係数	、絶縁抵抗、接触抵抗、抗	 接地抵抗などについて理解		
6 月	第2章 電		・ファラデーの法則、一次電池、二次電池について理解する。 ・アンペアの右ねじの法則について理解させ、電流によってどのような磁界がつくられるかを理解する。					
7 月	電流と磁界 期末考査 磁界中の電流に働く力		・電磁力の向きと大きさの求め方、方形コイルに働くトルクの求め方、平行な線状導					
9 月				体間に働く力の求め方について理解する。 ・環状鉄心の磁気回路及び鉄のBH曲線(磁化曲線)について理解する。 ・電磁誘導現象、誘導起電力の向きと大きさ、インダクタンス、電磁エネルギーに				
10 月	電磁 中間考査	エネルギー	ついて理	解する。 				
	第3章 静電荷と電			よる静電現象を身近な	例によって理解させ、クー	-ロンの法則を利用して		
11 月	コンデン		・コンデン		ついて理解し、合成静電容			
12 月	期末考査 第4章 交	を放電現象導 ぶ流回路	- 絶縁帗塄	現象、絶縁破壊電圧の	強さ、放電現象について野 	里解する。 		
1 月	交流の基		・正弦波交流の発生原理、角周波数と周波数の関係、正弦波交流の瞬時値と実効値 平均値などについて理解する。					
2 月	R、L、Cの働き		ル表現と	計算方法などについて	理解する。	ご直列回路に関するベクト		
	工業標準テ	J	・消費電力	識定着の度合い,専門 、力率、皮相電力、無		掲する物理的な意味を理解		
3 月	学年末考査	Ē	する。					
	交流電力]		、力率、皮相電力、無 らに関する計算ができ		曷する物理的な意味を理解		
履修者へ一言	す。理解す		授業をしっか	り聞き、たくさんの問題	, , ,	らめずに続けることが大切で 復習をし、繰り返し問題を		

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		電気に関する事象は	常に,物理的な意味	電気事象を正確に観	一つひとつの知識を
言	平価の観点	数式により表現でき	を考え,変化に対す	察するための注意を	融合させ、種々の電
		ることへの興味を持	る結果を考察するこ	怠らず、実験器具の	気事象に対して適切
ょ	よび趣旨	ち,新しい事柄に対し	とができる。	機能を正確に理解し	な考え方をすること
		て積極的に学習に取		て取り扱うことがで	ができる。
		り組む。		きる。	
評価に	おける比率 (%)	20%	20%	30%	30%
	定期考査		10%	30%	7 0 %
┃ 評 ┃ 価	小テスト		30%	30%	3 0 %
資 料	提出物	30%			
評価資料およ評価の	発表	10%	20%		
よび 割 合	授業への取り組み 姿勢	2 0 %			
	レポート・課題	40%	40%	40%	

評価の観点および評価規準

平価の観点お	よび評価規準			
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
¥.		・さまざまな電気量を式の	・電気に関する単位や諸量を	・電流と電子の関係、電圧・
直流	・授業を休まず、板書を	変形や計算によって処理	適切に表すことができる。	電流・抵抗の関係について理
電気	ていねいに分かりやす	するための基礎的な知識	・オームの法則により、諸量	解している。
電気回	くまとめようとしてい	や技術を適切に活用する	を求めることができる。	
路	る。	ことができる。		
			・電流・電圧・抵抗の関係か	・電流によって発生する熱量
∉ 工	・ノート・課題などを確		ら電力・電力量を求めること	の関係及び,電力・電力量に
電力ル	実にかつ期限までに提		ができる。	ついて理解している。
電力と熱ーネルギー	出している。			

	・電気現象に興味や関心	・さまざまな磁気現象につ	・磁力・磁界・磁束および磁	磁気の働きや電流と磁気の
電	を持ち、意欲的にその原	いて,深く考えることがで	 気回路において各諸量を計	関係について理解している。
流 と	理を理解しようとして	きる。	算し、求めることができる。	
電流と磁気	いる。			
×(
	・さまざまな電気量の計	・磁気に関する基本法則か	・誘導起電力の大きさ・向き	・磁界の働きから電流を発生
電 電 磁 磁 エ	算を積極的にかつ正確	らどのような電気技術が		させる現象, 電磁誘導作用に
磁素	に行おうとしている。	進歩しているのかを考え		ついて理解している。
誘導と		ることができる。		
			 ・2点間に働く静電力を表	
静		などについて, 応用的に考	 し,計算することができる。	 気中放電現象について理解
静電気		えることができる。	合成静電容量を求めること	している。
			ができる。	
		・生活の中で交流電力の利	・正弦波・非正弦波交流を表	・正弦波交流の周期・周波
交		用を,実社会で如何に活用	すことができる。正弦波交流	数・瞬時値と最大値および平
交流回路		し、役立てるかを考えるこ	の大きさを表すことができ	均値・実効値について理解し
凹 路		とができる。	る。	ている。
			l	

-	58	-
---	----	---

建築科

	60	
-	υυ	-

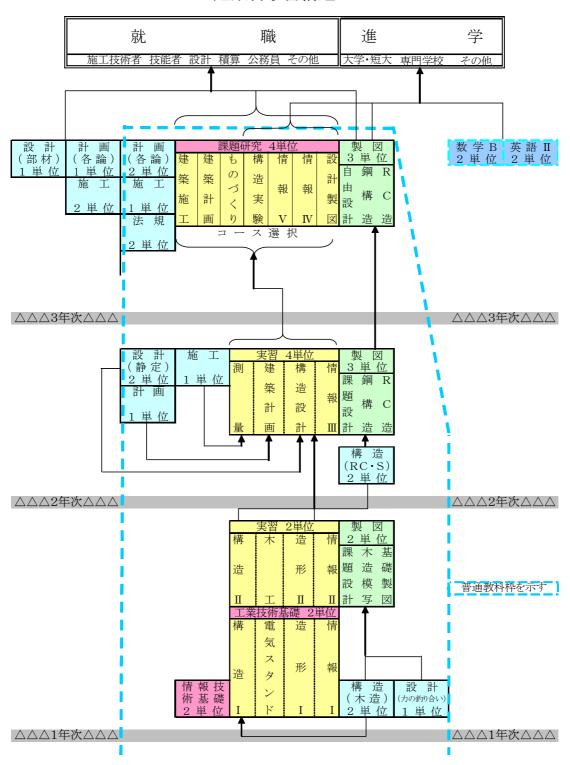
_	61	_
-	$\mathbf{v}_{\mathbf{I}}$	-

244	4	Þ
子	科	名

建 築 科

学 科 の 目 標	人間生活にとって欠かすことのできない条件として,「衣・食・住」があげられます。本校建築科での学習内容は,この「住」の建築物です。「建築物」は,個人的・社会的な人間生活を包み込むものであり,便利で快適でより安全な生活空間の創造が求められています。 最近の科学技術の飛躍的な発展は,建築の分野においても新材料の開発・施工技術の向上・コンピュータの導入と,めざましい進歩をもたらしています。 これらの新しい知識・技術を生かして建築物の創造に携わっていくために,建築科では建築設計製図(建築製図の読み書き)を中心にして,各種実習・実験・建築構造(建築物の骨組み)・建築計画(建築物のプラン)・建築構造設計(建築物の力学)・建築施工(建築物の工事)・建築法規(建築物の法律)などを学習しています。
学科の到達目標	建築に関する知識と技術を習得させ、建築技術関係の分野において建築物の設計製図・施工などの業務に従事する技術者を養成しています。 卒業後、三年以上の実務経験で、二つの国家試験等が受験できます。一つは、2級建築士が受験できます。この2級建築士に対応できる学科科目・建築製図の習得をさせています。また、2級建築施工管理技士が受験できます。この試験については、在学中に学科を受験することができ、合格者は学科が免除され実地試験のみとなります。
学科生への メッセージ	建築科の卒業生には、建築業界の職場で(建築の現場)・建築設計(建築の設計事務所・積算事務所)・その他多くの職種、建築の公務員として活躍されています。また、最近は工学部建築学科(四年制大学)・各種専門学校への進学希望が多く、学校での補習(数学・英語)も行われています。本校の教育課程においては、就職希望者は持ちろん進学希望者にも積極的に対応できるカリキュラムとなっています。本校での高校生活がより一層充実できるよう努力してください。

建築科学習構造



教	<u></u> 科名	科目名		履修学年	履修区分	単位数
工	業	工業技術	基礎	1 学年	必履修	2 単位
П	4-1111				験させ、各分野におけ	
目	標	・関心を高め,上第 工業の発展を図る意			もに、工業に関する広	い倪野を養い,
使用	数科書	高等学校工業用「二				
		高等学校工業用「愛	建築構造 」実	数出版		
副孝	数材・	初めてのデザイン教	文室 エルラ	テ出版		
	数具等	その他自主編成資料				
実験実	習の場所	建築棟工業基礎実置				
`#: 4=;			受 <u>業</u>	計画		
進行		授業内容	155 2114 cm 174 17		標	
4 月		テーション (パソコン))方,報告書につい)仕組みと構成を理		
		(デザイン)		仁組みと構成を埋 基本とする構造や形		
5 月	電気スク			設計製図の作成方		
- / •		木造軸組模型)			作図方法を習得する。	
	中間考査	Ē				
	情報 I	(パソコン)	・簡単な計算	重・プログラムの作	り方仕組みを習得する	0
6 月	造形 I	(デザイン)	・ワインボト	・ル(円柱,円錐)	のスケッチの作成方法	を習得する。
	電気スク		・支柱の穴を)け、台座の製作方	法を習得する。	
7 月	構造(元 期末考査	木造軸組模型) E	・基礎の役害	理解と作製,床組	各部材の理解と作製方	法を習得する。
	情報 I	(パソコン)	・インターネ	ベットの基礎を理解	 する。	
9 月	造形 I	(デザイン)	・リンゴ3個	目とコーヒー茶碗〔	球〕の構図を理解する	0
	電気スク	タンド	・真鍮パイフ	『の加工作業を習得	する。	
		木造軸組模型)	・床組の理解	なと作製, 柱・梁に	ついて理解する。	
1 0月	中間考査					
		(パソコン)		ベットの活用と実践		
1 1 🛭	†	(デザイン)			遠近法の表現技法を習	得する。
1 1月	電気スク	メント 木造軸組模型)		シェードの製作方 『材の理解と作製方		
1 2月	期末考査		- 中国形红1円以入口	州の理解と旧級力	伝で自行りる。	
1 2/1		- (パソコン)	・インターネ	 ベットの実践方法を	 翌得すろ	
1 月		(デザイン)		で舎の模写技法を習		
- / •	電気スク				・・・・。 業と点検方法を理解す	る。
	構造(ク	木造軸組模型)	・小屋組を理	1解し部材の作製方	法を習得する。	
2 月	現場見学		・木構造をよ	り深く確かなもの	として理解するために	実際の現場を見
3 月	学年末考	查	学する。現	見場の都合により年	度途中に変更すること	もある。
履修者	工業基础	遊は実社会の基礎・	基本につなが	り,実習服工具の鏨	を理整頓・清掃・集合隊	k形なども指導し
ペー言					=業に心がけて,作品を	
	げるようタ	努める。グループ作	業が中心とな	るので,各自が積極	返的な取り組みを心掛け	<u>ナる。</u>

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		工業技術に関する	工業技術に関する	工業の基礎・基本	工業の基礎・基本
		諸問題について関	諸問題の適切な解	的な技術を身に付	的な技術を身に付
	評価の観点	心を持ち、その改善	決を目指して広い	け、安全や環境に	け,工業の発展と
	および趣旨	・向上を目指して意	視野から自ら考え、	配慮し、合理的に	環境との調和の取
		欲的に取り組むと	基礎的・基本的な知識しままれる。	計画し、適切に処理なる はん	れた在り方や現代
		ともに、創造的、実践的な態度を身に	識と技術を活用し, 創意工夫する能力	理するとともに, その成果を的確に	社会における工業の意義や役割を理
		付けている。	耐息エス 9 る能力 を身に付けている。	表現する。	解している。
評価	 近における比率 (%)	2 5 %	25%	30%	20%
	11.22.15.50	0/	<u> </u>		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
評価	出席状況	2 5 %			
価資料およ	学習態度	5 0 %	3 5 %	20%	20%
	于日忠反	3 0 70	J J /0	2 0 /0	2 0 /0
び評価	作品		25%	4 0 %	40%
の			2 0 70	1070	1 0 /0
割合	提出物	2 5 %	40%	4 0 %	40%
	(レポート等)	2 0 /0	4 0 /0	4 0 /0	4 0 /0

半価の観点および評価規準					
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	コンピュータについて関	コンピュータ社会について	流れ図記号の意味が理	コンピュータについて理解	
	心を持ち,コンピュータを	考え、著作権・プライバシ	解でき、活用できる。	し, 意義や必要性を理解	
情報 I	利用していく上での	-の保護について理解し	キーボードの位置を把握	している。	
月 平以 1	創造的実践的な態度	適切に判断でき、プロ゛	し、流れ図からプログラムコ	インターネットを活用しての	
	を身に付けようとし	ラムの流れを判断思考す	ート゛を記述できる。	情報収集方法を理解し,	
	ている。	ることができる。		活用できる。	
	現代社会の中での	対象物に応じた表現	線の強弱をつけること	遠近法や透視図法の基	
	デザインの重要性に関	方法を判断することが	ができる。線の角度と方	本的な原理を知り、様々	
	心を持ち,またデザイン		向直線に慣れ、水平線で	の形態のものに応用でき	
造形 I	を通して表現するこ	全体の構図・構成を判	も垂直線・斜線でもひく	3次元的に表すことがで	
	とのおもしろさを知	断し,より効果的なデザ	ことができる。	きる。	
	って意欲的に取り組	心を考えることができ	肘を中心に腕を動かし		
	もうとしている。	る。	線を引くことができる。		
	形態・質を変化させ	加工技術について考	製品を構成する部品の	必要な機能を理解し,	
	る加工について関心	え,基礎的な知識と技術	計測ができ,製品を図面	作成手順を知ることがで	
電気スタ	を持ち、必要な器具を	を活用して適切に判断	化できる	きる。	
电気パク	適切に使用している。	し, 創意工夫する能力を	基礎的な技術を使っ	加工方法や材料の性質	
✓ I.	また技術を積極的に	身に付けることができ	て,原材料を加工する。	を理解し, 的確な管理を	
	身に付けようとして	る。	その過程や作品を的確	行い製作できる。	
	いる。		に発表できる。		
	木構造に関心を持	縮尺の概念を理解す	作製方法を理解して,	各部材が諸図面にどの	
		ることができる。		ように表示されているの	
	に意欲をもって取り	各部材の組み合わせ	することができる。	かを理解できる。	
	組んでいる。	方・補強方法などが理解	作業内容によって工具	当該部材について、そ	
	図面の表示方法に	できる。	などを的確に選択でき,	の役割や他の部材との関	
構造	ついても,理解を深め	効率よく,より良いも	使用方法については工夫	連、更に接合方法につい	
	るために努力してい	のを作ろうと努力する	に努めている。また,安	ても理解ができる。	
	る。	ことができる。材料の無	全作業を心掛けて大切に		
		駄遣いをなくすように	扱うことができる。		
		努力をすることができ			
		る。			

教科名		科目名		履修学年	履修区分	単位数		
工	業	実 習		1 学年	必履修	2 単位		
	1 	工業の専門(建築)) 分野に関す	る基礎的な技術	で実際の作業を通し	て総合的に習得させ、		
目標		技術革新に主体的に	対応できる能	力と態度を育っ	てる。			
使用教科書 高等学校工業用「情			報技術基礎」	実教出版「建築	築実習2」実教出版			
副教	(材・	パソコン教科書Word	d/Excel/Pov	ver Point2007				
主な	教具等	建築製図道具一式 名	ト種模型・木 I	Ľ用工具 ,	自主編成資料			
実験実	習の場所	建築棟工業基礎実習	室,木造実習	室,コンピュー	ータ室,E校舎造形室	<u> </u>		
		授	業	計	画			
進行		授業内容			標			
4 月	オリエン	ケーション						
	情報Ⅱ	(コンピュータ)	・コンピュー	-タの基本的な	構成とその役割を理解	解する。		
5 月	造形Ⅱ	(透視図)	・住宅の和原	風・洋風玄関の	透視図模写を習得する	る。		
	木工		・製作図に基	基づき部材を取	るための製材を習得る	する。		
		(木造軸組模型) -	模型台の作	「製,基礎伏せ	図を理解する。			
	中間考査							
		(コンピュータ)			要を理解し、Wordの基	. ,		
6 月	6 月 造形Ⅱ (透視図)			・直方体の透視図、屋根の平行透視図を描く方法を習得する。 ・木工機械による加工、寸法を部材に墨付ける方法を習得する。				
7 🏻	木工	(_ 						
7 月	構垣Ⅱ 期末考査	(木造軸組模型) ►	・基礎の役割理解と作製と基礎伏せ図を理解する。床組各部材の理解					
ļ			と作製方法を習得する。 ・Wordの基礎(2)を習得する。					
9 月	1	(コンピュータ)		. ,		Z		
	9 月 造形Ⅱ(透視図) 			・成角足線透視図で平屋建を描く方法を習得する。 ・部材加工(1)を習得する。				
1 0月		(木造軸組模型)	`	gと作製と柱・	梁を理解する。			
0/,	中間考査		» (•) • • • • • • • • • • • • • • • • •	TO THAT CITE	7, C. 2 , 7, 7			
	情報Ⅱ	 (コンピュータ)	・Wordの基础	游(3)、Excelの見	 基礎(1)を習得する。			
		(透視図)			く方法を習得する。			
1 1月	木工		・部材加工(2),組み立て方法を習得する。					
	構造Ⅱ	(木造軸組模型)	• 軸組構成部	『材を理解し,	作製方法を習得する。)		
1 2月	期末考查	Ē						
	情報Ⅱ	(コンピュータ)	・Excelの基準	遊(2)を習得	よする。			
1 月	造形Ⅱ	(透視図)	・室内透視図を描く(洋風)方法を習得する。					
	木工		・組み立て・完成・点検・手直しを習得する。					
2 月	月 構造Ⅱ (木造軸組模型) ・小屋組を理解し、作製する方法を習得する。							
	現場見学		・木構造をより深く確かなものとして理解するために実際の現場を見					
3 月	学年末考	香	学する。野	見場の都合によ	り年度途中に変更する	る場合もある。		
履修者	実習は多	実社会の基礎・基本に	こつながるので	で, 実習服・工	具の整理整頓や清掃・	・集合隊形なども指導		
ペー言	していきる	ます。各種の工具の正	こしい使用方法	まを身に付け, 着	安全作業に心がけて,	作品を最後までやり		
ı						を心掛ける。		

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		工業技術に関する	工業技術に関する	工業の基礎・基本	工業の基礎・基本
		諸問題について関	諸問題の適切な解	的な技術を身に付	的な技術を身に付
		心を持ち, その改善	決を目指して広い	け、安全や環境に	け,工業の発展と
	評価の観点	・向上を目指して意	視野から自ら考	配慮し、合理的に	環境との調和の取
	および趣旨	欲的に取り組むと	え,基礎的・基本	計画し、適切に処	れた在り方や現代
		ともに,創造的,実	的な知識と技術を	理するとともに,	社会における工業
		践的な態度を身に	活用し,創意工夫	その成果を的確に	の意義や役割を理
		付けている。	する能力を身に付	表現する。	解している。
			けている。		
評句	当における比率(%)	25%	25%	30%	20%
評価	出席状況	2 5 %			
評価資料およ	学習態度	50%	3 5 %	20%	20%
よび評価	作品		2 5 %	4 0 %	4 0 %
の割合	提出物 (レポート等)	2 5 %	40%	40%	40%

,	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	コンピュータについて関心を	コンピュータの基本的な構成	情報に関わるモラルや著作権	コンピュータの歴史を理解でき
	持ち,コンピュータを利用して	や役割を理解し、応用する	について理解することがで	る。
	いく上での創造的・実践的	ことができる。	きる。	Excel で作られた表を
情報Ⅱ	な態度を身に付けようと	インターネット接続, Word,	Word, Excelなどを利用	Wordの文章に取り込むこと
	している。	Excelなどの基本を理解し	し,目的に応じた表現や処理	ができる。インターネットなどから
		応用することができる。	をすることができる。	の情報を取り込むことがで
				きる。
	建築物を平面的に図面	ものが立体的に見える	透視図法を理解し,計画さ	透視図を描く上での図法上
>1 -44 -	化したものより視覚的に	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	れている建築物を完成され	の原則を理解するとともに,
造形Ⅱ	立体化したものを描き出		た姿として,より具体的で現	建築物各材料の質感の表現
(透視	す透視図方法に関心を持	-, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -	実感があり,さらに見る人に	方法, 添景の表現方法など,
図法)	ち,表現方法を自ら研究・	適用していく判断力があ	対してその建築物を印象的	また着色方法など様々な知
	工夫しようとしている。	る。	に訴えることのできる表現	識・技術を修得し、応用する
			をすることができる。	ことができる。
	ものづくりに関心を持		施工上の難点を理解し、き	木材の特徴を理解し,製作
	っている。	の状況や危険性を考えて	れいで正確な仕上がりを求	物にふさわしいものを選択、
	慎重で確実な作業態度		めるための工夫をすること	施工できるだけの能力を身
木工	を身に付けようとしてい	製作図をもとに完成さ		に付けることができる。
	3.	れた姿を創造しながら正	.,	成果や反省を整理でき,更
	常に仕上がりを意識し、	確に仕上げるために合理	各工具の使い方を修得し、	に工夫改善,応用を考えるこ
	丁寧で正確さを求めよう		きれいで正確に仕上げるこ	とができる。
	としている。	ができる。	とができる。	を 神井 沙井 同 デルートの し
	=	縮尺の概念を理解する	作製方法を理解して、よい	各部材が諸図面にどのよ
	解を深めるために意欲を		作品を作ろうと努力するこ	うに表示されているのかを 理解できる。
	もって取り組もうとして	各部材の組み合わせ方 ・補強方法などが理解でき	とができる。 作業内容によって工具な	
構造Ⅱ	いる。 図面の表示方法につい		どを的確に選択でき、工夫に	当該部材について,その役割や他の部材との関連,更に
		- 0	努めている。また、安全作業	接合方法についても理解で
			を心掛けて大切に扱うこと	きる。
	る。	ることができる。	ができる。	©.9°
	90	000000000000000000000000000000000000000	200	

教	教科名 科目名 履修学年 履修区分 単			単位数	
工	業	製図	1 学年	必履修	2 単位
目	標	製図に関する日本工業規格			
[] 	かかま	習得させ、製作図・設計図な			
	教科書	·	├製図」 実教出版「新版 -	新しい建築製図」	
	主な教具等	学芸出版建築実習棟 製図室	<u> </u>		
夫峽夫	習の場所	建築棟製図室 授			
進行			末 引 四 目	 標	
4 月	製図の基	V 771 V 1			ない決労制団の甘
4 月	• • • • —	s平)練習	・線の描き方や種類,文	子・数子の描さ力な	よと建築製図の基
		が育 この練習	礎を理解する。 ・着色の仕方, 製図の表	ニコロナ、畑畑十つ	
5 月		リング	・看色の任力, 製図の表 ・製図に取り組む姿勢,		1
		表示記号	・ 製図に取り組む姿勢, 基本的なことを十分理),正歴天)なこ,
	中間考査		本本的なことを「力程	77千 / つ。	
		 用住宅設計図	 ・製図の教科書を見て,	·バランスかども考え	 シたがら 木浩亚
6 月		1, 立面図, 断面図	を建の製図を, 縮尺ど		
] ,	期末考査		・各種図面を描く中で、		-
7 月		- ベ製図コンクール課題	理解する。	, E , E ,	
' '			・全国から集まる製図コ	ンクールに向けて,	4ヶ月間学んだ
			ものを集中して表現し		
			に仕上げる)		
	平屋建専	用住宅設計図			
9 月	立面	i図・断面図			
	各供	(図・軸組図			
1 0月	断面	i詳細図			
	中間考査	<u> </u>			
	自由設計	ト<平屋建専用住宅>	・建築科の生徒として、	約半年間学んだ知識	戦をもとに, 自分
1 1月		計の説明	の理想の家(平屋建)	を設計する。	
	エスキ		・教科書を写す製図と違		ı
1 2月	期末考查	<u> </u>	を研究したりすること	で、木構造について	「の知識を深める。
	作図				
1月	0 7 k 7 to -t	- III /) 			
2 月	2 階建専	•	・木造2階建専用住宅の	描き方を,教科書の)通りに書き写し,
0 1		・ 平面図 ・ 平面図 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	理解する。		
3 月		i図・断面図 i詳細図・各伏図・軸組図			
	学年末考				
			(L)+1-10 12 1-40 1. 1 2 1	20 人国办知园 ·	2
履修者		云統ある県工建築科の製図を助	他担にまじめに努力すれた	は、全国の製図コン	クールでも人員が
限修名 へ一言	可能です。	図に求められるもの(技術・ ⁻	ランフ・ 期間総営など、	· トノ 知 M - 古 N ロ +	囲わ供って取り知
` ` =			ヒレク・別収厳寸など)を	こよく知り, 向い日4	际で付つ(取り組
	んでくだる	⊇ v .º			

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		各種建築工事に使	各種建築工事に使	各種建築工事に使	建築設計製図に関
		用される設計図書	用される設計図書	用される設計図書	する学習や作図・
		を作成することに	作成に関する諸問	作成に関する基礎	課題演習を通し
		関心や探究心を持	題を総合的な見地	的・基本的な知識	て,建築設計製図
			から的確に把握	を習得するととも	に関する基本的な
	評価の観点	意義や役割の理解		に、創意工夫して	概念や総合的な把
	および趣旨	および諸問題の解		設計製図法を探求	握の仕方を習得
		決を目指して, 主体		する方法を身に付	し,各種建築工事
		的に学習に取り組			における設計図書
		むとともに、建築技		や結果およびそこ	の意義や役割,作
		術者としての望ま	断し、創意工夫し	から導き出される	図手順を理解して
		しい心構えや態度	· ·	考え方を的確に表	いる。
		を身に付けようと		現することができ	
		している。	いる。	る。	,
評価	における比率(%)	25%	25%	25%	25%
評価資料	出席状況	20%			
および評価	学習態度	60%	20%	20%	20%
価の割合	作品	20%	80%	80%	80%

н трат -> годи	計画の観点およの計画規率					
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解		
	決められた期限の	線や文字の描き方等,	すべての建築製図の基	先輩の作品などを見た		
建築製図	中でまじめに取り組	正確に表現できるよう	礎となる知識を,身に付	り、先生の話を聞いて、		
の基礎学	もうとしている。	に創意工夫する能力を	け, その成果を的確に表	自分なりに工夫した作品		
習		身に付けることができ	現できる。	にしようと努力できる。		
		る。				
	決められた期限の	平面図等の描き方を	上から見た図面,横か	先輩の作品などを見た		
各図面の	中でまじめに取り組	活用して,正確に表現で	ら見た図面など、各図面	り、先生の話を聞いて、		
描き方	もうとしている。	きるように, 創意工夫す	の表現を的確にできる。	自分なりに工夫した作品		
1冊でク		る能力を身に付けるこ		にしようと努力できる。		
		とができる。				
	決められた期限の					
	中でまじめに取り組	意工夫する能力を身に	の線・文字に意味がある	めには何が必要か知り,		
図コンク	もうとしている。	付けることができる。	ことを再確認し,最大限	実行できる。(枚数・取		
ール			に正確に描くことができ	組時間等)		
			る。			
木造平屋	決められた期限の		建築基準法を遵守し,	決められたルール以外		
建専用住		バランスよく表現でき		は、自由に自分のセンス		
宅自由設	もうとしている。	るように、創意工夫する	を書くことができる。	で表現し、見る者を惹き		
計	工夫して取り組もう	能力を身に付けること		つけることができる。		
	としている。	ができる。				
	決められた期限の		The state of the s) L -		
	中でまじめに取り組	1	た2階建図面の表現を的			
	もうとしている。	きるように, 創意工夫す	確にできる。	自分なりに工夫した作品		
宅設計図		る能力を身に付けるこ		にしようと努力すること		
		とができる。		ができる。		

教 教	 科名	科目名		履修学年		履修区分	単位数
工		情報技術基礎		1 学年		<u>必履修</u>	2単位
		社会における情報化	の進月		と割を到		, ,
目	標	る基礎的な知識と技術					
使用	教科書	「情報技術基礎新訂版」	」実都	数出版			
副教材・	主な教具等	関数電卓(取扱説明書)				
実験実	習の場所	ホームルーム教室					
		授		業計	画		
進行		授業内容			目	標	
4 月	現代社会	とコンピュータ	• =	ンピュータで扱う			
	ハ° ーソナルコ	コンピュータの基本構成	• =	ンピュータの基本	構成·禾	川用例を理解する。	
5 月		アとソフトウェア		ードウェア・ソフ			-
	_	ム,データの保守と安全 -			ーの保	護・コンピュータシ	ノステムの安全保護
	中間考査		+	ついて理解する。	LD /4-3-	·	
		ータの基本操作 ュータの使用と健康		ンピュータの基本 DT作業による健康			
6 月		ユータの使用と健康 ラムの作り方		九作業による健康 れ図の作成を習得		ツバく珪胜りる。	
		ミングの基礎	17/1	A OPPOSITION SEELING	7 .000		
7 月		ラム言語	・ブ	ログラムの基本的	な作成	の仕方を習得する	
	期末考查	E		· / / / · · · · · · · · · · · · · · · ·	54 11 /4/4		o .
	四則計算	 算のプログラム	•数	値・文字等の定数と	変数ℓ)扱い方や,各関数(の扱い方を習得す
9 月	データ(の読み込み	る	0			
"		理,繰り返し処理					
1 0月	中間考査	Ē					
17.7.7.	プログラ	 ミングの応用	·大	きなプログラムでは	 まサブ <i>ו</i>	レーチンや配列を値	 吏った処理が重要で
11月		ーチン,配列処理	1	ることを理解する			
1 1/1		とグラフィック	・フ	アイルの概念を理	解する	0	
12月		ル処理,グラフィック	・グ	ラフィックとテキ	ストの	違いを理解する。	
1 2/1	期末考查		ļ				
	ソフトウ:)	-
1 月		ソグシステムの基礎	1	ペレーティングシ			
	ハードウ:	ーションソフトウェア ェア	• י	ープロ・表計算等を	ヒ以り」	こり 基本的操作を基	主件りる。
		エク の表し方					
2 月	論理回路(
		置の構成と動作	. 9	進数,10進数,16	3 准数/:	こついて理解する	
3 月	周辺装置			定数,10定数,10 ンピュータの基本			
		言とコンピュータ制御		ータ通信システム			
	データi		・デ	ジタル信号、アナ	ログ信	号, LANについて	理解する。
		ュータ制御	・身	近な電気製品から	制御の	概念を理解する。	
		ータの歴史と特徴 ュータの発達					
		ュータの発達 ュータの特徴		ンピュータの進歩			で理解する。
		カコンピュータ利用	• F	A, OA, AIな	どの概	念を理解する。	
	学年末考						
	理屈の	上で理解しようとするの	では	なく,積極的に実際	祭にコン	ノピュータを操作す	することが大切であ
履修者		ゴリズム(プログラムの					· ·
へ一言		作成する。コンピュータ	の基	本操作理解の決め	手は失り	枚を恐れず ,まず	さわってみること・
	操作してみること。						

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		情報技術に関する	情報技術に関して	情報技術の各分野	情報技術の基礎的
		諸問題について関	適切な解決を目指	に関する基礎的・	・基本的な技術を
		心を持ち, 意欲的に	して広い視野から	基本的な技術を身	身に付け, 社会と
Ī	評価の観点	取り組むとともに,	自ら考え,基礎的	に付け,適切に処	工業の発展との調
2	および趣旨	創造的, 実践的な態	・基本的な知識と	理するとともに,	和の取れた在り方
		度を身に付けてい	技術を活用して適	その成果を的確に	や現代社会におけ
		る。	切に判断し, 創意	表現する。	る情報技術の意義
			工夫する能力を身		や役割を理解して
			に付けている。		いる。
評価に	おける比率 (%)	25%	25%	25%	25%
評	出席状況	20%			
価 評 資 価	学習態度	5 0 %	20%	10%	3 0 %
料およる	定期試験		40%	5 0 %	5 0 %
価資料および評価の割合	提出物	30%	40%	4 0 %	20%

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	コンピュータを利用	コンピュータ社会につ	データ・情報とは何かを	現代社会にコンピュータ
現代社会	していく上での創造	いて自ら考え、著作権・	知り,コンピュータのハ	が必須のものであること
とコンピ	的・実践的な態度を身	プライバシーの保護に	ードウェア・ソフトウェ	を理解し, その意義や必
ュータ	に付けようとしてい	ついて理解し適切に判	アの構成について的確に	要性を理解できる。
	る。	断できる。	表現できる。	
コンピュ	パーソナルコンピュ	VDT作業による健康阻	流れ図記号の意味が理解	流れ図が作成でき, プロ
ータの基	ータの基本的操作に	害について理解できる。	でき、活用できる。	グラムの基本構造を記述
本操作	関心意欲を持とうと			できる。
平1条1下	している。			
	積極的にキーボードに触	流れ図とコマンドが対		
ミングの	れようという意欲を	応していることを理解	し、流れ図からプログラ	数の扱い方が理解でき
基礎	持とうとしている。	できる。	ムコードを記述できる。	る。
プログラ	複雑なプログラムに		複雑なプログラムをサブ	大きなプログラムではサ
ミングの	も取り組もうとする		ルーチンで表現できる。	ブルーチンや配列を使っ
応用	意欲的な態度を持と	であることが判断でき		た処理が重要であること
, 2 , 14	うとしている。	る。		を理解できる。
ファイルとグラ	データについて関心		グラフィックとテキスト	データをファイルとして
フィック	を持とうとしている。	係について判断できる。	の違いを表現できる。	扱うことを理解できる。
	OSがコンピュータ	オペレーティングシス	ワープロ・表計算ソフト	オペレーティングシステ
ソフト	システムのコアであ	テムがどのようなもの	を利用して基本的操作が	ムがソフトウェアとハー
ウェア	ることについて関心	であるか判断できる。	できる。	ドウェアをつなぐもので
	を持とうとしている。			あることを理解できる。
	コンピュータのハードウェアが	ハードウェア・周辺機器	2進数16進数10進数	
ハード	どのような構成にな	を使ってどのようなこ	が相互に変換できる。論	上でデータの流れを理解
ウェア	っているのか関心を	とができるか自ら創意	理回路を読むことができ	できる。
	持とうとしている。	工夫することができる。	る。	
データ通信	データ通信について	アナログ信号とディジ	データ通信からLAN, イ	身近な電気製品で制御の
とコンピュー	興味関心を持とうと	タル信号の違いについ	ンターネットの仕組み説	概念を理解できる。
タ制御	している。	て判断できる。	明できる。	
	コンピュータの発達	コンピュータの発達が半導体	日常生活・産業界におけ	
	について興味関心を	の発達と密接な関係が		を理解できる。
史と特徴	持とうとしている。	あることを理解できる。	ついて説明できる。	

数别	科名	科目名		履修学年		履修区分	単位数
I	業	建築構造		1 学年			2単位
			築材料		か知識	,	実際に活用する能力
目	標	と態度を育てる。	VC 1.1.1.1	(四)(7) (四)(1)	- OK / NH HIS	we tyme and e,	
使用表	教科書	高等学校工業用	「建築	構造」 実教	出版		
副教材・	主な教具等	「建築構造図集」	実教出	出版			
実験実	習の場所	ホームルーム教室	[
		授		業計		画	
進行	-	授業内容			目	標	
4 月	建築構造	1	建築	科科目の中での位	位置ぐ	がけ及び建築構造以外	の教科との関連を理
	建築	いあらまし	解す	- 0			
	建築	至と法規・基準	建築	物は骨組・基礎	・仕上	から構成されている	ことを理解する。
	木構造		11기기	での発展過程を	= H □ □ 1	四年ファ	
5 月	構造形式			じの発展週程を 造形式の特徴の			
	木材	f				用途を理解する。	
				の役割と地盤等			
					,荷重	に適応する接合方法	及び金物が選択でき
	中間考査						
	軸組	1			組とは	壁の骨組であること	を知り,壁量算定方
		1.60		理解する。 組は建築物の用	涂 相样	1年に上り種類構成を	·選択しなくてはなら
6 月	小屋	<u> </u>					寸法及び接合・補強
				を理解する。			
7 🗆	期末考査	_			比較説	明し,間仕切壁の有	無により小屋組も変
7 月			ることを理解する。 ・床の支持状態により他の骨組との接合状態が変わる				
0 [床組	1				™組との接合状態が変 ・部材の役割等を理	
9 月	17Hz E17	L					://f
10 🗆	階段 中間考査	ζ		あることを理解			
1 0月		_				ている性能を学習し	
	仕上	:計画					。また、設置目的を
	_					性能も要求されると ある事を理解する。	共に、気密性及び外
11月							することを理解する。 することを理解する。
1.6 17	開口	1 制)	D = / 14 1		,,,,,		
1 2月	期末考查		h es			[.M. 44 44 .L.]	要
_ □							, 葺下地と合わせて の関連を学習し理解
1 月			生化しする。		タ 1.1ff	が「エエツて月租と	√ 房壁で 子白 し垤件
	W 44	74-6			ぞれに	和風・洋風仕上があ	り,使用する材の名
0 🗎	グト首	7仕上	称•	役割・間隔・大	きさ等	が室の使用目的によ	り変ることを理解す
2 月	 	3仕上	る。				
3 月	学年末考						
о Д	丁十八气	7 A					
履修者							未を持ったら, さらに
へ一言	深く自分が	から学習するようにし	てみて	下さい。又,建	建築物(の構成から構造の安全	全性を知って下さい。
	L						

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		建築物の構造や材	建築物の構造や材	建築物の構造や材	建築物の構造や材
		料に関心を持ち,こ	料に関する基礎的	料に関する基礎的	料に関する基礎的
		れらに関する基礎	な知識や技術の習	な知識や技術の習	な知識や技術を身
評	平価の観点	的な知識や技術の	得をもとに、自ら	得をもとに, 合理	に付け,現代社会
お	3よび趣旨	習得に意欲をもっ	思考し、判断した	的かつ的確に遂行	における建築物の
		て取り組むもうと	り創意工夫する能	する技能を身に付	
		している。	力を身に付けてい	けるとともに,成	意義や役割を理解
			る。	果を適切に表現す	している。
				ることができる。	
評価にお	3ける比率 (%)	25%	25%	25%	25%
評 価 評	出席状況	20%			
評価資料およ	授業の取組み姿勢	30%	50%		
お割	定期試験			50%	80%
よ合び	提出物	5 0 %	50%	50%	20%

ロー 山山 マン 再元 /	R. のよい計画 成年			
	関心・意欲・態度	思考·判断·表現	技能	知識・理解
	建築物は快適なも	人命を守るために建	建築物の構成・材料・	他の科目との関係を知
第1章	のであることを知り、	築物にどんな工夫がな	組立て方などについて学	り、さらに効果的な学習
建築構造	意欲を持って取り組	されているか学習し, そ	習し, 図等で正確に表現	ができることを理解でき
	もうとしている。	の安全性を判断できる。	できる。	る。
第2章	各構造形式に関心	木材の選び方,組立て	各構造形式の特徴を理	在来工法に加え種々の
211	を持ち選択するため	方で多くの構造形式が	解したうえで、それらを	工法が輸入されているこ
木構造 構造形式	に必要な知識を習得	あることを知り,特徴を	具体的に表現できる。	とを知り、特徴を理解す
(特) 地形式	しようとしている。	説明することができる。		ることができる。
	木材の特徴や性質	木材は,樹種により比	木取りにより表れてく	材料は規格が決められ
44 44	について関心を持ち,	重・強度が違うことを学	る木材の木理を理解し,	ていることを学び、合板
木材	長所・短所を知ろうと	び,使用する場所に適す	それらを図として正確に	・集成材についても理解
	している。	る樹種を選択できる。	描くことができる。	できる。
	建築物の最も重要	基礎の形式は状況に	基礎の形式や地業の形	役割を知り、上部構造
地 業	な部分である基礎・地	よって変化することを	式を正しく理解し,正確	部からの荷重が基礎・地
基礎	業に関心を持とうと	理解し,どの形式を選択	に表現することができ	業を通して地盤に伝えら
	している。	するか判断できる。	る。	れることを理解できる。
	接合でより長大な	場所,荷重の掛かり方	実習と関連付けて、簡	多くの方法があること
1.++ a	部材ができることを	で接合の種類を選択し	単なものを実際に木材に	を認識し、金物や接着剤
木材の	知り、その接合方法に	なければならないこと	墨付けして、加工するこ	等学習し、特徴及び使用
接合	関心を持とうとして	を知り,適切な方法を選	とができ、接合部の形な	方法を理解できる。
	いる。	択できる。	どを図示できる。	
+1 VH	構造・どのような方	各部位での使用材料	部材の名称や構成方法	荷重の伝わり方を学
軸組	法で荷重を支え伝達	・組み立て方などを学習	などを学び、理解した上	び、様々な荷重に対しど
小屋組	しているかに関心を	し,外力に対し抵抗して	で図や図面として表すこ	の部材が有効に働いてい
床組	持とうとしている。	いる力を理解できる。	とができる。	るかを理解できる。
	役割を知り、構成に	法規によって規制さ	種類や構造的なことを	使いやすさ, 安全性に
nth cu.	関心を持ち、使いやす	れていることを知り,適	理解し、正確に表現でき	気を配らなければならな
階段	く安全なものに関心	切な計画ができる。	る。	いことを理解できる。
	を持とうとしている。			
// / =1	どんな性能を求め	材料について学習し、	性能に対し、どのよう	耐候性等が必要なこと
仕上計画	られているかに関心	理解したうえで、最適な	な仕上げにすればよいの	を認識し、雨仕舞や安全
開口部	を持とうとしている。	ものを選択できる。	かを学び、理解できる。	性等対処できる知識を身
仕上げ				に付けることができる。

± /r∃	<u></u> 科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数		
	产 <u>行</u> :業	建築構造設計	1学年	- 複修区分 - 必履修	1単位		
	- 未						
目	標	建築構造設計に関する能力と態度を育		技術を習得させ、構造	直物を合理的に設計		
使用	教科書	高等学校工業用	「建築構造設計」実教	出版			
副教材・	主な教具等	「基本式の理解と活	用 建築構造設計」	実教出版			
実験実	習の場所	ホームルーム教室					
		授	業計	画			
進行		授業内容		目標			
4 月	建築構造調	設計を学ぶにあたって					
	1「力のつ	りあい」					
	力			素,力の図式を理解する	0		
5 月			・力のモーメントを理ク	弊する。			
	中間考査	Σ.					
		L 成と分解	 				
6 月		スピカ府 こ働く力の合成と分解)	 ・1 占に作用する力の[図式方法,算式方法を習	! 得 す ス		
		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	1 ///(-11/13 / 0/3/->	20112, F-0112 E	10 / 20		
7 月							
' / 1							
	期末考查	Ē					
	カの合6	 成と分解					
9 月		、こカバー な力の合成と分解)	- ・平行な力の図式方法,算式方法を習得する。				
			111.673.72	F-OILCENT O			
1 0月	<u> </u>						
1 0/1	中間考査	Ē					
	力のつ!	 りあい					
11月		:働く力のつりあい)	 ・1点に作用する力の[図式条件,算式条件を習	得する。		
1 1/7	(作用)	点の違う力のつりあい)		式条件,算式条件を習得			
1 2月	-						
1 2);	期末考查	•					
	2 「構造物	勿」					
1 月	構造物			て捉えることを理解する か理解する	•		
2 月	荷重 反力		・荷重の種類と扱い方: ・構造物の支持方法と				
	安定		・反力を理解し、求め、				
	静定			定,静定・不静定を見極	返められる方法を習得す		
			る。				
3 月	1						
	学年末考	蒼					
	Z++ 6/5* +#* \	生乳乳の料剤サカフンン	ノー中野中羽みがねった	舞刹 しの即当ははさない	- 20両に内にて中央1		
	建梁博』 行う。	但取町の教件書のみでな	へ, 夫駛夫貿なと他の	教科との関連付けを行い	', 必安に心 しく 天願も		
履修者		練習問題を繰り返しさせ	ることにより、建築構i	告設計の基本的な知識を	十分理解し、身に付け		
へ一言	させる。				. ,		

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		建築物の安全性に	建築構造設計に関	建築構造設計を進	建築構造設計に関す
		興味・関心を持ち,	する知識と技術を	める手順を理解	る知識と技術を活用
		建築構造設計の学	身に付けて、建築	し,建築物をよく	して,建築物の安全性
1	評価の観点	習に意欲的に取り	物全体の安全性に	観察して, その安	について的確に判断
	および趣旨	組むとともに,建	ついて適切に判断	全性について的確	できる設計能力を身
_	N & O PEEP	築技術者の一員と	し, 創意工夫する	に判断し表現でき	に付けている。
		して多用な構造設	能力を身に付けて	る。	
		計に挑む心構えと	いる。		
		態度を身に付けよ			
		うとしている。			
評価に	おける比率 (%)	3 0 %	20%	20%	3 0 %
- 	出席状況	4 0 %			
i 評 価評	学習態度	5 0 %	7 0 %	7 0 %	
資 価	定期試験		20%	20%	7 0 %
料および	提出物	10%	10%	10%	30%

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
力の釣り合い	構造物を安全に維持するための力について関心を持ち意欲的に知ろうとする態度を身に付けようとしている。	力の性質を理解した 上で力の合成・分解・釣 り合いを考えることが できる。	り,作図・計算により処	力の基本的な性質を理解する。また図式,算式による処理の方法を理解できる。
構造物	多様な構造形式,力,そ の支持方法に関心を持ち 考えようとする態度を持 とうとしている。	実際の構造物を観察 し, モデル化して判断す ることができる。		各種の構造,荷重,支 持方法の組み合わせを理 解し,反力を計算するこ とができる。

	76	
-	70	-

土 木 科

-	78	-
---	----	---

- 79	-
------	---

学 科 名

土 木 科

学科の目標	土木に関する知識と技術を習得させ、土木建設技術分野において、土木工事の計画・ 設計・施工・維持管理などの業務に従事する技術者を養成する。
学科の到達目標	【学習】 ①図面が読め、図面が描ける。 ②測量ができる。 ③構造物設計のための基礎的理論を理解する。 ④土および水の性質とそれらの働きを理解する。 ⑤コンクリート・鋼材の性質とそれらの強さを理解する。 ⑥道路・鉄道・橋・トンネル・河川・ダム・上水道・下水道・港湾・空港・土地造成などの公共施設の計画・設計・施工・維持管理に関する概要を理解する。 ⑦コンピュータに関する基礎知識を理解する。 【進路】 ①建設会社の工事部門 ②設計会社(測量設計、構造設計、地質調査など) ③公務員(国土交通省、県庁、市役所、町村役場の技術職) ④進学(大学、短大、専門学校など)
学科生へのメッセージ	土木技術といえば「土と木を用いてものを造る」というイメージをもっていませんか。英語では「Civil Engineering」といいます。「Civil」とは「市民の」という意味です。人々が便利に・安全に・快適に生活するために必要な技術のことです。土木に関する基礎を学び、自然環境との調和を考えた豊かな社会基盤をつくるグランドデザイナーを目指します。 具体的には、①治水(洪水を防ぐ):河川の改修、海岸の改修②利水(水の利用):水源の保護(ダムを造り生活用水、農業用水、工業用水を確保する)③交通:道路、鉄道、港湾、空港の整備 ④都市計画と環境問題:健康で豊かな生活ができるように、交通、電気、ガス、上水道、下水道、廃棄物処理などの計画を行います。 土木技術は広範囲な内容をもっています。これらの公共的な施設を土木技術は広範囲な内容をもっています。これらの公共的な施設を土木技術といいます。これらの施設の計画・設計・施工(実際に造ること)維持管理を行う技術を土木技術といいます。

土木科の学習構造 [平成25年度入学生]

普通教科

国語·地歷公民·数学·理科 保健体育·芸術·外国語·家庭

工業の基礎科目

工業技術基礎 情報技術基礎

工業の共通科目

課題研究・実習・製図

土木科の専門科目

測量·土木施工·土木基礎力学

選択普通科目

数学B・英語Ⅱ

選択専門科目

社会基盤工学 土木構造設計

取得可能な資格

測量士・測量士補・2級土木施工管理技術検定(学科) · 危険物取扱者 · 火薬類取扱保安責任者

- ・小型車両系建設機械・計算技術検定・情報技術検定
 - ・パソコン利用技術検定など

進学

国公私立工学部土木系学科 専門学校土木系学科

就職

企業 (建設会社 測量・設計・ 地質調査会社)

公務員(国土交通省 県庁· 市役所 町村役場)

教	 科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数		
工	業	工業技術基礎	1 学年		2 単位		
目	標	る工業の意義や役割を	理解させるとともに	工,環境に配慮して	させ、現代社会におけっつ、工業技術の諸問題 と実践的な態度を育て		
使用都	教科書	工業技術基礎 (実教					
副教	·材·						
主な教	 数具等						
実験実	習の場所	土木科実習棟および核	で内敷地				
		授	業計	画			
進行		授業内容		目	票		
4 月	タッ5 ②トラ:	ピュータ実習 チタイピングの習得 ンシット実習		ブンス グの習得方法をむ 基本操作を理解す	·		
5 月	③製図	いろな文字の練習	・いろいろな文字・屋内配線の仕組	この種類を理解する。	5.		
	屋内 ①タッ	記線の仕組み チタイピングのテスト 角の測定	・タッチタイピン	・			
6 月	③文字の練習 ④屋内配線図面基礎		・文字のかき方を理解する。 ・屋内配線図面のかき方を理解する。				
7 月	①長文(の入力練習	 	 -を理解する			
9 月	②多角形 ③文字(形の内角測定	・長文の入力方法を理解する。 ・多角形の内角測定方法を理解する。 ・文字のかき方を理解する。 ・屋内配線図面のかき方を理解する。				
1 0月							
1 1月	①文章入力のテスト ②多角形の内角・距離測定 ③地図記号 ④配線実習		・文章入力のテストを通して文章作成方法を理解する。 ・多角形の内角・距離測定方法を理解する。 ・地図記号のかき方を理解する。 ・配線の方法を理解する。				
1 2月			-				
1 月	①ワープロの活用と応用 ②多角形の計算 ③平面図		多角形の計算力平面図のかき力	7を理解する。	解する。		
2 月 3 月	④配線	天白	・配線の方法を理	E円牛 9			
履修者へ一言		:実習は密接に関連して 设告書の提出期限を守り		習する内容を充分	う理解し,図面,作品,		

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		工業技術に関する諸	工業技術に関する	工業の各分野に関	工業の各分野に関
		問題について関心を	諸問題の適切な解	する基礎的・基本	する基礎的・基本
		持ち、その改善・向	決を目指して広い	的な技術を身に付	的な知識を身に付
= 3	で 一 の 知 上	上を目指して意欲的	視野から自ら思考	け、環境に配慮し、 実際仕事を合理的	け、現代社会にお
	7価の観点	に取り組むととも	を深め、基礎的・	に計画するととも	ける工業の意義や
*	および趣旨	に, 創造的, 実践的	基本的な知識と技	に、その成果を的	役割を理解してい
		な態度を身に付けて	術を活用して適切	確に表現すること	る。
		いる。	に判断し, 創意工	ができる。	
			夫する能力を身に		
			付けている。		
評価には	おける比率 (%)	25%	25%	25%	25%
	実習の取り組み				
≇ ₩	姿勢	50%	50%		50%
評 価 評	提出物	- 0.0/	- 0.0/	0.00/	- 0.0/
▲ 資 価		50%	50%	80%	50%
料の割	発表				
よ合				20%	
び					

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
コンピュータ	コンピュータについて 関心を持ち,タッチタ イピングの習得に意欲 的に取り組もうとする 態度を身に付けようと している。	文章入力の際に、どの様 に工夫すれば正確に早 く打てるかを考え、創意 工夫することができる。	ることによりタッチタイ	定着から、ワープロ活用 の技術を習得し、その応
トランシット	地面に決められた角 度を求める方法とし て具体的例を挙げる 態度を身に付けよう としている。	トランシットの各部の名称,働きが理解できる。	の測定ができ, 野帳記	
製図実習		意工夫する能力を身に	正確な図面を書くことができ、実際に活用する能力と実践的な態度を身に付けている。	
電気実習		電流,電圧,電気抵抗の関係および違いが判断できる。	屋内配線図を正確に読み 取ることができる。	電気に関する基礎的・基本的な知識を身に付けて おり、現代社会において 電気工事が持つ意義や役割を理解できている。

教	 科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数	
工	 業	実習	1 学年	必履修	2 単位	
目	標	工業の専門 (土木) に習得させ,技術革新)作業を通して総合的 育てる。	
使用製	教科書					
副教	(材・					
主な	教具等					
実験実	習の場所	土木科実習棟および校	内敷地			
		授	業計	画		
進行		授業内容		目	馬	
4 月	②水準	の基本操作 則量		具の基本操作を理		
5 月	③製作 舗装	用コンクリート平板ブ ク製作図			≅を理解する。 ▽製作図(表面デザイ	
	いろい ①放射 ②昇降5	ハろな線の練習 生 式	・昇降式による高	面図の作成方法を 低差測量を理解す	-る。	
6 月	③型枠2 ボルト ④線の約		□・型枠加工・組み立て(寸切ボルト加工)方法を理解する。□・線のかき方を理解する。			
7 月						
9 月	①道線法 ②器高式 ③鉄筋・加工組み立て(溶接) ④線の練習		・器高式による高	組測量を理解する 低差測量を理解す 立て(溶接)の仕 解する。	-る。	
10月						
		則量 水準測量 クリート打設・養生	・細部測量の方法 ・交互水準測量の ・コンクリート打		・理解する	
11月	④地図		・地図記号のかき		·ZIII) '00	
12月						
1 月	②くい	平面図作成 打ち調整法 管理(X ーR管理図) 図	・校内平面図作成 ・くい打ち調整法 ・品質管理(XーI ・平面図のかき方	を理解する。 R管理図)のかき	方を理解する。	
2 月						
3 月						
履修者	座学と実	習は密接に関連している	・ ます。座学で学習す	る内容を充分理解し	、、図面,作品,課題,	
へ一言	報告書の	提出期限を守りましょ	う。			

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		土木分野の基礎的な	実験・実習のなか	土木分野の基礎的	実験・実習の体
		知識と技術に関心を	で諸問題の解決を	な知識と技術を身	験・学習を通して,
膏	呼価の観点	持ち、その習得に向	めざして自ら思考	に付け,実際に活	基礎的な知識と技
*	3よび趣旨	けて意欲的に取り組	を深め、知識と技	用するとともに,	術を理解してい
		むとともに実際に活	術を活用して適切	その成果を表現す	る。
		用しようとする態度	に判断する能力を	ることができる。	
		を身に付けている。	身に付けている。		
評価には	おける比率 (%)	25%	25%	25%	25%
	実習の取り組み				
評	姿勢	5 0 %	50%		50%
一 価 評	提出物				
資 価		5 0 %	50%	80%	50%
料のお割	発表				
よ合				20%	
び					

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
平板測量	平板測量による放射 法,道線法,交会法に よる測定について理解 しようとする態度を身 に付けようとしてい る。	平板測量器具の各部の 名称,特性が理解でき る。	平板を正しく用い,放射 法,道線法,交会法によ る測定ができる。	道線法による測定で生じた閉合の調整ができ、細部測量を行い、縮尺に応じた平面図の作成が理解できている。
水準測量	水準測量が我々の生活にどのように関わっているかに関心を示し、観測や計算処理	管軸の原理を理解し、観 測の際には現場の状況	レベルを正しく据えて標 尺を正しく読み取り,昇降 式,器高式の測量が理解 できる。またその結果を 野帳に正しく記入でき計 算ができる。	識を交互水準測量や精密 水準などの応用的分野に 発展させることが可能で
製 作 実 習	を持ち、その製作に意	の比率を理解するととも に, 状況に応じた材料選	道具などの基礎的・基本 的な操作と安全な取り扱 いができ、設計図通りの 構造物を製作することが できる。	本的な知識を身に付けて
測量製図		意工夫する能力を身に	製図道具やドラフタを正確に利用し、図面を正しく書くことができる。	測量製図に関する基礎的・ 基本的な知識を身に付け ており、図面の意義や役割 を正しく理解できてい る。

数	 (科名	科目	夕	履修学年	履修区分	単位数		
工	*************************************	測		1学年		2 単位		
	未							
目	標	測量に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。						
使用	教科書	測量(実	汝出版)					
副参	枚材・	土木実習	2 (実教出版	(j)				
主な	教具等	巻尺・トラン	シット・平板-	一式・レベル・標尺				
実験実	習の場所							
			授	業計	画			
進行	授業	纟内容		目	標			
	距離の測	量	「測量」の概	既要及び意義を認識する	るとともに,正しい路	巨離測量技術を習得する。		
4 月								
	角の測量 			子部の名称および特性を		7/P 1		
5 月		-	・角度や整準	港、求心を正確迅速に	元収り、 行り技術を管	首侍する。		
	中間考査			H Mid No.), 707 /P) w			
	角の測量		1 対回の	見測法,野帳の記入法	ど首待する。			
6 月	 骨組測量	t	• トラバース測lー{	量の目的,種類と測量料	清度を理解する。			
ОЯ	11/12/03	-		交角・距離の測定方法				
7 月	」 期末考査	E	・三角,三辺	2測量の目的,計画,	踏査選点,実施及び成	対果作成を理解する。		
			 ・平板標定を	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 シ習得する。			
	1			ラバースの調整法につい゙				
9 月	細部測量	1.	・アリダードによる高低差の測定方法及びスタジア法について習得する。					
			・座標法,倍	宫横距法,三角区分法,	屈曲部における面積	責計算を習得する。		
1 0月	中間考査	Ē						
			・水準測量,	クイ打ち調整法の目的	及び基本的用語を理解	マナる。		
	_			り、基本測量による分類				
1 1 🗆	高低の測	量		最高式の測定法及び野 ^は				
1 1月				≧及び各種数量計算,₹ 上積の計算を習得する。		7法, 尽局法, 等局稼		
1 2 🗆	-	_	17111491	Lイ頂「ンクロl 昇で自行りる。				
1 2月	期末考査	È						
	1			■・性質による種類を理解を理解を理解しています。				
1 月	加具の部	9 学		†算処理(最確値・標準 が同じ場合の計算方法を				
0 [測量の誤	完定		ドロン場合の計算が伝 ド異なる場合の計算方法				
2 月	1							
3 月								
		,						
	測量の学	習には次のこ	とが大切にな	らります。				
	(1)何事に	もコツコツ。	と真剣に取り	組む姿勢を持つ。				
履修者	者(2)文字や数字は、丁寧にわかりやすく記入する習慣をつける。							
へ一言				にもとづいて筋道を立				
				は,その原因を究明し 対策として,早朝およ				
			-		○꺄⋏⋫⋉⋉⋐間目又未?	C 11 7 C 4 . C 4 . D 3 0		
		欠かさずに受講して底力を養おう。						

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の観点		測量に関心を持ち、	測量における基本	創意工夫して測量	各種建設工事にお
	よび趣旨	主体的に取組む態度	的な知識を活用し	技術を探求する方	ける測量の意義や
1) よ () (型) 日	を身に付けている。	て判断する技術を	法を身に付け、的	役割を理解してい
			身に付けている。	確に表現する。	る。
評価にま	おける比率 (%)	25%	25%	25%	25%
	定期考査			50%	80%
評価評	小テスト			20%	20%
価資料な	授業の取組み姿勢	50%	50%		
お ま よ び	提出物	5 0 %	50%		
	課題			30%	

評価の観	点および評価規準			
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
距離の測量	・繊維製巻尺・鋼巻尺・インパール巻尺の目盛の刻み 方および特性を理解し ようとしている。	・巻尺の正しい引出し方および仕舞い方ができる。・巻尺の目盛りを正しく読み取ることができる。	算ができる。	・巻尺の伸縮による補正の仕 方が理解できる。 ・距離の補正計算ができる。
角の測量	・各部の名称及び働きを 理解しようとしている。 ・角度を正確迅速に読取 ろうとしている。	・器械を測点に正確迅速に 据付けることができる。	・単角の1対回観測, 野帳記 入及び野帳計算をして, 正確 な交角を求めることができ る。	・4 視準点の 2 対回観測を行い倍角差,観測差を求めて, 観測値の良否を判断できる。
骨組測量	・進んで閉合トラバースの測定角の調整をしている。 ・方位角及び方位の計算に意欲を持って取り組んでいる。 ・三角,三辺測量の目的を理解しようとしている。	・任意角のCOS及びSINの真 数を求めることができる。 ・緯距・経距の計算ができる。 ・三角の計画, 踏査選点が 理解できる。	・合緯距・合経距を求めて、各測点をプロットすることができる。	・結合トラバースの角度の調整, 緯距・経距の調整を行って, 各測点の座標値を決定する ことができる。 ・三角の辺長,座標計算が理 解できている。
細部測量	・各種器具の名称及び特性を理解しようとしている。	・平板を正しく標定できる。・放射法,道線法,交 会法による測定ができる。		・複雑な地形の細部測量を行い、所定の縮尺に対応した地形図を作成することができる。
高低の測量	・進んで気泡管の感度を 求めようとしている。 ・クイ打ち調整法を理解 しようとしている。 ・両端断面平均法にを用 いて土積の計算をしよう としている。	の目盛りを正確に読みと	野帳を正しく記入して,各点の標高を求めることができる。 ・等高線法により土積の計算	・縦横断測量を行い縦横断面 図が書ける。 ・縦横断面図に計画線を入れ て、各種数量が求められる。 ・地形図上でプラニメーターを用い て、山の土量やダムの貯水量 を求めることができる。
測量の誤差	・誤差の原因による種類 を理解しようとしている ・誤差の性質による種類 を理解しようとしてい る。		・測定条件が同じ場合の計算ができる。 ・測定条件が異なる場合(軽重率)の計算ができる。	・最確値や標準偏差等の基礎 知識を身に付け、その意義や

教		科目	 名	履修学	华年	履修区分	単位数
工	業	土木基	礎力学	1 学年		必履修	3 単位
目	標	土木構造力と態度を		基礎力学は	二関する知	識と技術を習得さ	がせ, 実際に活用する能
使用	教科書	土木基礎	力学1(実教	め出版)			
副参	材・						
主な	教具等						
実験実	習の場所						
			授	業	計	画	
進行		(内容			目	標	
4 月	土木構造 力の合 _反 梁の外力	戊と分解	・構造物の・力の合成・梁の受け	えと分解,	力の水平	分力と鉛直分力を	を理解する。
5 月	中間考査	F					
	梁の内力		・梁の受け	るせん断え	力, 曲げっ	モーメントを理解	する。
6 月	梁を解く		- ・せん断力	図, 曲げ	モーメン	ト図を理解する。	
7 月	期末考查	Ē					
9 月	梁の影響 中間考査		・反力,せ	・ん断力,自	曲げモーク	メントの影響線を	理解する。
1 1月 1 2月	部材断面の性質		・断面一次	モーメン	卜,断面二	二次モーメントを	理解する。
1 月 2 月 3 月	期末考査 トラス 標準テス 学年末考	. ŀ	・トラスの	意味を学習	習し, 部本	オ力を理解する。	
履修者へ一言	ず,その	都度理解~	できるまで取	対組む必要	がありま		いことを先延ばしにせ -。。

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の観点		土木基礎力学に関心を	土木基礎力学に関し	土木基礎力学の各分	土木基礎力学の各分
	よび趣旨	持ち, 意欲的に取り組	て思考を深め, 適切に	野における技術を習	野における知識を習
4) A UNEX E	む態度を身に付けてい	判断する能力を身に	得し,成果を的確に表	得し、社会での役割を
		る。	付けている。	現する。	理解している。
評価にま	3ける比率 (%)	25%	25%	25%	25%
評	定期考査			50%	80%
価 評	小テスト			20%	20%
一番の料理を	授業の取り組み姿勢	50%	50%		
お割 よ合	提出物	50%	50%		
CV	発表			30%	

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
土木構造 物と力	土木構造物に関心を持ち、意欲的に学習する姿勢と今後に生かそうとする実践的な態度を身に付けようとしている。	土木構造物に関する学習 を通して、身の回りにある 構造物がどのように分類 されるのか判断できる。	土木構造物に関する基礎的・基本的な知識を身に付けており、様々な土木構造物の名称やどのような場所で施工されているか答えることができる。	土木構造物に関する基礎的・基本的な知識を身に付けており、現代社会において、 それがどのような意義や役割を持っているか理解できている。
梁の外力	梁の外力に関心を持ち, 意欲的に学習する姿勢と 今後に生かそうとする実 践的な態度を身に付けよ うとしている。	梁の外力に関する学習を 通して、身の回りにある構 造物の支点反力がどのよ うに使い分けし利用され ているか判断できる。	梁の外力に関する基礎的・基本的な知識を身に付けており、様々な梁の名称や用途、どのような場所で施工されているか答えることができる。	り、構造物において、それが
梁の内力	梁の内力に関心を持ち, 意欲的に学習する姿勢と 今後に生かそうとする実 践的な態度を身に付けよ うとしている。	梁の内力に関する学習を 通して、身の回りにある構 造物でどのように使い分 けし利用されているか判 断できる。	梁の内力に関する基礎的・基本的な知識を身に付けており、様々な梁の名称や用途、どのような場所で施工されているか答えることができる。	本的な知識を身に付けており,構造物において,それが
梁を解く	梁のせん断力・曲げモーメントに関心を持ち、意 欲的に学習する姿勢と今 後に生かそうとする実践 的な態度を身に付けよう としている。	梁のせん断力・曲げモーメントに関する学習を通して、身の回りにある構造物でどのように使い分けし利用されているか判断できる。	梁のせん断力・曲げモーメントに関する基礎的・基本的な知識を身に付けており、様々な梁の名称や用途、どのような場所で施工されているか答えることができる。	梁のせん断力・曲げモーメントに関する基礎的・基本的な知識を身に付けており、構造物において、それがどのような意義や役割を持っているか理解できている。
梁の影響線	梁の影響線に関心を持ち、意欲的に学習する姿勢と今後に生かそうとする実践的な態度を身に付けようとしている。	梁の影響線に関する学習を通して、身の回りにある 構造物でどのように使い 分けし利用されているか 判断できる。		梁の影響線に関する基礎的・基本的な知識を身に付けており、構造物において、それがどのような意義や役割を持っているか理解できている。
部材断面 の性質	部材断面に関心を持ち, 意欲的に学習する姿勢と 今後に生かそうとする実 践的な態度を身に付けよ うとしている。	部材断面に関する学習を 通して、身の回りにある構 造物でどのように使い分 けし利用されているか判 断できる。	り、様々な梁の名称や用途、	部材断面に関する基礎的・基本的な知識を身に付けており、構造物において、それがどのような意義や役割を持っているか理解できている。
トラス	トラスのしくみに関心を 持ち, 意欲的に学習する 姿勢と実際に問題解決す る実践的な態度を身に付 けようとしている。	して,外力の種類によって 適切な判断をし,多種の	トラスに関する基礎的・基本 的な知識を身に付けており、 様々な外力に対して、支点反 力(鉛直・水平方向)を求め ることができる。	的な理論を身に付けており, 構造物設計においてそれが

教科名		科目名		履修学年	履修区分	単位数	
工	業	情報技	術基礎	1 学年	必履修	2 単位	
目				的な知識と技術を		させるとともに,情 び情報手段を活用す	
使用表	数科書	·	基礎(実教)				
ł	(材・	114 1142 2114	1.,00 (342)				
主な	教具等						
実験実	習の場所						
			授	業計	画		
進行	授業	(内容		目	標		
	現代社会	ミとコンピ	・コンピュ	ータの基本構成と征	役割を理解する。		
4 月	ュータ						
	情報の管	理	・コンピュ	ータとデータ・シス	ステム・情報の保全	・保守を理解する。	
5 月	ソフトウ		・ソフトウ	ェアの基礎を理解す	する。		
	中間考査						
	ソフトウ			ーションソフトウェ			
6 月	ハードウ	アエア	・データの)表し方を理解する	00		
7 月	期末考查	Ē					
	ハードウ	/ェア	・論理回路	られる。 を理解する。			
9 月	プログ (基礎)	ラミング	・流れ図を	理解する。			
1 0月	中間考査	Ē					
			· BASIC	言語によるプログラ	ラミングを理解する	ó.	
	プログラ	ミング					
1 1月	(基礎)						
1 2月	期末考查	Ē					
	データ通	信・マル	データ通	信とネット通信を	·理解する。		
	チメディ	ア・コン	・マルチメ	ディアを理解する	0 0		
1 月	ピュータ	制御	・コンピュ	ータ制御を理解する	5.		
2 月							
3 月	学年末考	: 查					
履修者へ一言				めの状況などにより 解できるまで取り新		·。わからないことを	

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		情報技術に関する基	情報技術に関する諸	情報技術に関する基	情報技術に関する学
-	で年の年上	礎的な知識と技術に	問題の解決を目指し	礎的な知識と技術を	習をとおして,基礎
	平価の観点	関心を持ち,その習得	て自ら思考を深め,	身に付け,その技術	的な知識と技術を理
*	るよび趣旨	に向けて意欲・態度を	適切に判断する能力	を活用し,成果を適	解し、情報の意義・
		身に付けている。	を身に付けている。	切に表現することが	役割を理解してい
				できる。	る。
評価には	おける比率 (%)	2 5 %	25%	25%	25%
評	定期考査 (課題考査を含む)			50%	80%
価 評資 価	小テスト			30%	20%
料およる	授業の取り組み 姿勢	5 0 %	50 %	20%	
び	提出物	5 0 %	50%		

一川 Vノ街に	点および評価規準			
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	コンピュータの基礎ついて関	コンピュータモラルに関する学習	コンピュータに関する基礎的・基	コンピュータに関する基礎的・基
コンピ	心を持ち, 意欲的に取り	を通して、情報に関わるモ	本的な知識を身に付け,入力	本的な知識を身に付けてお
ュータ	組むことができる姿勢と	ラルや著作権について正	ができる。	り,現代社会においてコンピュ
の基礎	実践的な態度を身に付け	しい判断ができる。		-タが持つ意義や役割を理解
	ようとしている。			できている。
	ソフトウェアついて関心	ソフトウェアを理解し,	ソフトウェアに関する基礎	ソフトウェアに関する基礎
ソフト	を持ち, 意欲的に取り組	OS と応用ソフトウェアの	的・基本的な知識を身に付け	的・基本的な知識が理解がで
ウェア	むことができる姿勢と実	関係を考察することがで	ることができる。	きている。
ソエノ	践的な態度を身に付けよ	きる。		
	うとしている。			
	ハードウェアついて関心	データの表し方・論理回	データの表し方・論理回路	データの表し方・論理回路
ハード	を持ち, 意欲的に取り組	路を理解することができ	に関する基礎的・基本的な知	に関する基礎的・基本的な知
ウェア	むことができる姿勢と実	る。	識を身に付けことができる。	識が理解できている。
ソエノ	践的な態度を身に付けよ			
	うとしている。			
	プログラミングついて関心を	プログラム作成の基礎である	プログラミングに関する基礎	プログラミングに関する基礎
プログ	持ち, 意欲的に取り組む	流れ図を作成する際, 適切	的・基本的な知識を身に付	的・基本的な知識を身に付け
ラミン	ことができる姿勢と実践	な部品を用いて図の作成	け,作成した流れ図をもとに	ており,情報社会においてプ
グ	的な態度を身に付けよう	を理解することができる。	プラグラムを作成すること	ログラミングが持つ意義や役割
	としている。		ができる。	が理解できている。
	マルチメディアの学習	コンピュータネットワー	コンピュータネットワーク	マルチメディア・データ通
マルチ	に、意欲的に取り組むこ	クを活用し、様々なデータ	やデータ通信を利用し,他の	信・ネットワークに関する基
メディ	とができる姿勢と実践的	や機能を適切に処理する	マルチメディアと活用でき	礎的・基本的な知識を身に付
ア制御	な態度を身に付けようと	ことができる。	る。	けており、情報社会において
通信	している。			コンピュータが持つ意義や
				役割が理解できている。
		0.1		

化学工学科

-	95	-

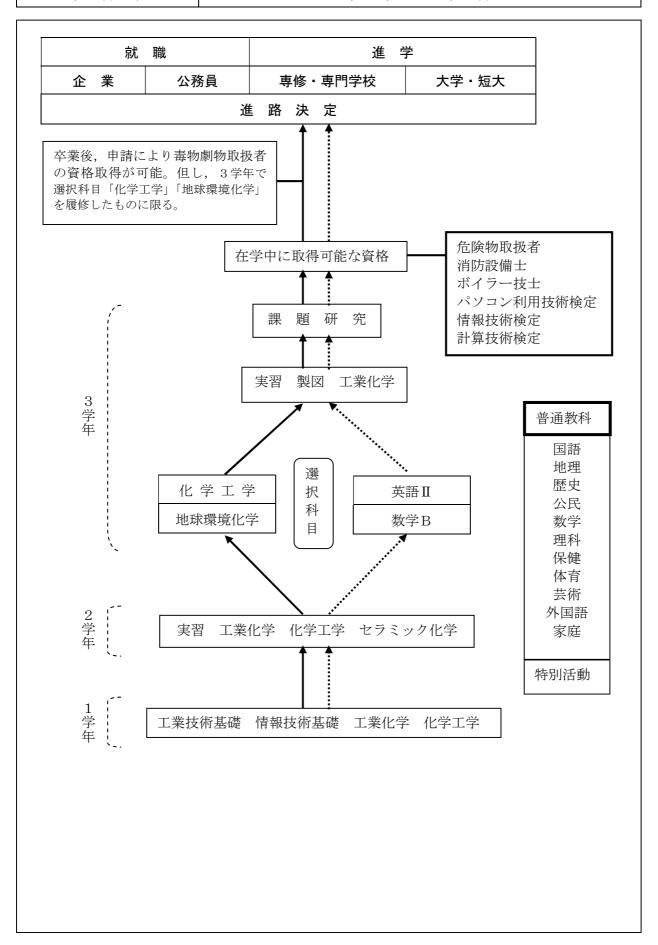
学 科 名

化学工学科

学科の目標	化学工学に関する知識と技術を修得させ、環境保全、化学工場、化学工業関係の分野において、工場装置の運転、保守点検、管理または企画、設計、公害防止、研究などの業務に従事する技術者を育成する。
学科の到達目標	・化学製品の分析、合成および製造装置の管理、および様々な分野での化学分析の仕事について活躍できる生産技術者を養成する。・化学技術を学習していく中で、現代のハイテク技術に関心を持ち、これを理解し深く関わろうとする姿勢を培う。
学科生への メッセージ	・現代の科学技術の進歩や水準を支える「化学技術」の役割を深く認識し、 仕事を通じて社会に貢献する技術者となるために、これらの基礎・基本 をしっかり学習し、また技術を磨こうとする姿勢を持ち続けよう。 ・化学工学関連の生産技術者を目指す者として、まず各科目の年間授業計 画をよく読んで授業に取り組むようにしよう。

学科名

化学工学科



纵	 科名	科目名	居	修学年	履修区分	単位数
工	<u> 業</u>	工業技術基礎	1学年			4 単位
		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		• •	2 - 1 -	, .—
	1 7776	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、情報及び情報手段を活用す				
目	標	お投州に関りる基礎に る能力と態度を育て		畝と扠削を	百付させ、旧報及	の情報子段を佰用り
	44) 					
	<u> </u>	工業技術基礎(実教)基礎製図練習ノート		小兴中羽 I	基却####################################	
副教 主な教		各種実習設備,実習				
	具す 3の場所	化学工学科 実習室		大日貝们	因奴电中	
夫峽夫官	ヨツ場別	<u> 化于工于科 天自宝</u> 授	業	計	画	
進行			*	ĒΙ	· ·	 標
進 11	(1) // 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 /				П	(示
4 ⊟		習の基本操作		友廷儿类式	ドルナ 白と 字野 レーブ	5-50 } r⊞ 60 - ~
4月		ど化を学ぼう		• 谷種化子後	で化を自ら実験して確	進認し,埋解でさる。
	(2)容量分			//. 		
_ =		分析で使用する器具の正	しい使	・使用器具 <i>の</i>)止しい使い方を習得	まする。
5月	用法					
		ンの基本操作				
6月		ピング練習とワープロの基	S礎	・ワープロ摸	操作ができる。	
	(4)図面の					
7 🗆	,,	格に基づいた製図の基礎	を製図	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		
7月	ノート	、を使用して学習する。		・文字と記号を書いて理解する。		
	期末考査					
	(1)化学実	習の基本操作				
	・重量を	分析技術		・目的成分	(硫酸銅中の結晶水)	を質量の測定により分
9月	(2)容量分	析技術		析して、評	呼価できる。	
	• 中和源	育定		・試料溶液を調製することができる。		
10月	(3)パソコ	ンの基本操作				
10/7	・ワーフ	プロの基礎, 集計計算の基	基礎	・ワープロ摸	桑作およびデータの集	美計計算ができる。
11月	(4)図面の	表し方				
11/1	・JIS規	格に基づいた製図の基礎	学習を	・線の種類と	2 用途を書いて理解す	-る。
	製図ノ	'ートより学習する。				
	期末考査					
12月	(1)化学実	習の基本操作				
1 🗆	• 重量分	分析技術		・目的成分	(銅) を質量の測定は	こより分析して、評価で
1月	(2)容量分	析技術		きる。		
2月	 中和源 	育定		中和滴定の)操作ができ,分析編	5果から評価ができる。
	(3)パソコ	ンの基本操作				
3月	・集計計	算の基礎		データの集	訓ができる。	
	(4)図面の表し方			・投影図と、	计法記入法を書いて 理	里解する。
	学年末考望	£				
工業に関する基礎的技術を実験 履修者への 工業に対する広い視野を持って即 メッセージ 評価方法については、出欠状況 り組む姿勢、これらを総合的に料				って取り組 欠状況,課	しんでいけるよう学 題や実習報告書の	全習する。

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		工業技術に関する諸	工業技術に関する	工業の各分野に関	工業の各分野に関
		問題について関心を	諸問題の適切な解決	する基礎的・基本的	する基礎的・基本的
		もち、その改善・向上	を目指して広い視野	な技術を身に付け,	な知識を身に付け,
	評価の観点	を目指して意欲的に	から自ら考え, 基礎	安全や環境に配慮	工業の発展と環境と
	および趣旨	取り組むとともに、創	的・基本的な知識と	し、実際の仕事を合	の調和の取れた在り
		造的、実践的な態度を	技術を活用して適切	理的に計画し、適切	方や現代社会におけ
		身に付けている。	に判断し, 創意工夫	に処理するととも	る工業の意義や役割
			する能力を身に付け	に, その成果を的確	を理解している。
			ている。	に表現している。	
評価	における比率 (%)	25%	25%	2 5 %	2 5 %
	レポート		25%	50%	70%
評価評質価	分析結果・作品の 出来ばえ			20%	30%
 	実習中の取組み姿 勢	50%	50%	30%	
び	受講態度	50%	25%		

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
化学実習の基本操作	自主的に学習し, 努力して実験に取り 組んでいる。	実験に知識を活用して,積極的に取り組んでいる。	実験の意義を理解し技 術・能力を活かして取り 組んでいる。	目的を理解し,実験内容を表現できている。
容量分析技術	操作手順をよく理 解して、積極的に取 り組んでいる。	4.1.1 2	操作法をよく理解し、 学習した知識を利用して 表現することができる。	測定データの正確さと計算式をいかに理解して使用しているか。報告書に見られる反省点や分析力の内容により判断する。
パソコンの基本操作	ワープロソフトに よる文書作成や集計 計算ソフトによるデ ータの集計について 関心をもち, 意欲的 に取り組む態度が身 についている。	計計算ソフトを利用して文書作成やデータの 集計をするための手順 や結果のまとめを考え,	ワープロソフトや集 計計算ソフトを利用して 文書作成やデータの集計 を行い,成果をまとめ表 現することができる。	計算ソフトについて知識 を有し、それらの使い方
図面の表し方	決められた期限の 中でまじめに学ぼう とする姿勢や意欲が ある。		線の用法が正しく表現できている。規格に基づいた記入が正しくできている。	読み取りやすい図面とし

教科名		科目名	履	修学年	履修区分	単位数		
エ	業	情報技術基礎]	L学年	必履修	2 単位		
		社会における情報	最化の近	進展と情報の	の意義や役割を理解	解させ,情報技術に関		
目 核	票				_ / ////	モラルを身に付け、情		
		報および情報手段を活用する能力や態度を育てる。						
使用教科	書	情報技術基礎(実教		· · · · · II → /				
副教材・		情報技術検定問題第 	情報技術検定問題集(実教出版) 					
主な教具等 実験実習の場								
大阪大日り勿	7771	·	 業	 計	画			
進行		授 業 内 容		FI		標		
	(1)	産業社会と情報技術		・コンピュー	-タで扱うデータおよ	び情報とは何かについて		
4月	• 3	コンピュータの特徴,構成,	発達	理解する。				
		青報化の進展と産業社会	Š	・コンピュー	-タの特徴を人間とり	とべて理解する。		
	┥ .ィ	青報化社会の進展とモラル		・コンピュー	-タの基本構成を,コ	ロンピュータ室などの実物 ロンピュータ室などの実物		
		青報のセキュリティ管理		によって型	里解する。			
5月						られな機能と利用者が守る		
	中間	考查		・コンピュータネットワークのおもな機能と利用者が守る べき規則があることを理解する。				
		. . ハードウェア				し方について理解する。		
		データの表し方		・2値信号で演算を行う論理回路の基本について理解する。				
6月		命理回路の基礎・コンピュータの構成,処理装置の動作について理解						
0 月		処理装置の構成と動作		・入出力装置と補助記憶装置について理解する。				
		C		/\L	三二 間外間間及巨仁	· (\T/\ / 0 0		
	(3)	・プログラミングの基礎	* E					
7月	• 7	プログム言語		・プログラム	ム言語について理解す	†る。		
1) 1	• 5	プログラムのつくり方		・プログラムの作成手順,流れ図の作成について理解する。				
	• }	流れ図とアルゴリズム						
	期末	考査						
	(4)	BASIC によるプログラ	 ミンク゛	· BASIC Ø)特徴とコンピュータ	での処理方法について理		
	- .]	BASIC の特徴		解する。				
9月		分岐処理		 ・条件分岐 &	:無条件分岐について	て理解する。		
	- - /	繰返し処理			D理とその書式につい			
		記列処理		 ・大量にデ ⁻	ータをどのように処	理するかについて理解す		
10月		ファイル処理		る。				
	中間	考査						
	(2)	 コンピュータの基本操作と	 ソフトウェア					
11 🗆		コンピュータの基本操作	-	 ・ハードディ	ィスク装置,光ディス	くり装置,光磁気ディスク		
11月		ノフトウェアの基礎			いて理解する。			
12月		アフ゜リケ-ションソフトウェア				 的および種類について理		
		**************************************		解する。	/,			
				,	ェアの基本的な操作法	とを理解する。		
	期末	老杏						
l	\ <u>\</u>	·		L				

1月	(7) コンピュータネットワーク	・コンピュータによる情報交換の基礎について理解する。				
	・コンピュータネットワークの概要,構成,通	・コンピュータネットワークの意義と方法について理解す				
2月	信技術,保全	る。				
	(8) コンピュータ制御	・コンピュータ制御に必要な入出力インターフェースなど				
	·コンピュータ制御の基礎,概要	について理解する。				
		・組み込み技術の概要と特徴について理解する。				
	(9) 情報技術の活用					
	・マルチメディア	・マルチメディアの概要と情報のディジタル化などについ				
3月	・情報の収集と活用	て理解する。				
	・プ゚レゼンテーション	・情報の収集と整理、発表のためのプレゼンテーション技				
	・文書の電子化	法について理解する。				
		・各種資料や文献などを整理して利用しやすい状態で保存				
	学年末考査	する方法について理解する。				
履修者	・身近にあるコンピュータは、どん					
へ一言	一言 ・コンピュータの働きやネットワーク、インターネットなどコンピュータの活用法を 理解し、生活の中で活用していける人になろう。					

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		・コンピュータがハー	・コンピュータの発	・コンピュータおよ	・社会における情報化
		ド面でどのような特	達と利用例,情報化	びネットワークにか	の進展と情報の意義
		徴があり、ソフト面で	の進展が産業社会に	かわる基礎的な知識	や役割を理解してい
	評価の観点	どのように利用され,	及ぼす影響について	と技術が身に付いて	る。
	および趣旨	どのような基本構成	考え、情報モラルに	いる。	・情報技術に関する基
	40 & O Æ F	になっているかなど	対して適切な判断が	情報に対するセキ	礎的な知識と技術を
		に関心を持ち, 意欲的	できる。	ュリティや情報モラ	習得している。
		に取り組む態度が身		ルに対する知識と技	
		に付いている。		術が身に付いてい	
				る。	
評価に	おける比率(%)	2 5 %	25%	25%	2 5 %
評価次	定期考査 (課題考査を含む)		25%	50%	70%
よびこ	小テスト			20%	30%
	授業の取組み姿勢	50%	50%	30%	
割合	提出物	50%	25%		

	点および評価規準 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
産業社会と情報技術	・現代社会において, コンピュータがどの ような特徴があり,ど のように利用され,ど のような基本構成に なっているかなどに ついて,関心を持ち, 意欲的に学習に取り 組み,その態度は真剣 である。	・コンピュータで扱う 情報は、文字・記号り 大つでとが考察でという。 ・コンピュータの特別 を生かして、どのよう を生かして、とのよう を生かしされて 考察できる。 ・情報化社会ではある とを考察できる。 とを考察できる。		・情報といる。・情報といる。・情報を理解した。 ・情報を理解した。 ・理解したののでは、利力を理解した知識を生かれ、ののでは、対したののでは、対した知識をはいる。 ・を生いている。 ・を生いている。 ・をまれば、重ないる。
コンピュータの基本操作とソフトウェア	・キーボードやマウス の操作, OSの目的と 種類, 言語プロセッ サ, 日本語ワードプロ セッサ, 表計算ソフト ウェア, 図形処理ソフト ウェアなどに関心 を持ち, 意欲的に学習 に取り組み, その態度 は真剣である。	と停止手順の必要性 が判断できる。 ・各種記憶装置の取扱	ッサによる文字の入 力, 漢字変換, 文字の 保存と読み込み, 文書	・日本語ワードプロセッサ,表計算ソフトウェア,図形処理ソフトウェアの特徴や機能などに関する知識を身に付けている。
プログラミングの基礎	・プログラムの作成手順,流れ図などに関心を持ち,意欲的に学習に取り組もうとする態度が見られる。	・流れ図を見て、その内容を考察できる。	・各種の流れ図に関する問題について,流れ図を書く技能を修得している。	
BASICによる	ンルーチン,配列処理 によるデータの並べ 替え,グラフィックな どに関心を持ち,意欲 的に学習に取り組み,	たプログラムを読んで, どのような結果が 出力されるか考察で きる。 ・配列処理プログラム	る技能を習得している。 ・配列処理プログラム やグラフィックプロ グラムを作成する技	ルーチン, サブルーチ ンなどの用語を理解 している。 ・1次元配列, 2次元

ハードウェア	・2進数,10進数, 16進数などに関心を もっている。 ・基本論理回路とその 応用回路,エンコップ とデューダ,フリッン とデューダとカウン とデューダとかある。 ・処理装置と制心がある。 ・処理装置と関心がある。 ・処理ないで、 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。 ・型に関心がある。	・10進数の構成から, 2進数と16進数の構 成が類推できる。 ・基本論理回路を用い た応用回路について, 論理的に考察できる。	・基本論理回路を用いて、半加算回路や全加算回路、エンコーダ・デコーダ・フリップフロップなどを構成する技能を習得している。	・2進数と16進数について理解し、四則計算や変換計算ができる。・AND・OR・NOT・NAND・NOR回路の機能を理解し、それらを応用回路に利用する知識が身に付いている。・処理装置や周辺装置の基本的な知識が身に付いている。
コンピュータ	・ネットワークの概要 について関心がある。	・マルチメディア技術 については, データ圧 縮技術が不可欠であ ることが推論できる。	・LANへの不正利用 にファイアウォール とよばれるセキュリ ティシステムの必要 性が推論できる。	・データ通信システムと情報通信ネットワークの概要を理解している。・情報のディジタル化とデータ圧縮技術の概要を理解している。
コンピュータ制御	・コンピュータ制御に関心があり、このことについて意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。	的に利用する方法等 を積極的に考えよう	・アナログとディジタ ルの違いや関係等を, 具体的事例に即して 説明できる。	・コンピュータの応用 やアナログ,ディジタ ルの関連等を理解し ている。
情報技術の活用			・マルチメディアやプ レゼンテーションソ フトを利用して, 発表 することができる。	・マルチメディアやプレゼンテーション,情報の収集と活用,文書の電子化について理解している。

教科名		科目名		履修学年	履修区分	単位数	
工	業	工業化学		1 学年	必履修	3 単位	
化学物質の特性やそれ 目 標 工業化学に関する基礎的 力と態度を育てる。					機念や原理・法則など, け,実際に活用できる能		
使用教科書 工業化学1,2 (実教		姓出版)					
副教		関数電卓					
主な教							
実験実習	ョウ場別	l	業	計	画		
進行				μι		新	
1,0	(1)物	質と化学					
4月		と物質		・純物質と混合	物の違いがわかり、混	合物の分離方法が理解でき	
		·・分子・イオンと	物質	る。			
	量のあらわし方			原子,分子,	化合物の分類と元素記	号が理解できる。	
5月	・原子	の構造と電子配置		・原子の構造と	電子配置が理解できる	•	
	 物質 	fを表す分子式・	構造	・化学式から物	質が理解できる。		
	式 .	イオン式					
	中間考査						
	(2)物質の変化と量						
	・物質	の変化と化学反応	式の	・物質の状態変化が理解できる。			
6月	書き方			・化学反応式の書き方と,反応に関係する物質の量的関係が理解			
				できる。			
7月	• 化学	式と物質の量		•原子量,分子	量,式量,アボガドロ	数、モルなど量的取扱いが	
	期末考望	E		理解できる。			
	・化学	反応式と物質の量		・化学反応式と気体の体積の関係が理解できる。			
9月				・化学反応式と質量および気体の体積との関係が理解できる。			
10月	中間考査						
11月	(4)空	気と気体の性質					
	 空気 	と気体の圧力と体	積と	気体の性質に	ついて理解できる。		
12月	温度の関	係		・気体の状態方程式を活用できるか。			
	期末考査	,					
1月	(5) 水	と溶液					
	・水と	溶液およびイオン	とコ	・水の物理化学	的な性質が理解できる	•	
2月	ロイド			・溶液の濃度の	表し方,溶解度,希薄	溶液の性質が理解できる。	
3月							
	学年末考	·查 ·····					
	危険物取扱者,毒物劇物取扱者等の						
	資格取得に	二十分配慮する。					
履修者へ一言	年間学習		学年で	学習した内容	を基本として次の学	てに関連している。 3 全習に入っていきます。	

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		工業化学に関する諸	工業化学に関する	工業化学に関する	工業化学に関する基礎
		問題について関心を	諸問題の解決を目指	基礎的・基本的な知	的・基本的な知識と技術
一 一 の知 ト		もち,その改善・向上	して広い視野から自	識と技術を身に付	を身に付け,工業の発展
	評価の観点	を目指して意欲的に	ら考え,基礎的・基	け, 安全や環境に配	と環境との調和の取れた
および趣旨		取り組むとともに, 創	本的な知識と技術を	慮し,実際の仕事を	在り方や現代社会におけ
		造的、実践的な態度を	活用して適切に判断	合理的に計画し,適	る工業化学の意義や役割
		身に付けている。	し、創意工夫する能		を理解している。
			力を身に付けている	に, その成果を的確	
				に表現する。	
評価に:	おける比率 (%)	25%	25%	25%	2 5 %
<u>⇒π</u>	定期考査		0.50/	- 0.0/	- 0.0/
評 価評	(課題考査を含む)		2 5 %	5 0 %	7 0 %
資料および	小テスト			20%	30%
	授業の取組み姿勢	5 0 %	5 0 %	3 0 %	
	提出物	5 0 %	2 5 %		

〒1川マノ街儿	半価の観点および評価規準							
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解				
物質と化学	物質とそれを構成する基本的な粒子である原子・分子・イオンなどの概念とそれを表すための元素記号および化学式の学習に自ら学ぶ意欲や態度がみられる。	物質とそれを構成する 基本的な粒子である原 子・分子・イオンなどの 概念とそれを表すための 元素記号および化学式の 知識を活用して適切に判 断することができる。	物質とそれを構成する基本的な粒子でオオンな原子・分子・イオンなどの概念とそれを表すための元素記号およまび化学式の学習の成果を表現することができる。	物質とそれを構成する基本的な粒子である原子・分子・イオンなどの概念とそれを表すための元素記号および化学式について理解している。				
物質の変化と量	量のあらわし方の学習	物質と物質の変化,原子・分子・イオンと物質量のあらわし方の知識を活用して適切に判断することができる。		物質と物質の変化,原子・分子・イオンと物質量のあらわし方について理解している。				
化学反応式と	化学反応式の書き方と 反応に関係する物質の 体積と質量の量的関係 の学習に自ら学ぶ意欲 や態度がみられる。	化学反応式の書き方と 反応に関係する物質の体 積と質量の量的関係の知 識を活用して適切に判断 することができる。	と反応に関係する物質 の体積と質量の量的関	質量の量的関係について理				
空気と気体の	空気の組成と気体の 性質,気体の圧力・体 積・温度の関係,の学習 に自ら学ぶ意欲や態度 がみられる。	温度の関係,の知識を活	空気の組成と気体の 性質,気体の圧力・体 積・温度の関係,の学 習の成果を表現するこ とができる。	空気の組成と気体の性質,気体の圧力・体積・温度の関係,について理解している。				
水と溶液	との関係, コロイド溶液 の性質の学習に自ら学	水の物理化学的特性, 溶液濃度のあらわし方・ 溶解度,イオンと水との 関係,コロイド溶液の性 質の知識を活用して適切 に判断することができ る。	水の物理化学的特性,溶液濃度のあらわし方・溶解度,イオンと水との関係,コロイド溶液の性質の学習の成果を表現することができる。	液濃度のあらわし方・溶解 度,イオンと水との関係, コロイド溶液の性質につい				

教	<u></u> 科名	科目名	履修	学年	履修区分	 単位数			
工	II II 業	化学工学		, 学年	必履修	2 単位			
目	標	工業の各分野にお 活用する能力と態度 り扱い,単位の換算	ける事象 を育てる について とともに	象の数的処理に関する知識と技術を習得させ,実際にる。化学工学科では,量の単位や誤差などの数値の取て学習する。化学工場の機械・装置及びプラントの成に,それらの運転,操作,保守及び管理などに必要なさせる。					
使用教	数科書	化学工学(実教出版	反)						
副教 主な教		関数電卓							
実験実習	の場所								
	T	授	業	計	画				
進行					B	標			
4月						をに、工業技術とのかかわり 手用できるようにする。			
5月	・四則計算,関数計算,実務計算5月中間考査					技術検定3級程度の問題がで			
6月	(2)化	学工業と化学工場		・化学反応を利用して製品をつくるという化学工場の基本的な性質を理解する。					
7月		質収支 位と単位換算 効数字		・単位と単位換算が専門分野全般にわたり必要である ことを理解する。また、基本的な単位換算ができる ようになる。					
		 質の流れと物質収支 質の流れ		・質量保存の法則・物質不滅の法則を利用して,化学工業のプロセスにおける量的関係を理解する。また,連立方					
9月	, _	学変化をともなわない! 学変化をともなう物質		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,					
10月	中間考査	12/11/20 0 0 7 1/20		(- 3, 2)					
11月	(4)液	体と気体の流れ 体の取り扱い				・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
	・気 期末考査	体の取り扱い		よる装置	置類の腐食の問題につ	いて学ぶ。			
12月 1月		内の液体・気体の流れ		 ・質量保7	 字の法則を理解し,物	2質の収支関係を学ぶ。			
2月	期末考査				場におけるプロセス <i>0</i>)流れの中の物質収支を理解			
履修者へ一言									

「科目全体の観点別評価規準」および「観点別の成績評価の方法」

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
		・工業の各分野におけ		7.7	・工業の各分野におけ
		る数理処理について	l	ける数理処理につい	る数理処理について
		関心を持ち,その改		て基礎的・基本的な	基礎的・基本的な知識
		善・向上を目指して意		知識と技術を身に付	と技術を身に付け,工
	評価の観点	欲的に取り組む。	る能力を身に付けてい	け、実際の仕事を合	業事象のほとんどが
	および趣旨	・「化学製品の製造に	F 11 32 Mar - Mar - 11 - 11 - 11 - 11 - 11 - 11 - 11 -	理的に計画し、適切	数理処理で有効な結
		関する基礎的な知識		· -	果を得られる意義や
		と技術」に興味を持		,	役割を理解している。
		ち、意欲的にそれらを	術」に問題を見出し、総	に表現する。	
		活用する。	合的・科学的に判断でき		
			る。		
評価に:	おける比率 (%)	2 5 %	25%	25%	25%
評	定期考査		0.50/	F 0.0/	7.00/
価 資 価	(課題考査を含む)		25%	5 0 %	7 0 %
価資料および評価の割合	小テスト			20%	3 0 %
よる合	授業の取組み姿勢	5 0 %	5 0 %	30%	
O,	提出物	5 0 %	25%		

評価の	観点および評価規準			
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
関数電卓の取り扱い方法	四則計算,関数計算,実 務計算について自主的に学 習し努力している。	四則計算,関数計算,実務 計算について自主的に判断 をすることができる。	四則計算,関数計算,実 務計算について迅速に操 作ができる。	四則計算,関数計算,実務計算について関数電卓の取り扱いが理解できている。
化学工業と化学工場	化学工業とその工場について、興味、関心を持ち、 化学工学の役割を理解しようとする。 ・化学工場の構成や、化学 プラントの機械と装置に興 味をもち、化学工学を意欲 的に探究しようとする	工業製品における化学工業の役割が具体例をふまえて考察できる。 ・化学工場における設備,操作の役割が,具体例をふまえて考察できる。 ・化学工場の運営には,化学工学が必要なことが考察できる。	・石油化学工業と自動車工業の比較により,装置工業	・化学工業,化学工場,化学工学について基本的な概念や区別を理解できる。 ・おもな単位操作を理解し、知識を身に付けている。
物質収支	・量の取り扱いとしての国際単位系と有効数字に関心を持ち、その扱いを探求しようとする。	・単位,有効数字や連立方程 式などの既習の知識を収支 計算の中で的確に判断し使 用することができる	・単位換算率表から,単位 変換を容易に行うことが できる。	・国際単位系、単位の換算や有 効数字を理解しているととも に、知識を身に付けている。
物質の流れと	・物質収支およびエネルギー収支を理解しようとする とともに、意欲的にそれら を探求しようとする。	・個々の装置やプラントに出入りする物質およびエネルギーの量の関係に、質量保存の法則を適用することが考察できる。	・個々の装置の状況をフローシートに表現することができ、また、フローシートより個々の状況を読みとることができる。	・物質収支の意味を理解し、知識を身に付けている。 ・質量保存の法則を理解すると同時に、様々なプロセスの物質収支の量的関係を求める知識を身に付けている。
液体と気体の流れ	・液体と気体の取り扱いに 関心を持ち、その貯蔵、輸送について意欲的に探求しようとする。 ・流れのエネルギー収支に ついて関心を持ち、ベルヌーイの定理の演習に意欲を 持って取り組む。 ・流量測定について、観察、 実験を行うとともに、実際 に活用する能力を身に付け ようとする。	・液体や気体の貯槽や配管部品,輸送機の種類を状況に応じて選択できる。 ・管径と流速,流量の関係から,適切な管径の配管を選択できる。 ・その場に応じた流量計を正しく選択することできる。	・レイノルズ数により、 流体の流れの状態を、層 流と乱流に判別すること ができる。 ・オリフィス流量計とピトー管の操作、測定法を 収得し、流量を求めることができる。 ・管継手、バルブ、コッ クなどの名称がわかる。 ・配管の管径を選定する ことができる。	・腐食の意味を理解し、防食の知識を身に付けている。 ・連続の式と、ベルヌーイの定理を理解し、流体を扱う知識を身に付けている。 ・レイノルズ数とファニングの式を理解し、管内の圧力損失の知識を身に付けている。



特別活動

	領域				履修学年		指導時間		担当者				
		寺別活 学校行			1学年	7	7 単位時間		各分掌				
ŀ	1	標	望まし社会の一	員として	てよりよい生活	を築こ	うとする自主的,	実践的	生の伸長を図り,集団や りな態度を育てるととも を生かす能力を養う。				
		(1)儀3	式的行事				新り目を付け, 対けとなるようだ		清新な気分を味わい, を行うこと。				
(2)学芸的行事 平素の学習活動の成果を総合的に生かし、その向上の意欲を一層 活動 ような活動を行うこと。													
大	容	ľ .	東安全 育的行事										
		(4)旅名 ・集団 行事	团宿泊的	平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を利むことができるような活動を行うこと。									
		` ´	労生産 上的行事	決定な	どに資する体験	が得ら		ととも	美観の形成や進路の選択 かに,ボランティア活動 動を行うこと。				
評値	価の	関心	ン・意欲・	態度	思考・判	 析	技能・表現	l	知識・理解				
勧	点		(A)		(B)		(C)		(D)				
	(1)	し互い し, i	ハに祝い 喜びを分 fしい生活	,励ま かち合 への希	発展のために や責任感を持 団や社会の一	使命感 ち,集 員とし	しての連帯感 め、厳粛で清新 分を味わうとま	を深 fな気 kに,	行事の意義やねらい を理解し、厳粛で清新 な雰囲気を保つこと の大切さや、その場に ふさわしい態度と行				
評		に協力				いる。			動の在り方がわかる。				
価	(2)) 平素の学習成果を総学校生活を楽 合的に生かし、自己のかなものにす 成長を振り返り、自己に、よりよい				るため ものを	工夫して表現し いに努力を認め	, 互 o合い	の計画,各自の役割に ついて理解し,自分の				
規		欲を打		動をし	いものや優れるを鑑賞する方法	たもの 法など	よりよいものを	と作り 貧した	目標を達成するため の活動方法や発表の 仕方などがわかる。				
準					いる。		る。						

	(3)	心身の発達や健康、安	自他の生命を尊重	心身の発達や健康の	心身の健康な保持増
		全な行動の大切さに	し、心身の健康や安	保持増進に積極的に	進に必要な生活の仕
		ついて深く関心を持	全を保持するために	努め,自他の安全の	方について知識を深
		つとともに, 運動に親	必要な生活の仕方,	確保や規律ある集団	め, 進んで運動する意
		しみ、健康で安全な生	体力の向上などにつ	行動を行う技能など	義や運動に親しむ方
		活の実現に努めよう	いて考え、判断して	を身に付けている。	法を理解している。
		としている。	いる。		
	(4)	平素と異なる生活環	豊かな自然や文化に	望ましい集団行動を	豊かな自然や文化に
		境の中で、自然や文化	触れながら,学習活	通して、集団生活の	触れ,見聞を広げると
		などに関心を持ち、人	動を充実させる方法	決まりや社会生活上	ともに,集団生活に必
		と協力をして集団生	在り方や人間として	などを身に付けると	徳を知り、望ましい集
		活を送ろうとしてい	の生き方について考	ともに、幅広い人間	団活動の在り方を理
		る。	え,判断している。	関係を築くことがで	解している。
				きる。	
	(5)	将来の社会人として	勤労生産やボランテ	職業や進路の選択に	学校内外での勤労生
		の生き方や社会奉仕	ィア精神を養う体験	役立つ勤労観や職業	産やボランティア活
		に関心を持ち, 創造す	的な活動を経験しな	観,ボランティア活	動などを通して、勤労
		る喜びや共に生きる	がら,勤労価値や社	動に必要な社会奉仕	の尊さや意義、社会奉
		喜びを味わいながら,	会奉仕の精神, 人間	の態度などを身に付	仕の精神などを認識
		勤労生産活動に進ん	としての生き方につ	け、学校や地域社会	し、具体的な活動の仕
		で取り組もうとして	いて深く考えてい	の活動に生かすこと	方を理解している。
		いる。	る。	ができる。	
37°		・行動観察	• 行動観察	行動観察	• 行動観察
	画の 法	・行動観察・自己評価・感想文	・行動観察 ・自己評価	・行動観察 ・自己評価	・行動観察・自己評価

			指		導		計	画	
月	活動内容	時数	内容	評	価の	り観	点	主な学習達成目標	評価方法
71	1030 10			Α	В	С	D	工法,日廷从口水	11 1四/5 1五
4	入学式	1	(1)	0				厳粛な雰囲気を尊重し, 新しい	行動観察
								生活への希望や意欲を持って	
								行動することができる。	
	オリエンテーション	2	(2)				0	自分の目標を達成するため、本	行動観察
								校の教育内容を理解すること	
								ができる。	
	離退任式	2	(1)	0				行事の意義やねらいを理解し、	行動観察
								その場にふさわしい態度や行	
								動がとれる。	

	健康診断	4	(3)	0			自己の健康に関する認識を深行動観察
							め、健康生活が実践できる。
	集団宿泊訓練	1 6	(4)		0		集団行動を通して、集団生活の行動観察
							決まりを身に付けるとともに, 自己評価
							幅広い人間関係を築くことが
							できる。
5	健康診断	1	(3)	0			自己の健康に関する認識を深行動観察
							め、健康生活が実践できる。
	生徒朝礼	1	(1)	0			集団としての所属意識を持と行動観察
							うとしている。
6	防災訓練	1	(3)	0			防災訓練の意義を理解し、自他行動観察
							の安全確保や規律ある集団行
							動がとれる。
	犯罪防止教室	2	(3)			0	行事の意義やねらいを理解し, 行動観察
							ねらい達成のための行動がで感想文
							きる。講演内容を理解すること
							ができる。
7	大掃除	0.5	(5)	0			清掃活動に積極的に参加する行動観察
ļ							ことができる。
	終業式	1	(1)	0			行事の意義やねらいを理解し, 行動観察
							その場にふさわしい態度や行
							動がとれる。
8	大掃除	0.5	(5)	0			清掃活動に積極的に参加する行動観察
]							ことができる。
	始業式	1	(1)	0			行事の意義やねらいを理解し, 行動観察
							その場にふさわしい態度や行
							動がとれる。
9	生徒朝礼	1	(1)	0			集団としての所属意識を持と行動観察
							うとしている。
10	大掃除	0.5	(5)	0			清掃活動に積極的に参加する行動観察
							ことができる。
	体育祭	1 4	(3)	0	0		健康の保持増進に係わって、自行動観察
							他の安全の確保や規律ある集
							団行動を行う技能などを身に
							付けている。
	生徒朝礼	1	(1)	0			集団としての所属意識を持と行動観察
							うとしている。
11	大掃除	0.5	(5)	0			清掃活動に積極的に参加する行動観察
							ことができる。

	広工祭	8	(2)	0	0		学校生活を楽しく豊かなもの行動観察 にするために、よりよいものを自己評価 創り出す方法について深く考 えている。
1 2	大掃除	0.5	(5)	0			清掃活動に積極的に参加する行動観察 ことができる。
	終業式	1	(1)	0			行事の意義やねらいを理解し、行動観察 その場にふさわしい態度や行 動がとれる。
1	大掃除	0.5	(5)	0			清掃活動に積極的に参加する行動観察 ことができる。
	始業式	1	(1)	0			行事の意義やねらいを理解し、行動観察 その場にふさわしい態度や行 動がとれる。
2	生徒朝礼	1	(1)	0			集団としての所属意識を持と行動観察 うとしている。
	マラソン大会	6	(3)	0			運動について深く関心を持つ行動観察 とともに、健康と安全に努めよ うとしている。
	課題研究発表会	4	(2)	0		(②行事のねらいや進行の計画,各行動観察 自の役割について理解し,自分感想文 の目標を達成するための活動 方法や発表の仕方などがわか る。
	進路体験発表会・進 路講演会	2		0			進路達成の体験を聞き、勤労生行動観察 産活動に進んで取り組もうと感想文 している。
3	卒業式	1	(1)	0			厳粛な雰囲気を尊重するとと行動観察 もに、行事の意義を理解し、卒 業生への感謝と喜びの気持ち を態度に表すことができる。
	大掃除	0.5	(5)	0			清掃活動に積極的に参加する行動観察 ことができる。
	終業式	1	(1)	0			行事の意義やねらいを理解し、行動観察 その場にふさわしい態度や行 動がとれる。

領域履修学年		履修学年	‡	旨導時間		担当者					
· '	寺別活動 注徒会活動)	第1学年	7 2	2 単位時間		生徒会					
目	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団標 社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う										
活動内容	关、以音问工艺图句问题,工作少相问题に 2000年和期正代例 9 句记题,于仅1 事 4 9 9										
評価の 観点	関心・意欲・fi (A)	態度 思考・半 (B)	川断	技能・表現 (C)		知識・理解 (D)					
評価規準	学校生活の充 や改善向上をは め、生徒会の様 な活動に積極的 参加し、全校的 視野に立って、 己の役割を果た うとしている。	での自覚を持 校生活の改善 だをめざし、 の諸活動の在 自 参加の仕方に	校生活の改善向上などをめざし、生徒会の諸活動の在り方や参加の仕方について考え、判断している。		活活的協	生徒会活動の意義 や自分の果たす役割 を把握し、委員会活動などの充実向上の ための具体的方策に ついて理解してい る。					
評価の 方法	・行動観察 ・自己評価 ・感想文	・行動観察 ・自己評価		・行動観察 ・自己評価		・行動観察 ・自己評価					

	lt.			- ı	_			
		请	F	計	画			
月	 活動内容	時数		評価の	つ観点		 主な学習達成目標	 評価方法
刀	百期四分		Α	В	С	D	土な子自建成日標	計画の仏
4	対面式・クラブ紹介	4	\bigcirc			\bigcirc	生徒会活動について理解を	行動観察
							し、自己の役割との関連を	
							意識している。	
	生徒総会	1	\bigcirc	0			生徒会の活動や予算につい	行動観察
							て理解し、自分なりの判断	
							ができる。	
	代議員会	1	0				代議員としての役割を責任	行動観察
							を持って果たしている。	
	保健委員会	1	0			•	保健委員としての役割を責	行動観察
							任を持って果たしている。	
	美化委員会	1	0			•	美化委員としての役割を責	行動観察
							任を持って果たしている。	

5	壮行式	1	0				選手として、学校の代表の	行動観察
	12117						自覚を持っている。および	1 3 293 19023
							応援する生徒として、集団	
							意識を高めようとしてい	
							る。	
	保健委員会	1	0				保健委員としての役割を責	行動観察
	,,,,,,,,		_				任を持って果たしている。	
	美化委員会	1	0				美化委員としての役割を責	行動観察
							任を持って果たしている。	
6	体育委員会	0.5	0				クラスマッチの運営に自主	行動観察
							的・積極的に関わっている。	
	保健委員会	1	0				保健委員としての役割を責	行動観察
							任を持って果たしている。	
	美化委員会	1	0				美化委員としての役割を責	行動観察
							任を持って果たしている。	
7	クラスマッチ	1 2	0				大会に積極的に参加し、集	行動観察
							団意識を高めている。	
	保健委員会	1	0				保健委員としての役割を責	行動観察
							任を持って果たしている。	
	美化委員会	1	0				美化委員としての役割を責	行動観察
							任を持って果たしている。	
8								
9	代議員会	1	0				代議員としての役割を責任	行動観察
							を持って果たしたいる。	
	生徒会選挙	1	0	0			生徒会活動の意義を理解	行動観察
							し、適切な判断をしている。	
	体育委員会	1	0					行動観察
							任を持って果たしている。	
	保健委員会	1	0				保健委員としての役割を責	行動観察
	V " ~ ¬ A						任を持って果たしている。	/ / L
	美化委員会	1	0				美化委員としての役割を責	行動観察
1.0	11.———————————————————————————————————						任を持って果たしている。	1-31 80 6
1 0	体育祭	6	0				行事に積極的に参加し集団	行期観祭
	加牌 委具人	-1					意識を高めている。	公 到知
	保健委員会	1	0				保健委員としての役割を責	仃リ観祭
	羊ル 禾昌△	1	<u> </u>				任を持って果たしている。 美化委員としての役割を責	行乱知 宛
	美化委員会	1	0				実化安貞としての役割を貞 任を持って果たしている。	1]
	文化委員会	1	0			0	広工祭の運営にあたり、学	行 新 紹 宏
	人化安貝云	1					松全体やクラスのリーダー	11 期 既 宗
							としての役割を果たしてい	
							る。	
1 1	広工祭	8	0		0		催し物の実施や参加を通し	行動組宏
	<i>出土</i> 不						て自主性や協調性を高めよ	口到既宗
							うとしている。	
	体育委員会	0.5	0				体育委員としての役割を責	行動組宏
	计月女只工	0.5					任を持って果たしている。	口勁既宗
	保健委員会	1	0				保健委員としての役割を責	行動観察
	小 屋女只五	1	9				任を持って果たしている。	口劝既宗
ı		1		1	l		下で11/2 (火につている。	

	美化委員会	1	0	美化委員としての役割を責 行動観察 任を持って果たしている。
1 2	クラスマッチ	1 2	©	クラスマッチに積極的に参行動観察 加し,集団意識を高めてい る。
	保健委員会	1	0	保健委員としての役割を責 行動観察 任を持って果たしている。
	美化委員会	1	0	美化委員としての役割を責 行動観察 任を持って果たしている。
1	保健委員会	1	0	保健委員としての役割を責 行動観察 任を持って果たしている。
	美化委員会	1	0	美化委員としての役割を責 行動観察 任を持って果たしている。
2	保健委員会	1	0	保健委員としての役割を責 行動観察 任を持って果たしている。
	美化委員会	1	0	美化委員としての役割を責 行動観察 任を持って果たしている。
3	保健委員会	1	0	保健委員としての役割を責 行動観察 任を持って果たしている。
	美化委員会	1	0	美化委員としての役割を責 行動観察 任を持って果たしている。

領域			履修学年	指			担当者						
特別活動			第1学年	3.5	5単位時間	HR担任							
(ホームルーム活動)			W1 ++	0.0	→ 〒40 141		TINJEJL						
	∄	標社会の一覧	員としてよりよい生	動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や よりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるととも をり方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。									
		(1)ホームルーム	や学ホームル	ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決、ホーム									
				ルーム内の組織づくりと自主的な活動、学校における多様な集									
		に関すること。		団の生活の向上など									
		(2)個人及び社会員としての在り											
活動		方、健康や安全											
		ること。		ボランティア活動の意義の理解、国際理解と国際交流など、心									
卢	容			身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な									
İ			生活態度や	生活態度や習慣の確立など									
		(3)学業生活の充	· · · ·	学ぶことの意義の理解、主体的な学習態度の確立と学校図書									
		将来の生き方と											
		適切な選択決定 ること。		↑ 報の活用,望ましい職業観・勤労観の確立,主体的な進路の選 択決定と将来設計など									
[]	価の	関心・意欲・態			. <u>C</u> 技能・表現	現	知識・理解						
	点	(A)	(B)	11-31-	(C)) L	(D)						
	(1)	ホームルーム	内のホームルーム	や学校	話し合いや係	の活動	ホームルー	-ム内の組					
		組織づくりや	自主の一員として	自己の方	などで自己の	考えを	織づくりや	自主活動					
			学校役割を自覚し	I									
			な集徒の意見を尊	I									
			を目がら,ホーム) と協学校における										
		1	と励子校にねりる 的にの諸問題の解				[·						
評			していて考え、判										
РΤ		いる。	る。				12.2.17.77	• • •					
	(2)		生き自己の課題を	見出し,化	固人及び社会	に関わ	個人及び社	:会の一員					
価		方について自分	覚とよりよい解決	その方法	る諸問題を自	分自身	として必要	i とされる					
" '		F	身のについて考え、										
			進に尊重に基づく なが、サスが 麻 ぬま										
規			や社生活態度や責 的に生き方につい	I									
			うと判断している。			C C 1/3		(1,0)					
進		している。											
毕	(3)	-	学ぶ自己の将来に	二希望を	主体的に学び	方を身	学ぶこと, 作	動くことの					
		こと,働くこと	など抱き,その実現	現に向けれ	こ付け、学習や	進路選	意義, 進路	選択に必要					
		· ·	意欲て将来の生活	I									
			のよ考え、今学ぶっ										
			極的や自己の生き					とを埋解し					
		に伸はそうといる。	していて考え、判り る。	I	たに生かすこ	C 1/3 C	(('0)						
		・行動観察	。 ・行動観察		<u>: つ。</u> ・行動観察		・行動観察						
評価の		・自己評価	・自己評価		・自己評価		・自己評価						
方法		• 感想文											

			指		導		計	 画	
п	江			_					
月	活動的谷 	一时级	内容	Α	В	С	D	主な学習達成目標 評価	5方法
4	オリエンテーション	1	(1)		0		0	学校の一員としての自覚を持行動	観察
								つための方法を考えることが	
								できる。	
	集団宿泊訓練	2	(1)	0		0		自己管理とともに他の生徒と行動	観察
								協力をして行動できる。 自己	
5	広工祭	2	(1)	0				テーマに即し他の生徒と協力行動	観察
								をして活動ができる。 感想	-
	資格取得について	1	(3)	0				学ぶこと,働くことなどに関心行動	観察
								を持ち、積極的に知識・技能を	
			()					伸ばそうとしている。	
6	進路学習のために	1	(3)		0			進路決定に向けての問題点を自己	評価
	/	_	(0)					チェックすることができる。	
	保健	1	(2)				0	健康教育ついて正しく理解し、感想	文
								心身共に健康な生活が送れる	
								よう自己管理することができ	
<u>7</u>	 1 学期を終えて	1	(3)		0			る。 1 学期を振り返り、自己の生き行動	知安
l '	1子別を於んし	1	(3)					T子別を振り返り、日口の生さ T動 方を考えている。	
8	2学期を迎えて	1	(3)		0			フを与えている。 2学期を迎えるにあたり, 自己行動	
	2 于朔 2 足人 (1	(3)					の生き方を考えている。 「感想」	
9	進路自己理解	1	(3)				<u></u>	自己理解を深めることができ自己	
		_	(0)					る。	н і Ірці
Ì	体育祭について	1	(1)			0		体育競技について活動を分担行動	観察
	11 132411 = 2 .		(1)					できる技能を身に付けること	19071
								ができる。	
Ì	体育祭に向けて	2	(1)	0				体育祭に向けて他の生徒と協行動	観察
								力をして活動ができる。	
10	面接指導	1	(3)	0				課題試験をもとに面接指導を行動	観察
								受ける中で、中間試験への意識自己	評価
								付けができる。	
	進路設計	1	(3)		0			将来設計について考えること自己	評価
ļ								ができる。	
	頭髮指導	1	(2)	0				社会生活における役割の中で行動	観察
								自己の身だしなみを意識でき	
ŀ	上 → ₩ /#:	0		0				る。 	4 □ 4 →
	広工祭準備	2		0				ホームルームにおける協調性行動ない。	観祭
1 1	広工祭について	1	(1)	0				を身に付けることができる。 テーマに即し他の生徒と協力行動	知宏
11	ム上宗について	1	(1)	0				アーマに即し他の生徒と協力打動をして活動ができる。 感想	
ł	個人面接	2	(3)	0				中間試験結果及びコース選択行動	
	個八田1安	2	(3)					について、将来設計に向けての自己	
								意識付けができる。	н і ІІШ
l	進路研究	1	(3)			0		将来設計に向けての意識付け行動	翻察
	<u>~=</u> ⊭H ₱I ノu	1						や目標を持つことができる。	叫不
12	個人面接	2						コース選択希望調査をとおし、行動	観察
								期末試験の取り組みができる。	. > 4 / 4 /
I	L	<u> </u>	<u> </u>		l	l	l	1947 178 MOVE SAIV 1 HETE 1/14 CC 00	

	資格と免許	1	(3)			0	職業研究の方法を学び、理解で自己評価 きる。
	2学期を終えて	1	(3)		0		2学期を振り返り、自己の生き行動観察 方を考えている。 感想文
1	3学期を迎えて	1	(3)		0		3学期を迎えるにあたり,自己行動観察 の生き方を考えてる。 感想文
	個人面接	1	(3)	0			個人面接をとおし、自己理解が行動観察 できるとともに、不認定科目へ の取組みができる。
2	体験学習の意義	1	(3)	0			望ましい職業観や勤労観を育行動観察 むことができる。 自己評価
	食育について	1	(2)	0			自分の食生活の課題を意識で行動観察 きる。 感想文
	頭髪指導	1	(2)	0			社会生活における役割の中で行動観察 自己の身だしなみを意識できる。
3	2学年進級に向けて	1	(1)	0			ホームルーム活動のまとめを自己評価 する中で次年度の活動につい て自分なりに考えることがで きる。
	3学期を終えて	1	(3)		0		3学期を振り返り、自己の生き 行動観察 方を考えている。 感想文